

平成12年度〔第12-K2480-01号〕
二級河川巴川（麻機遊水地）総合治水対策特定
河川工事に伴う環境調査業務委託（その1）

報 告 書

平成13年3月

静岡県静岡土木事務所
吉田測量設計株式会社

平成12年度〔第12-K2480-01号〕
二級河川巴川（麻機遊水地）総合治水対策特定
河川工事に伴う環境調査業務委託（その1）

報 告 書

平成13年3月

静岡県静岡土木事務所
吉田測量設計株式会社



提供：静岡新聞社・SBS静岡放送
平成11年3月撮影

はじめに

本報告書は二級河川巴川（麻機遊水地）総合治水対策特定河川工事に伴う環境調査業務をとりまとめたものである。

調査は将来公園となる箇所（箇所）の植物、鳥類、陸上昆虫類等を対象に、現地調査、文献調査を行ない、生育・生息状況を確認し、工事施工に伴い保護に努めるべき基礎資料の作成を目的としている。

植物調査は平成8年から行われており今回で5回目となるが、鳥類、陸上昆虫類等は初めてである。なお、本調査に合せ両生類・爬虫類と工事施工に伴い確認された魚介類等も付記することにした。

本書の構成は植物、鳥類、陸上昆虫類等、両生類・爬虫類は現地調査・評価・考察の順に掲載したが、魚介類等は掘削現場で確認された種のみを挙げている。なお、調査表は河川マニュアルの整理様式を参考にした。

調査で特に留意した点

- ・ 治水工事の進捗に伴って自然環境の醸成も顕著である。この状況に深い関心を寄せ、観察・調査を行っている専門分野の先生方にご協力いただき貴重な資料の提供・評価・考察などの助言をいただいた。
- ・ 調査対象地区はA・B・Cの3地区に区分し、現地調査に合せ、その地区の特性を捉え評価・考察を行った。
- ・ 季節的な条件に左右される陸上昆虫類等はその地区の状況から生息または生息が予測される昆虫類を挙げている。
- ・ 植物調査では「その他」に調査対象地区と連続し将来公園となる箇所をD-1～D-5地区に設定し、また鳥類、陸上昆虫類等、両生類・爬虫類については主に治水工事が行われ概成している場所を対象にD-1～D-5地区とし、D-6地区は植物調査のD-2～D-4地区に設定した。

調査の結果

植物調査

植生調査では1996年の第1回・第2回の調査に比べ現在では群落構成の多様化と背丈の低い植物群落に移行していること。また、植物相調査では特定種（レッドデータブック掲載種）が20種、珍しい植物が26種確認されていることも明らかになった。特に特定種のタコノアシとミズアオイは大小の群落を形成している。

本調査では貴重な植物ばかりでなく植物相も増加傾向にあつて、県下を代表する貴重な湿地が形成しつつあると言える。

鳥類調査

本調査は1983年から行われており本年までに200種が確認されている。環境別では水鳥が90種、山野の鳥が110種で、山野の鳥にとっても生息の場となっており、渡りによる分類ではわず

かに 28 種が留鳥で、ほとんどの野鳥が季節の変化に合わせて利用している。レッドデータブック掲載種と稀少鳥はコウノトリなど 44 種が確認されている。このことから静岡市内は地理的な特性から池沼が少なく、遊水地は野鳥にとっても貴重な生息地であると言える。

・ 陸上昆虫類等調査

この分野では非活動期にあたり現地調査での個体の確認は難しく、各地区の環境から推測される昆虫類と最近観察された昆虫類で、一生を植物に依存する蝶類と水環境を必要とするトンボ類等 33 種を挙げた。

地区の中で A 地区、B 地区ともにトンボ類、蝶類の生息地として期待され、その他の地区でも工事の進捗に合せ、昆虫類にとっても貴重な生息地が形成されつつあって、特にトンボ等飛翔できる昆虫類は周辺の丘陵地と深い関わりをもつものが多く両方の環境を合わせて観察していく必要がある。

・ 両生類・爬虫類調査

カエル類、カメ類、ヘビ類は湿地の生態系には欠くことのできない生きものである。他の調査と同様に各地区の環境から生息が予測されるものを挙げた。特に森繁雄氏より遊水地の環境づくりと整備方法への提言等をお寄せいただいたが、その中で両生類の環境づくりの指標となる種がニホンアカガエルとモリアオガエルであることが指摘され、『カメ類は自然状態では生息密度も高く、さまざまな動植物と関係をもち、その地域の生物相において非常に重要な役割を演じている動物である。また、貴重な存在であるイシガメとクサガメに配慮した環境づくりを行うことが両生類を含めた全生物相を保全し、種の多様を維持することにつながる。』ことなどが提言された。

・ 魚介類等の確認

確認作業の結果、掘削工事が進み、湛水面積の増加とともに、種と個体数とも増加しているが、なかでも外来種の増加が著しく水中生態系が危惧される状況にある。このため、掘削工事に合わせた水生動物の調査・研究を行ない、その対策の一つとして外来種の駆除が望まれる。

・ 麻機遊水地の方向性

遊水地という一つの空間が南沼上の丘陵地をはじめとする周辺の自然と深く連携し、それぞれの生きものたちがすみわけていることが明らかとなってきた。このことから麻機遊水地の方向性は植物をはじめとする総合的な自然環境の検討が必要な時期にきていると考えられる。

・ 調査対象地区への対応

A・B・Cの3地区のうち特に、A・B地区は植物をはじめ鳥類、陸上昆虫類等（両生類・爬虫類）にとっても絶好の生育・生息地になっていて、工事による改変が計画される場合、改変される範囲、その程度等さらに検討する必要がある。

先生方には大変ご多忙のなか現地調査、貴重な資料の提供や適切な助言をいただきましたことを深謝申し上げます。

(本文中先生方の敬称は略させていただきました。)

目 次

	頁
はじめに	
1. 調査の目的	1
2. 調査対象地区	"
3. 調査内容	2
(1) 植物調査	"
(2) 鳥類調査	"
(3) 陸上昆虫類等調査	"
(4) 両生類・爬虫類・(哺乳類) 調査ー調査項目外ー	"
(5) 魚介類等の確認ー調査項目外ー	"
4. 作業フロー	3
5. 植物調査	4
(1) 調査対象地区	"
(2) 調査の手順	"
(3) 現地調査計画	6
(4) 現地調査結果のとりまとめ	"
(5) 評価・考察	7
(移植方法の事例)	17
(6) 調査結果	18
植物特定種・珍しい植物一覧表	"
特定種生育場所平面図	21
植生図	29
植物現地調査結果一覧表	30
植物既往文献調査表	34
植物経年出現状況一覧表	39
植物出現種目録	49
植物相調査票1	53
植物相調査票2	63
植物同定文献調査表	64
6. 鳥類調査	65
(1) 調査対象地区	"
(2) 調査の手順	"
(3) 現地調査計画	67
(4) 現地調査結果のとりまとめ	"
(5) 評価・考察	68
(6) 調査結果	77
鳥類特定種・稀少鳥・迷鳥一覧表	"

	頁
鳥類生息範囲平面図	94
鳥類既往文献調査表	95
麻機遊水地周辺の鳥類 伴野正志	96
鳥類経年出現状況一覧表	98
鳥類出現種目録	104
7. 陸上昆虫類等調査	108
(1) 調査対象地区	"
(2) 調査の手順	"
(3) 現地調査計画	110
(4) 現地調査結果のとりまとめ	"
(5) 評価・考察	111
(6) 調査結果	120
陸上昆虫類等特定種一覧表	"
陸上昆虫類等生息範囲平面図	122
陸上昆虫類等既往文献調査表	123
陸上昆虫類等経年出現状況一覧表	124
陸上昆虫類等出現種目録	129
陸上昆虫類等同定文献調査表	130
8. 両生類・爬虫類・(哺乳類)調査—調査項目外—	131
(1) 調査対象地区	"
(2) 調査の手順	"
(3) 現地調査計画	133
(4) 現地調査結果のとりまとめ	"
(5) 評価・考察	134
(6) 調査結果	142
両生類・爬虫類・(哺乳類)既往文献調査表	"
麻機遊水地(第3工区)の両生類・爬虫類について 森繁雄の提言	143
両生類・爬虫類・(哺乳類)出現種目録	150
9. 魚介類等の確認—調査項目外—	151
(1) 確認作業対象地区	"
(2) 確認作業	"
(3) 確認された魚介類等	"
(4) 評価・考察	152
(5) 参考資料	155
魚介類等特定種一覧表	"
魚介類等既往文献調査表	160
魚介類等経年出現状況一覧表(魚類)	162

	頁
魚介類等経年出現状況一覧表（エビ・カニ・貝類）	163
魚介類等出現種目録	164
魚介類等同定文献調査表	165
10. 総合評価・考察	166
(1) 植物調査	"
(2) 鳥類調査	167
(3) 陸上昆虫類等調査	168
(4) 両生類・爬虫類・（哺乳類）調査－調査項目外－	"
(5) 魚介類等の確認－調査項目外－	169
(6) 麻機遊水地の方向性	"
(7) 地区別の総合評価・考察	170

資料編

1. レッドデータブックカテゴリー（環境庁, 1997）	1
2. 目録	5

協議書

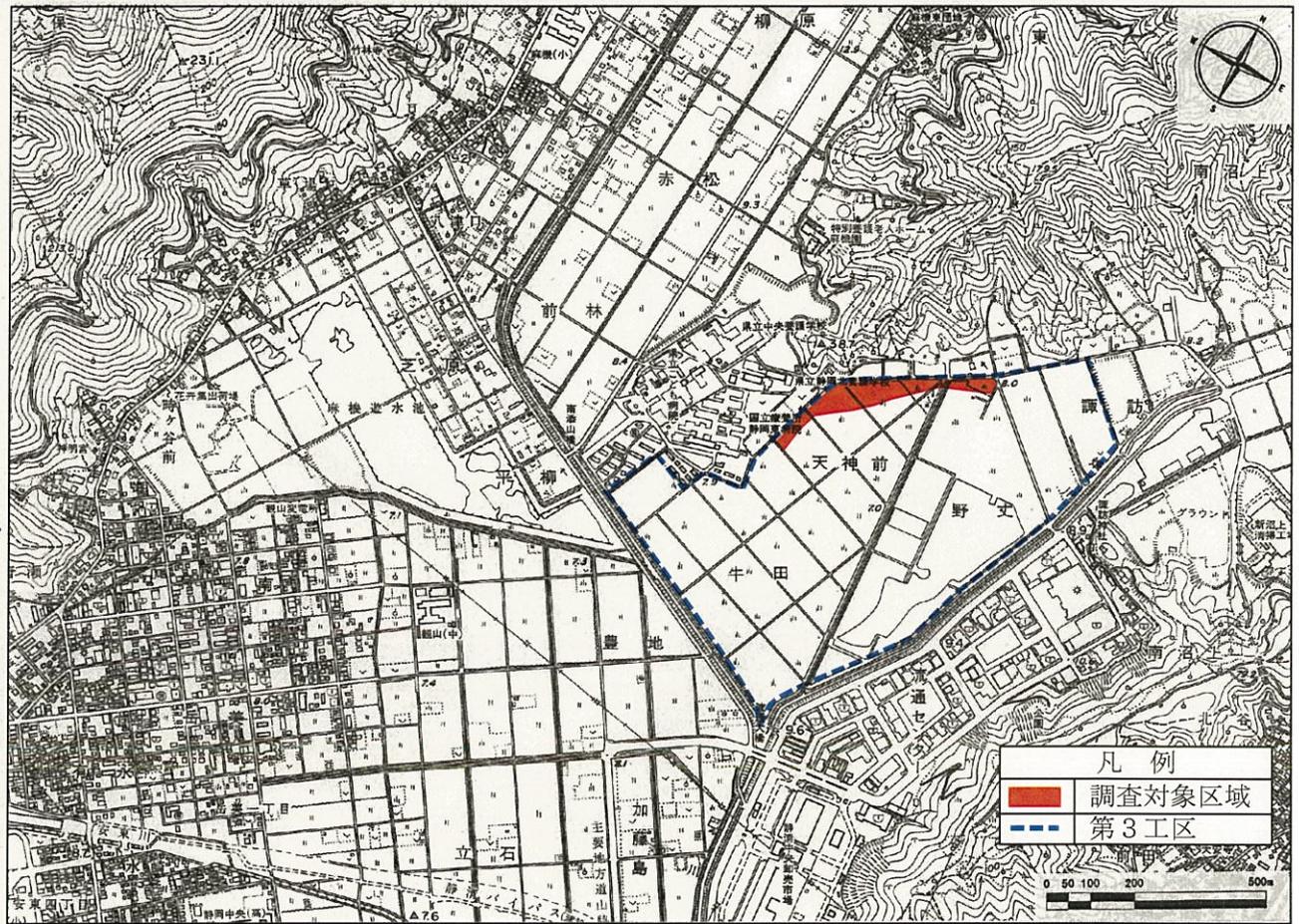
1. 平成12年12月19日（火）	1
2. 平成13年1月16日（火）	2
3. 平成13年3月8日（木）	4

1. 調査の目的

本業務は現在行なわれている掘削工事に伴い、掘削土を場内での処理に努めていたが、この残土置場に予定している場所は草地となっていて貴重な植物や野鳥、昆虫類の生息場所になっていることも予測される。このため生息状況を確認し、工事による生物への負荷を最小限にするための基礎資料等の作成を目的としている。

2. 調査対象地区

本工区の西北地区で、この地区は既に周囲堤及び小堤の整備がほぼ完了しているが、調査対象地区は未整備の状況になっている。



3. 調査内容

調査は植物、鳥類、陸上昆虫類等が対象であるが、特に、本工区は両生類・爬虫類や淡水魚類にとっても貴重な生息地が形成されつつあり、両項目についても可能な範囲で行う。調査は「河川水辺の国勢調査マニュアル」河川版（生物調査編）（以下「河川マニュアル」とする。）を参考にする。

（1）植物調査

将来公園となる箇所を対象として現地調査、文献調査を行い、植生（貴重種の生育範囲）と植物相（種類）を把握する。

また、移植方法や移植の時期の検討も行う。

（2）鳥類調査

将来公園となる箇所を対象として現地調査、文献調査を行い、飛来してくる鳥の生息範囲や種類を把握する。

また、生息する代表的な鳥類の環境づくりについても検討する。

（3）陸上昆虫類等調査

将来公園となる箇所を対象として現地調査、文献調査を行い、生息している昆虫類の範囲や種類を把握する。

また、将来この環境に生息すると思われる昆虫類を予測し、その環境づくりについても検討する。

—調査項目外—

（4）両生類・爬虫類・（哺乳類）調査

将来公園となる箇所を対象として現地調査、文献調査を行い、生息している両生類・爬虫類等の範囲や種類を把握する。

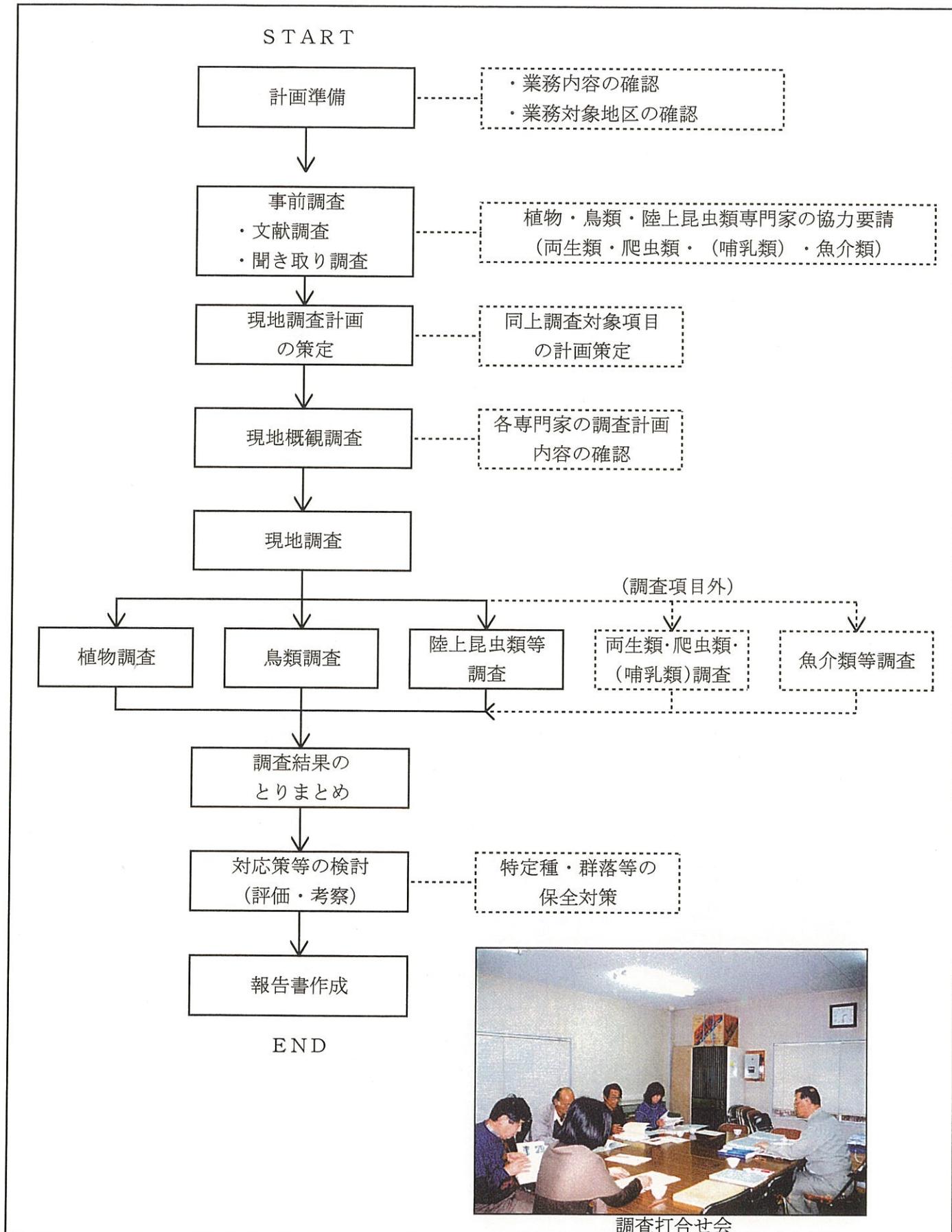
また、将来この環境に生息すると思われる両生類・爬虫類等を予測し、その環境づくりについても検討する。

（5）魚介類等の確認

現在掘削されている箇所で水替え作業が行われており、この期間に確認された魚介類等の資料を提供してもらい生息状況の確認をする。

4. 作業フロー

業務の作業フローを挙げる。



調査打合せ会

5. 植物調査

5. 植物調査

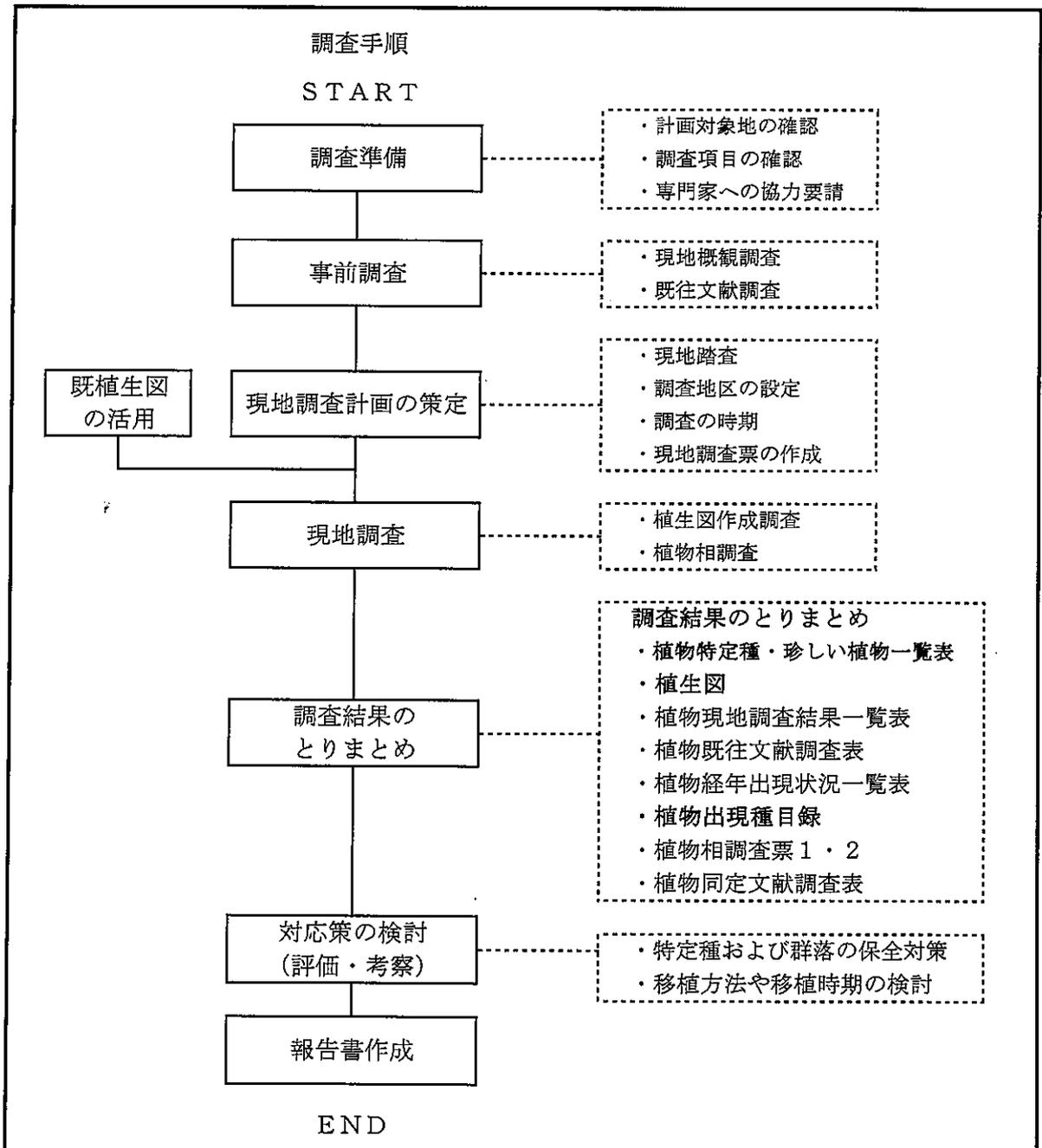
調査の方法は河川マニュアルを参考にして行う。

(1) 調査対象地区 (P5 調査対象地区平面図参照)

現地の整備状況から業務対象地区をA・B・Cの3地区に設定するが、その他の地区(補足調査)をD-1～D-5の5地区に設定する。調査対象地区はいずれも将来公園となる場所である。

(2) 調査の手順

調査の手順は河川マニュアルの調査項目を参考にして行う。



麻機遊水地（第3工区）
植物調査対象地区平面図

S=1/4000



A地区全景



B地区全景



C地区全景

凡例

A地区 B地区 C地区 調査対象地区

D-1地区 D-2地区 D-3地区 D-4地区 D-5地区 その他の地区

撮影方向



D-1~D-5地区全景

(3) 現地調査計画

現地を概観し、調査地区、協力要請する専門家、調査日程及び調査方法を設定する。

① 調査地区の設定

前項（1）に設定した業務対象地区とその他の地区（補足調査）に分けて行う。

② 協力要請する専門家

協力は静岡植物研究会会員他5氏に要請する。

(敬称略)

氏名	要請理由
湯浅 保雄	静岡植物研究会会長（会員数207名）、調査の総括を依頼する。
前島 固女	平成8年度（第1回）以来植物の同定等を行っている。県下有数の知見者。
平野 時子	平成8年度（第1回）以来前島氏と同様調査の記録を行っている。
栗山 由佳子	遊水地の植物に深い関心を寄せ、各種の保全活動を行っている。
大坪 篤次	今まで本工区内の植物の移植等を手がけている。

③ 調査日程

平成13年1月26日（金）、29（月）の両日に実施する。

④ 調査の方法

調査は業務対象地とその他の地区（補足調査）の各地区で植物相、特定種の確認をする。

調査表はP53～62の植物相調査票1（植物相と植生図作成のため）に記入し調査後整理する。

(4) 現地調査結果のとりまとめ

とりまとめは河川マニュアルの様式を参考にP18以降に掲載する。

- ・ 植物特定種・珍しい植物一覧表
- ・ 特定種生育場所平面図（独自の様式）
- ・ 植生図
- ・ 植物現地調査結果一覧表
- ・ 植物既往文献調査表
- ・ 植物経年出現状況一覧表
- ・ 植物出現種目録
- ・ 植物相調査票1
- ・ 植物相調査票2
- ・ 植物同定文献調査表

(5) 評価・考察

現在までに4回行われた調査の結果、該当する地区では当時の状況を踏まえ植生（群落）、植物相の推移について評価し、今後の対策を考察する。



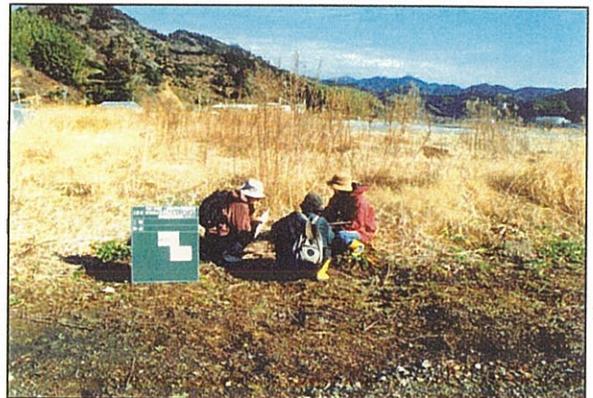
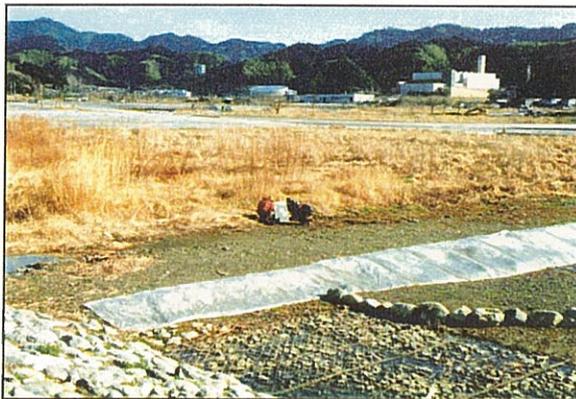
調査前打合せ



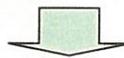
調査後打合せ

A地区

① 調査状況



② 調査結果



・ 植生

セイトカアワダチソウ群落・オギ群落・アシカキ群落・マコモ群落
(P29 植生図・P53～54 植物相調査票1 参照)

・ 植物相

24科 72種 イネ科とキク科の植物が多い。

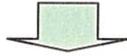
イネ科 16種・キク科 12種・ゴマノハグサ科 7種 (P30～33 植物現地調査結果一覧表参照)

・ 貴重な植物

タコノアシ{VU}・ミズアオイ{VU}・カワヂシャ{NT}

カンガレイ・オギ・マコモ・キクモ

(P21 特定種生育場所平面図・P53～54 植物相調査票1 参照)



③ 評価

- ・ 植生

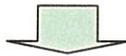
平成 8 年の調査ではアゼスゲ群落が記録されている。当時は休耕田であったが、本調査ではほぼ全域が耕耘され、土壌条件が変わり陸生植物（セイタカアワダチソウ群落）が見られるようになった。

- ・ 植物相

72 種の植物が生育し調査対象地区では 2 番目に多くの種を育てている。土地の高低差はあまりないものの陸生と水生植物の分布域となっている。科別ではイネ科とキク科の植物が多い。

- ・ 貴重な植物

平成 8 年の調査ではタコノアシ、ヒロハイヌノヒゲ、シソクサ、コツブヌマハリイの 4 種が確認されているが、本調査では特定種 3 種と珍しい植物 4 種を確認した。



④ 考察

本地区は樋管のある場所で、水中～湿地～陸地と植物にとっては 3 つの土壌条件がある。植生では陸地が多くなれば外来種であるセイタカアワダチソウ群落が拡大し単純な植生へと遷移する可能性が考えられる。

貴重な植物は単独または小群落を形成しているだけで、何かの改変があれば消滅の可能性もある。

この地区は調査対象地区のうち土地の多様性があり、湿地部分は保全したい。特に樋管からは流水（今後ともきれいな水）があり、水源のある湿地が形成される本工区内では数少ない場所の一つである。

- ・ 移植方法と移植時期

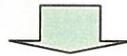
B 地区と同様



ミズアオイ 撮影：伴野 正志

B地区

① 調査状況



② 調査結果

・ 植生

オオイヌタデ群落・ヤノネグサ群落・セリ群落・セイトカアワダチソウ群落・オギ群落・アシカキ群落・チクゴスズメノヒエ群落・マコモ群落・コゴメヤナギ群落・タチヤナギ群落・ヒメガマ群落・カサスゲ群落 (P29 植生図・P55～56 植物相調査票 1 参照)

・ 植物相

28 科 93 種 イネ科とキク科の植物が多い。

イネ科 18 種・キク科 15 種・タデ科 11 種 (P30～33 植物現地調査結果一覧表参照)

・ 貴重な植物

ホソバニガナ{EN}・タコノアシ{VU}・ウスゲチョウジタデ{VU}・カワヂシャ{NT}

サクラタデ・ヤノネグサ・ホソバノウナギツカミ・オギノツメ・オギ・マコモ・カサスゲ・カンガレイ (P21 特定種生育場所平面図・P55～56 植物相調査票 1 参照)



③ 評価

・ 植生

平成 8 年の調査ではヒメガマ、オギ群落記録されている。当時は A 地区同様休耕田であったが、ほぼ全域が耕耘され、一部は盛土されている。盛土された場所はセイタカアワダチソウ群落となっている。調査対象地区のうち、この地区にはコゴメヤナギ群落とタチヤナギ群落があつていずれも湿潤地に生育している。

・ 植物相

93 種の植物が成育し調査対象地区では最も多くの種を育てている。それだけ土地の多様性もみられる。A 地区と同様イネ科とキク科の植物が多い。

・ 貴重な植物

平成 8 年の調査ではタコノアシ、ヒロハイヌノヒゲ、シソクサ、コツブヌマハリイ、ホソバノウナギツカミの 6 種が確認されている。本調査では特定種 4 種と珍しい植物 8 種を確認した。

④ 考察

・ 植生

調査対象地区の中では最も多様な植生がみられ、特にコゴメヤナギ群落とタチヤナギ群落は本工区では見られない森を形成しつつある。また、カサスゲ群落は規模も大きく保全したい。

・ 植物相

本地区は土地の多様性に恵まれ、生育基盤の湿潤性によってそれぞれの植物相が群落をつくっている。この地区ではセイタカアワダチソウ群落が拡大しない処置が必要である。

・ 貴重な植物

平成 8 年の調査からみれば貴重な植物は 2 倍になっている。

・ 今後の方向性

この地区は本工区を代表する湿地が既に形成されていて、将来は人の利用を制限するような場所にしたい。

・ 移植方法と移植時期

この地区を対象として改変しなければならない場合を想定して。

① 移植方法

移植方法は株ごと移植する方法と種子を採取し適期に蒔く方法がある。

林ごと移植する場合は植物相を確認し、貴重な植物をはじめどの種を対象に行うか。また、移植場所をどこにするか合せて検討する必要がある。種子の採取についても同様である。

② 移植時期

過去に行われてきた実績から判断すれば概ね植物が休眠期を迎える秋末から春先まで(11月～3月)が適期である。

C地区

① 調査状況



② 調査結果

- ・ 植生
カサスゲ群落 (P29 植生図・P57 植物相調査票 1 参照)
- ・ 植物相
19 科 34 種 (P30~33 植物現地調査結果一覧表参照)
- ・ 貴重な植物
ミゾコウジュ{NT}
オギ・マコモ・カサスゲ (P21 特定種生育場所平面図・P57 植物相調査票 1 参照)

③ 評価

- ・ 植生
平成 8 年の調査では特記されるものは記録されていない。当時は畑となっていた場所で樋管から流水がみられる。
- ・ 植物相
34 種の植物が見られるものの在来地盤 (田床) はわずかとなっている。
- ・ 貴重な植物
貴重な植物の個体数は少ない。

④ 考察

在来地盤がわずかに残っている場所である。しかし、最近樋管がつくられ、流れとなる地区はもともと湧水のあった場所で、今後、植生、植物相の観察が必要である。

・ 移植方法と移植時期

本地区で何かの要因により移植の対象となる植物はわずかである。カサスゲ、マコモ、オギ、ネズミモチが対象となる。

① 移植方法

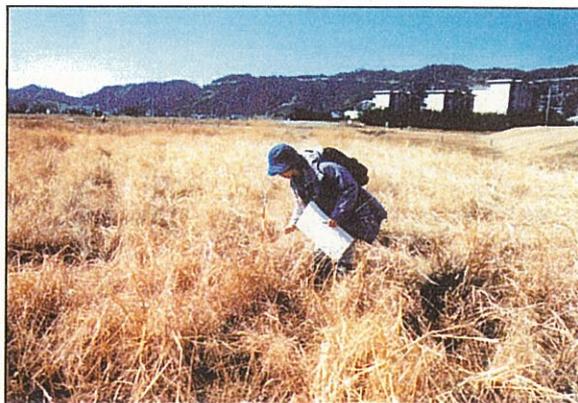
根株ごと重機によって掘取り、出来るだけ近くで、この場所と同じような生育基盤に移す。

② 移植時期

カサスゲ、マコモ、オギは 11 月以降、ネズミモチは 9 月頃が移植の適期である。

D-1 地区

① 調査状況



② 調査結果

- ・ 植生
ケイヌビエ群落 (P29 植生図・P58 植物相調査票 1 参照)
- ・ 植物相
10 科 20 種 (P30~33 植物現地調査結果一覧表参照)
- ・ 貴重な植物
タコノアシ{VU}・カワヂシャ{NT}
ホソバノヨツバムグラ (P21 特定種生育場所平面図・P58 植物相調査票 1 参照)

③ 評価

- ・ 植生
平成 8 年の調査ではアゼスゲとセイタカアワダチソウ群落が確認されている。当時は休耕田であったが、最近樋門工事などが行われ、田床の残っている場所にケイヌビエ群落がみられる。
- ・ 植物相
調査対象地区内では植物相の最も少ない地区である。
- ・ 貴重な植物
平成 8 年の調査ではヒメサルダヒコが確認されているが、本調査では特定種が 2 種、珍しい植物 1 種を確認した。

④ 考察

この地区は最近工事が行われ、植生、植物相とも時間が経過しなければどのような植物が生育し、安定した植生になるか予測できない。

D-2地区

① 調査状況



② 調査結果

- ・ 植生
ヤノネグサ群落・ミゾソバ群落・セイタカアワダチソウ群落・ヨシ群落
(P29 植生図・P59 植物相調査票1 参照)
- ・ 植物相
7科24種 (P30~33 植物現地調査結果一覧表参照)
- ・ 貴重な植物
タコノアシ{VU}・ウスゲチョウジタデ{VU}
ヤノネグサ・ホソバノウナギツカミ・ヒメサルダヒコ・オギノツメ
(P21 特定種生育場所平面図・P59 植物相調査票1 参照) 植生

③ 評価

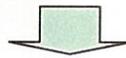
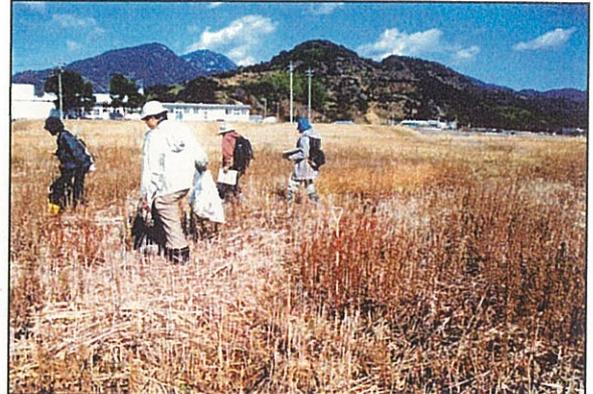
- ・ 植生
平成8年の調査ではセイタカアワダチソウ群落とヨシ群落であった。当時から休耕田であるが、本調査ではヨシ群落の間をミゾソバ群落とヤノネグサ群落が拡大し、セイタカアワダチソウ群落も拡大しつつある。
- ・ 植物相
調査対象地区内では2番目に植物相の少ない地区である。
- ・ 貴重な植物
平成8年には確認されていないが、平成10年の調査ではマコモが確認されている。本調査では特定種2種と珍しい植物4種を確認した。

④ 考察

平成8年の植生からみると、この地区から巴川に向かってセイタカアワダチソウ群落が着実に拡大しつつある。整備の方向性に課題のある地区の一つである。

D-3 地区

① 調査状況



② 調査結果

・ 植生

ヤノネグサ群落・ミゾソバ群落・タコノアシ群落・セイタカアワダチソウ群落・ヨシ群落・チガヤ群落・チゴザサ群落 (P29 植生図・P60 植物相調査票 1 参照)

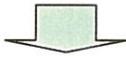
・ 植物相

15 科 29 種 (P30~33 植物現地調査結果一覧表参照)

・ 貴重な植物

ヌカボタデ{VU}・タコノアシ{VU}

ヤノネグサ・ホソバノウナギツカミ・ホソバノヨツバムグラ・ヒメサルダヒコ・オギノツメ
(P21 特定種生育場所平面図・P60 植物相調査票 1 参照)



③ 評価

・ 植生

平成 8 年の調査ではヨシ群落であった。当時から休耕田であるが、本調査ではタコノアシ群落やヤノネグサ群落、チゴザサ群落など比較的丈の低い植物の群落が見られる地区である。

・ 植物相

この地区は面積が広く平坦な休耕田で、土地の多様性はないが本工区の中では草原を形成した場所である。

・ 貴重な植物

平成 8 年以降貴重な植物は確認されていなかったが、本調査によって特定種 2 種と珍しい植物 5 種を確認した。特にタコノアシ群落の大きさは遊水地でも唯一である。

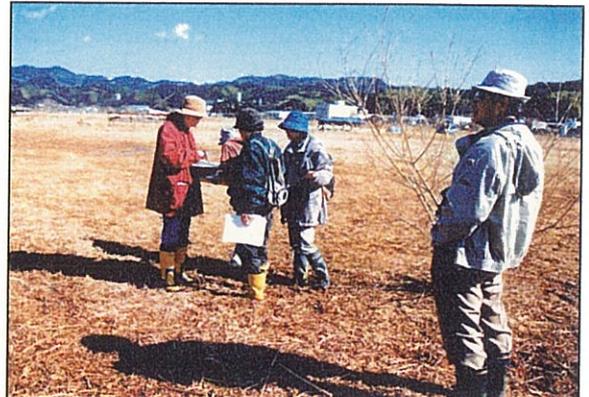


④ 考察

休耕田がそのまま残されている地区で、最近では貴重な植物が次々と姿を現わし、特にタコノアシ群落など背丈の低い植物が群落を拡大しており本工区では貴重な地区と言える。

D-4 地区

① 調査状況



② 調査結果

- ・ 植生

セイタカアワダチソウ群落・ヨシ群落・チガヤ群落・チゴザサ群落・チクゴスズメノヒエ群落・ヒメガマ群落・アゼスゲ群落・(P29 植生図・P61 植物相調査票 1 参照)

- ・ 植物相

14 科 34 種 (P30~33 植物現地調査結果一覧表参照)

- ・ 貴重な植物

タコノアシ{VU}・ヌカボタデ{VU}

ヤノネグサ・ホソバノウナギツカミ・ホソバノヨツバムグラ・ヒメサルダヒコ・オギノツメ・オギ・カンガレイ・サンカクイ (P21 特定種生育場所平面図・P61 植物相調査票 1 参照)

③ 評価

- ・ 植生

平成 8 年の調査ではヨシ群落であった。当時から休耕田で、D-3 地区と同様比較的丈の低い群落のみられる地区である。

- ・ 植物相

巴川沿いに細長い水溜りがあって、オギやジュズダマの生育地となっている。植物相としては D-3 地区の延長と考えられる。

- ・ 貴重な植物

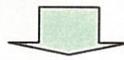
平成 10 年の調査ではタコノアシ、ヤノネグサ、カサスゲ、オギノツメ、ホソバノウナギツカミの 5 種が確認されている。本調査では特定種 2 種、珍しい植物 8 種を確認した。

④ 考察

D-3 地区と同様

D-5 地区

① 調査状況



② 調査結果

- ・ 植生
ヒロハハウキギク群落・セイタカアワダチソウ群落・ケイヌビエ群落・チゴザサ群落
(P29 植生図・P62 植物相調査票 1 参照)
- ・ 植物相
11 科 27 種 (P30~33 植物現地調査結果一覧表参照)
- ・ 貴重な植物
タコノアシ{VU}・ヌカボタデ{VU}・ミズアオイ{VU}
ヤノネグサ・ホソバノウナギツカミ・カンガレイ
(P21 特定種生育図・P62 植物相調査票 1 参照)



③ 評価

- ・ 植生
平成 8 年の調査ではセイタカアワダチソウ群落であった。当時から休耕田で、この地区は市道によって D-3、D-4 地区と隣接しているものの背丈の高い群落がみられる。
- ・ 植物相
植物相は他の地区に比べ少ない地区である。
- ・ 貴重な植物
平成 8 年の調査ではミゾコウジュ群落がみられ、平成 11 年の調査ではウスゲチョウジタデとオギノツメが確認されている。本調査では特定種 3 種、珍しい植物 3 種が確認されているが種数は少ない。



④ 考察

この地区は本工区では唯一の住宅地に接近した場所である。現在北側が湿地となっていて、今後の植生遷移の観察が必要な地区の一つである。

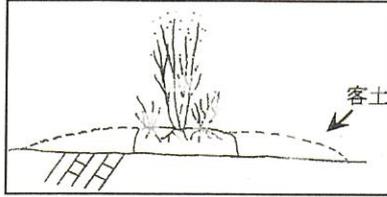
移植方法の事例

第4工区で平成9年12月に行われた実績を踏まえ、次の手順で行いたい。

手順

① 移植地

移植した植物を置くだけの手法で対応する。



② 客土の購入

客土は本工区の発生土（沼土）を利用する。

発生土はセイタカアワダチソウなどの外来種の根が入っていないものを利用する。



③ 植物の堀取り

ユンボ等のバケットで堀取る。

◎生育基盤をそのまま移動でき、根を痛めない。



④ 運搬

できればユンボ等で移動。

◎他の方法の場合その点を十分に注意する。



⑤ 植付

植付ける場所を先に決めておき、その場所に静かに下ろす。用意しておいた客土をすぐにかぶせる。

◎空気と日光で根を痛めないため。



(6) 調査結果

調査結果を以下に挙げる。

整理様式 2

植物特定種・珍しい植物一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

種名	指定区分	河川名	距離(km)	市区町村名	情報源					文献・聞き取り先 調査者	生育基盤	
					聞き取り	文献	現地調査					
							1996	1998	1999			2000
ツツイトモ	CR	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○			○		静岡植物研究会	A
スズメハコベ	EN	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○					静岡植物研究会	A
ホソバニガナ	EN	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○		○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	C
ミズニラ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○			○		静岡植物研究会 前島固女	A
ヤナギヌカボ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○	○		○		静岡植物研究会 前島固女	B
ヌカボタデ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○	○		○	○	静岡植物研究会 前島固女	B
オニバス	VU	巴川麻機遊水地 第4工区		静岡県 静岡市		○					静岡植物研究会	A
タコノアシ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○	○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	B
ミズマツバ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○					静岡植物研究会	A
ウスゲチョウジタデ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○	○		○	○	静岡植物研究会 前島固女	B
アサザ	VU	巴川麻機遊水地 第4工区		静岡県 静岡市		○					静岡植物研究会	A
ミズネコノオ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○		○			静岡植物研究会 前島固女	A
オオアブノメ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○		○			静岡植物研究会 前島固女	A
イトモ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○	○				静岡植物研究会 前島固女	A
ミズアオイ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○	○	○		○	静岡植物研究会 前島固女	A
コツブヌマハリイ	VU	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○	○				静岡植物研究会 前島固女	B
ミゾコウジュ	NT	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○	○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	C
カワヂシャ	NT	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○				○	静岡植物研究会 前島固女	B
ミクリ	NT	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○	○		○		静岡植物研究会 前島固女	A・B

植物特定種・珍しい植物一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

種名	指定区分	河川名	距離(km)	市区町村名	情報源					文献・聞き取り先調査者	生育基盤	
					聞き取り	文献	現地調査					
							1996	1998	1999			2000
シャジクモ	CR+EN	巴川 麻機遊水地		静岡県 静岡市		○			○		静岡植物研究会	A
ミズワラビ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市					○		静岡植物研究会 前島固女	A
サクラタデ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	C
ヤノネグサ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	B
ホソバノウナギツカミ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○	○		○	静岡植物研究会 前島固女	B
カラスザンショウ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市				○			静岡植物研究会 前島固女	D
ミゾハコベ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市				○			静岡植物研究会 前島固女	A
ゴキヅル	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市					○	緑地内	静岡植物研究会 前島固女	B
オオフサモ (帰化植物)	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○				静岡植物研究会 前島固女	A
ホソバノヨツバムグラ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○	○		○	静岡植物研究会 前島固女	B
ヒメサルダヒコ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○			○	静岡植物研究会 前島固女	B
シソクサ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○				静岡植物研究会 前島固女	B
キクモ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	A
オギノツメ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○	○		○	静岡植物研究会 前島固女	B
ヘラオモダカ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○	○			静岡植物研究会 前島固女	A
オモダカ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	A
クワイ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○				静岡植物研究会 前島固女	A
ヒルムシロ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○				静岡植物研究会 前島固女	A
ホッサモ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○				静岡植物研究会 前島固女	A
タカイ	珍しい	巴川麻機遊水地 (第3工区)		静岡県 静岡市			○				静岡植物研究会 前島固女	B

植物特定種・珍しい植物一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

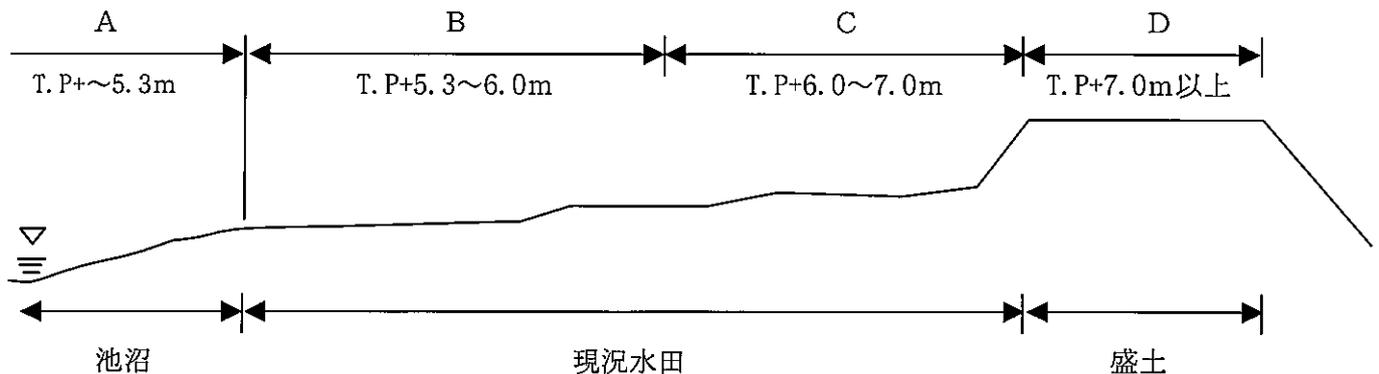
種名	指定区分	河川名	距離(km)	市区町村名	情報源					文献・聞き取り先調査者	生育基盤	
					聞き取り	文献	現地調査					
							1996	1998	1999			2000
ヒロハイヌノヒゲ	珍しい	巴川麻機遊水地(第3工区)		静岡県静岡市			○		○		静岡植物研究会 前島固女	B
オギ	珍しい	巴川麻機遊水地(第3工区)		静岡県静岡市			○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	C
マコモ	珍しい	巴川麻機遊水地(第3工区)		静岡県静岡市			○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	A
カサスゲ	珍しい	巴川麻機遊水地(第3工区)		静岡県静岡市			○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	B
ミズガヤツリ	珍しい	巴川麻機遊水地(第3工区)		静岡県静岡市				○			静岡植物研究会 前島固女	B
カンガレイ	珍しい	巴川麻機遊水地(第3工区)		静岡県静岡市			○	○	○	○	静岡植物研究会 前島固女	A
サンカクイ	珍しい	巴川麻機遊水地(第3工区)		静岡県静岡市			○	○		○	静岡植物研究会 前島固女	B

- EX: 「レッドデータブック」における絶滅種 (EX)
- EW: 「レッドデータブック」における野生絶滅種 (EW)
- CR: 「レッドデータブック」における絶滅危惧 I A 類 (CR)
- EN: 「レッドデータブック」における絶滅危惧 I B 類 (EN)
- VU: 「レッドデータブック」における絶滅危惧 II 類 (VU)
- NT: 「レッドデータブック」における準絶滅危惧 (NT)
- DD: 「レッドデータブック」における情報不足 (DD)
- LP: 「レッドデータブック」における絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

他: 地方において特筆すべき文献等

珍しい: 他の地区ではあまり見られなくなっている植物

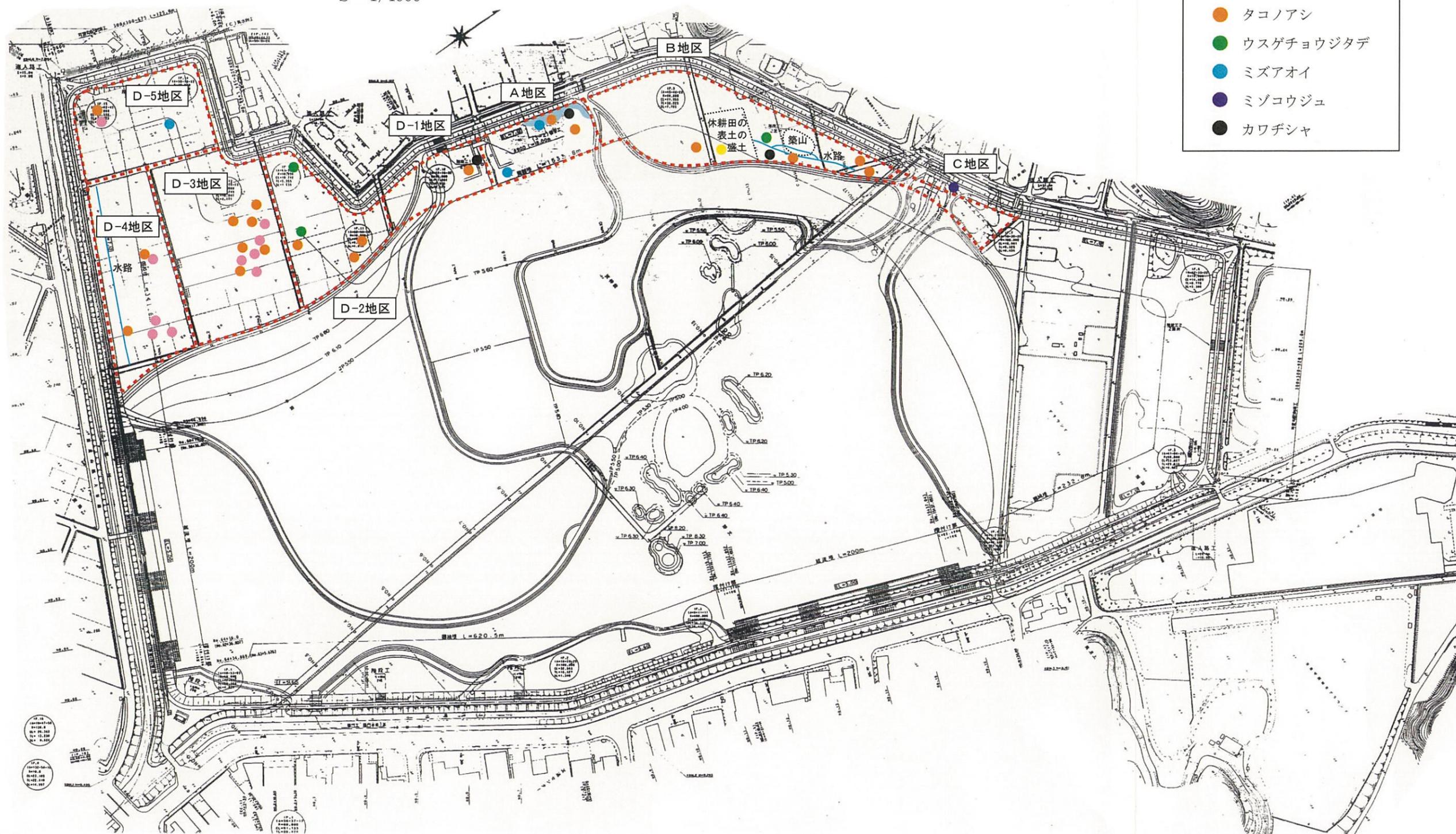
「注」



特定種生育場所平面図

S = 1/4000

- 凡例
- ホソバニガナ
 - ヌカボタデ
 - タコノアシ
 - ウスゲチョウジタデ
 - ミズアオイ
 - ミゾコウジュ
 - カワヂシャ



④ミズニラ 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



ミズニラ 〔ミズニラ科〕

Mizunira
Isoetes japonica A. Br.

夏緑性多年草。成長期間4～10月。池や沼、溝、水田、湿地などの泥地に生育する。塊茎と胞子で繁殖する。【成形】根茎はごく短かく塊状で泥の中にあり、径2～3cm、下部は3岐し3本の縦溝がある。葉は多数叢生し、長さ10～30cm、4稜のある円柱状で先は細く尖り、葉の基部は広い卵形のさや状に広がり扁平で白色。この部分が大きいものでは長さ1.5cm、幅1cm内外ある。葉全体が柔らかい。【胞子】夏から秋にかけて、葉の基部のさや状の内側に胞子のうができ、その上に小舌がある。大胞子のうは外側の葉に、小胞子のうは内側の葉にでき、大胞子は白色球形で表面に規則正しい穴があり、ハチの巣状に見える。

【分布】本州、四国、九州。

【生活型】L.f.: HH R_{stb} D₁ t 〔浅野・広田〕

■和名、全体が一見ニラに似ていて、水の中に生育することから水ニラという。

出典：日本山野草・樹木生態図鑑シダ類・裸子植物・被子植物（離弁花）編、全国農村教育協会発行

⑤ヤナギヌカボ 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



1403. ヤナギヌカボ 〔タデ属〕

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara (*Polygonum paludicola* Makino)

本州の湿地、あるいは水辺にはえる1年草。高さ40cm位。下部は斜めに伏し、上部は斜上。葉は有柄、互生、長さ3～9cm、両面とも有毛。葉鞘は長さ5～10mm。花は秋、長さ3～7cmの花穂を出し淡紅色の小花をまばらにつける。がく片は5裂、長さ1.5mm、腺点はない。そう果は黒褐色で光沢のあるレンズ状。和名は葉の細いヌカボタデの意。

出典：原色牧野植物大圖鑑離弁花・単子葉植物編、北隆館発行

⑥ヌカボタデ 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



1402. ヌカボタデ 〔タデ属〕

Persicaria taquetii (Lév.) Koidz. (*Polygonum taquetii* Lév.)

本州、四国、九州、および朝鮮半島の暖帯に分布。湿地あるいは田中にはえる1年草。高さ30cm位、下部ははい、節から根を出し、上部で斜上。葉は有柄、長さ2～6cm、薄く毛がある。葉鞘は長さ2～6mm、縁毛が並ぶ。花は秋、長さ1～3cmのやせた花穂をつける。和名は花が非常に小形なのをいね科のヌカボにたとえた名。

出典：原色牧野植物大圖鑑離弁花・単子葉植物編、北隆館発行

⑦オニバス 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



1021. **オニバス**(ミズブキ) [オニバス属]
Euryale ferox Salisb.

本州、九州、および中国、インドなどの暖帯から熱帯に分布。池沼中にはえる1年生の水草。とげが多い。種子から初めて出る沈水葉は膜質の矢じり形で小形。大きくなると水面に浮かび径20cmから3mになる。裏面は暗紫色。花は夏から秋、日中開き夜間は閉じる。花径4cm位。種子は食べられる。和名鬼蓮はハスに似てとげがある意。

出典：原色牧野植物大圖鑑離弁花・単子葉植物編、北隆館発行

⑧タコノアシ 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



668. **タコノアシ** [タコノアシ属]
 (サワシオン)
Penthorum chinense Pursh
 (*P. sedoides* var. *chinense* Maxim.)

本州から九州、および朝鮮半島、中国の暖帯に分布、野原の湿地などにはえる多年草。茎は直立し、高さ50~90cm位。花は夏から初秋に咲き、花弁はない。腺毛が散在する総状花序は初め巻いている。和名蛸の足は花が並んだ様子を、タコの足の吸盤が並んでいるようだと表現したもの。別名沢紫苑は沢すじにはえるシオンの意。

出典：原色牧野植物大圖鑑離弁花・単子葉植物編、北隆館発行

⑨ミズマツバ 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



1456. **ミズマツバ** [キカシグサ属]
Rotala pusilla Tul. (*R. mexicana* Cham.
 et Schltdl. var. *spruceana* Koehne)

本州中南部、四国、九州から琉球列島および朝鮮半島、台湾、東南アジア、アフリカの暖帯から熱帯に分布し、水田や湿ったところにはえる1年生草。茎の基部は横にはうが、すぐ立ち上がり高さ9cm位。地下茎からひげ根を出す。花は夏から秋、花弁はない。和名水松葉は輪生した葉が松葉に似ていて水分を好むからいう。

出典：原色牧野植物大圖鑑離弁花・単子葉植物編、北隆館発行

⑩ウスゲチョウジタデ 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



1402. ウスゲチョウジタデ (ミズキンバイ属)
Ludwigia greatrexi H.Hara

東海地方の一部と熊本県、琉球列島にはえる1年草。高さ30~60cm。葉は互生し、長さ7~8cm、幅1~2cmの皮針形、葉の両端はとがり、全縁でやや波打つ。夏、上部の葉えきにほとんど柄のない花をつける。花梗に見える部分のがく筒で中に子房があり、表面にねた毛が多い。花弁は長さ約4mmの卵形で黄色である。花盤に白毛が密生する。

出典：原色牧野植物大圖鑑合弁花離弁花編、北隆館発行

⑪アサザ 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



987. アサザ (アサザ属)
Nymphaoides peltata (S.G.Gmel.) Kuntze

北半球の温帯から亜熱帯に広く分布し、本州、四国、九州の池や沼などにはえる多年生水草。地下茎は水底の泥中を横にはい、茎は長い。葉は径10cm位、厚く表面は緑色、裏面は褐紫色を帯び、基部にふくらんだ長い柄があって水面に浮かぶ。花は初夏から夏、葉えきに数本の花茎を水面に出して開く。花冠は黄色で星形に5裂する。

出典：原色牧野植物大圖鑑合弁花離弁花編、北隆館発行

⑫ミズネコノオ 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



795. ミズネコノオ (ミズトラノオ属)
Eusteralis stellata (Lour.) Panigrahi
(Dysophylla verticillata Benth.)

アジア東部・南部、インド、オーストラリアの暖帯から熱帯に広く分布し、日本では本州、四国、九州の湿地や浅い水の中などにはえる1年草。高さ30~60cm、無毛。葉は柄がなく、4~6輪生、長さ2~6cm。花は夏から秋。淡紅白色花。和名水猫の尾は、水中にはえて、細長い花穂を猫の尾に見立てたため名づけられた。

出典：原色牧野植物大圖鑑合弁花離弁花編、北隆館発行

⑩ コツブヌマハリイ 絶滅危惧Ⅱ類 {VU}

写真なし **コツブヌマハリイ** 被子植物・単子葉類・カヤツリクサ科 (Cyperaceae) 絶滅危惧Ⅱ類(VU)
Eleocharis parvinux

形態と生育環境
平地の沼や川岸の湿地に生える多年草。茎は高さ30-60cm、円くて平滑、小穂は披針形または卵形。果が長さ1-1.2mmにすぎない。花被片が変化した刺針(剛毛)が1個あってやや硬く、直立し、長さは果の3倍にもなる。

植物RDB現地調査の集計結果

「現存する株数」別のメッシュ数				不明	絶滅	合計
~10	~100	~1000	~	10	0	21
2	5	3	1			
「以前の増減」別のメッシュ数				不明	絶滅	合計
~1/100	~1/10	~1/2	~			
0	2	0	1	17	0	21
危険性の主要因上位3項目の件数						
自然遷移	河川開発	池沼開発	不明	無記入	全数	
7	6	3	0	9	32	

生育地の現状と判定理由 <判定基準：E>
21メッシュのうち10メッシュで現状不明である。現存するのは2メッシュで数個体、5メッシュで数十個体、3メッシュで数百個体、1メッシュで数千個体であり、総計約4000個体と推定される。平均減少率は約40%、100年後の絶滅確率は約96%である。植生の遷移、河川・池沼の開発が減少の主要因である。

都道府県別分布状況 (○：生育、△：現状不明・文献情報、×：絶滅)
北海道 青森県 岩手県 秋田県 山形県 宮城県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 徳島県 香川県 高松市 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

出典：改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-植物Ⅰ (維管束植物)、(財)自然環境研究センター発行

⑪ ミゾコウジュ 準絶滅危惧 {NT}



753. **ミゾコウジュ** [アキギリ属]
(ユキミソウ)
Salvia plebeia R.Br.

アジア東南部、オーストラリアの暖帯から熱帯に分布。本州から琉球列島のやや湿った道ばたや田のあぜにはえる越年草。茎は四角く高さ30~70cm、全体に毛がある。根生葉は冬はロゼット状に広がり花時にはない。茎葉は長さ3~6cmでしわがある。花は初夏に咲き、花冠は長さ4~5mmの小さな唇形、長い花穂に密につく。

出典：原色牧野植物大圖鑑合弁花離弁花編、北隆館発行

⑫ カワヂシャ 準絶滅危惧 {NT}



610. **カワヂシャ** [クワガタソウ属]
Veronica undulata Wall.

本州から琉球列島、台湾、朝鮮半島、中国、ヒマラヤ、アフガニスタンなどアジアの暖帯から熱帯に分布。川岸や田のあぜなどの湿地にはえる越年草。茎は円柱形で軟らかく高さ30~60cm。葉は長さ4~7cmで薄く軟らかい。花は初夏、花冠は径4mm位。和名は川辺にはえるチシャの意。若葉は紫色で食用にする。

出典：原色牧野植物大圖鑑合弁花離弁花編、北隆館発行

①9 ミクリ 準絶滅危惧 {NT}



1970. **ミクリ** [ミクリ属]
***Sparganium stoloniferum* Buch.-Ham.**
var. *stoloniferum*

アジア, ヨーロッパ, 北アフリカの温帯から暖帯に分布。池沼, 溝の中などにはえる多年草。根茎は短く側枝を出す。高さ70~100cm。葉は束生し, 茎より長く, 1稜があり, 幅1~2cm。花は夏, 和名実栗は果球をクリのいがに見立てた呼び名。漢名黒三稜。属名はギリシャ名で帯の縮小形, リボン状の葉形に基づく。

出典: 原色牧野植物大圖鑑離弁花・単子葉植物編、北隆館発行

②0 シャジクモ CR+EN



藻類 **CR+EN** (絶滅危惧I類)

輪藻綱・シャジクモ目・シャジクモ科

シャジクモ

Chara braunii Gmelin

●**摘要**
 本種は1964年の調査では30湖沼に生育していたが、最近の調査では、調査した23湖沼のうち18湖沼で生育が確認できなかった。湖沼以外の生育地でも確認されるが、減少している。

●**形態**
 雌雄同株。藻体は40cmぐらいまでになる。主軸の太さは300-1000μmあり、皮層も細胞もない。托葉冠は1段のみで、その位置は小枝と互生し、ほぼ同数である。托葉冠の長さはいろいろの変異が見られるが長くて1mmぐらいまでであり、ときには乳頭状突起に退化しているものもある。輪生枝は8-11本あり、各小枝は3-4節からなる。その末端節はほぼ同長の苞の細胞が集まり冠状となるのが特徴的である。性器は小枝の下部節につき、輪生する小枝の基部には生じない。雄器の直径250-320μm。雌器は長さ800-1100μm (小冠を含む)、幅400-500μmあり、らせんは10本見られる。卵胞子は黒く、長さ500-750μm、幅300-450μmあり、らせん縁は7-12本。

●**分布の概要**
 世界各地に分布し、日本でも国内全域に広く分布している。

●**生物学的特性**
 各地の池、溝、湖沼、水田、川、潟湖や河口付近に生育していたが、湖沼では市柳沼 (青森県)、中禅寺湖、山中湖、芦ノ湖、河口湖でしか確認されなくなった。

●**分布域の動向と生育状況**
 中禅寺湖、山中湖、河口湖、芦ノ湖では比較的多数の個体あるいは群落が確認されたが、市柳沼では極めて限られた場所、わずか少数の個体の生育が見られただけであった。

●**存続を脅かしている原因**
 シャジクモの消滅した湖沼では、富栄養化の進行、あるいはソウギョの放流や埋立てが行われており、これらが消滅・減少の要因と考えられる。

●**特記事項**
 霞ヶ浦では自然状態ではシャジクモの生育は見られないが、底泥を採取し、コンクリート水槽にいれ、水をはり、酸素が十分供給された状態にしておくと、シャジクモの発芽、生育が見られる。このことは、シャジクモが消滅したと思われる霞ヶ浦ではシャジクモの受精胞子が底泥に残っていること、何らかの原因で発芽あるいは発芽後の生育ができないことが示唆される。また、いくつかの湖沼から採取してきたシャジクモの培養が国立環境研究所微生物系統保存施設でなされている。

●**保護対策**
 とくになし。

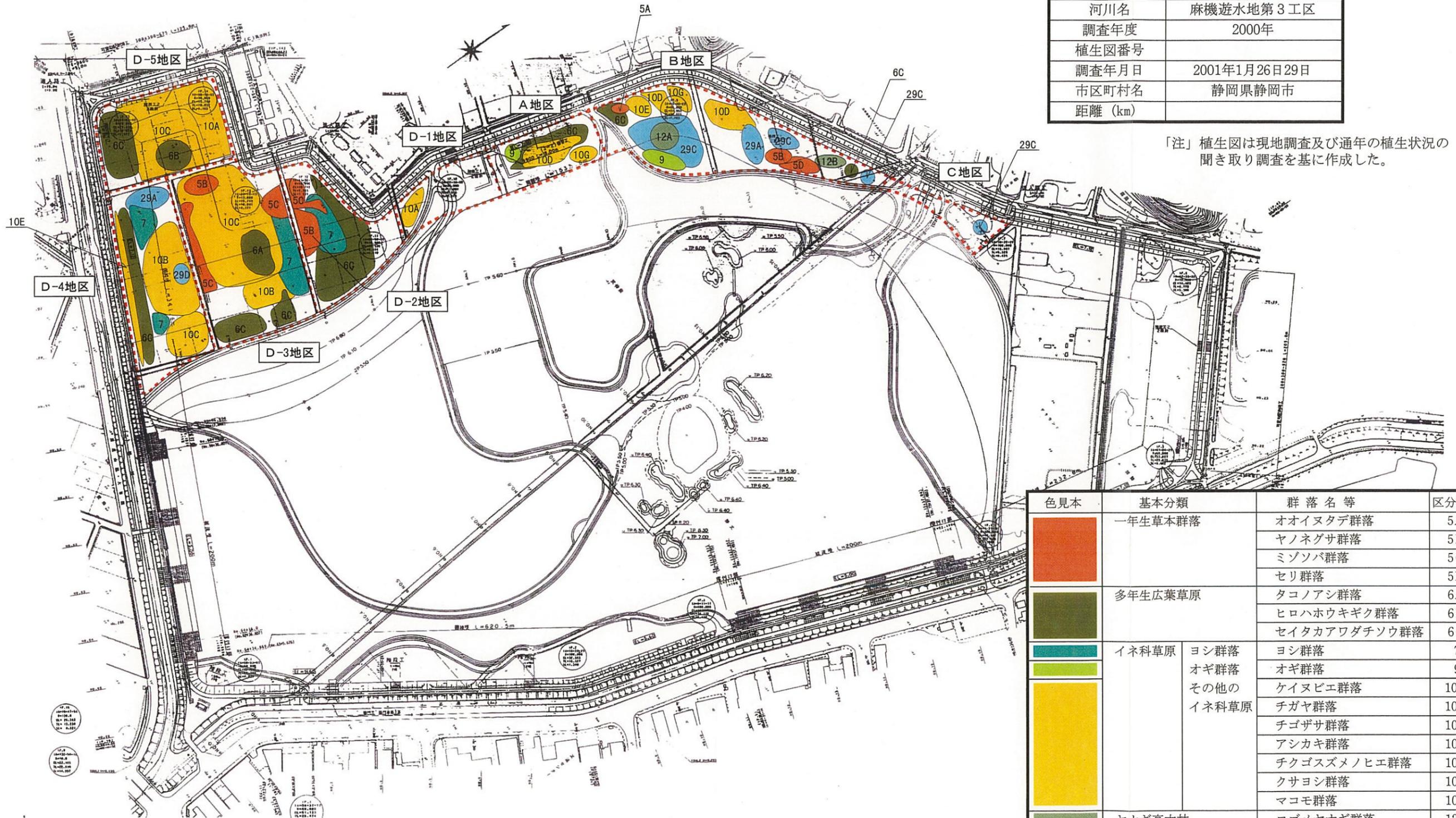
参考文献
 広瀬弘幸・山岸高旺 (編), 1977. 日本淡水藻類図鑑, pp. 770-771. 内田老鶴園, 東京.
 Kasaki, H., 1964. The Charophyta from the lakes of Japan. J. Hattori Bot. Lab., 27: 215-314.
 野崎久義・渡辺 信・加藤英男・佐野郷美・加藤信重・大森謙治, 1995. 日本の湖沼における車輪藻類 (緑色植物) の分布の現状. 藻類, 43: 213-218.

Although *Chara braunii* was recorded from 30 Japanese lakes in 1964, it was found in only five lakes of 23 lakes surveyed during 1994 to 1997. Decline seems to have been caused by eutrophication and introduction of grass carps. Prevention of eutrophication and retrieval of introduced grass carps may protect this taxon.

執筆者: 渡辺 信 (国立環境研究所生物圏環境部)

出典: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-植物II (維管束植物以外)、(財)自然環境研究センター発行

植生図
S = 1/4000



地建・都道府県名	静岡県
事務所・部局名	静岡土木事務所河川改良課
水系名	巴川
河川名	麻機遊水地第3工区
調査年度	2000年
植生図番号	
調査年月日	2001年1月26日29日
市区町村名	静岡県静岡市
距離 (km)	

「注」 植生図は現地調査及び通年の植生状況の聞き取り調査を基に作成した。

色見本	基本分類	群落名等	区分番号
[Red]	一年生草本群落	オオイヌタデ群落	5A
		ヤノネグサ群落	5B
		ミノソバ群落	5C
		セリ群落	5D
[Green]	多年生広葉草原	タコノアシ群落	6A
		ヒロハホウキギク群落	6B
		セイタカアワダチソウ群落	6C
[Teal]	イネ科草原	ヨシ群落	7
		オギ群落	9
		ケイヌビエ群落	10A
		チガヤ群落	10B
		チゴザサ群落	10C
		アシカキ群落	10D
		チクゴスズメノヒエ群落	10E
		クサヨシ群落	10F
マコモ群落	10G		
[Light Green]	ヤナギ高木林	コゴメヤナギ群落	12A
		タチヤナギ群落	12B
[Blue]	多年生単子葉草原	ヒメガマ群落	29A
		アゼナルコ群落	29B
		カサスグ群落	29C
		アゼスグ群落	29D

「注」 区分番号 = 基本分類 + 群落名等

植物現地調査結果一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	調査区分	植物相調査								
			河川名	巴川 麻機遊水地第3工区								
			地区No.	A	B	C	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	
			距離 (km)									
1	オシダ科	オニヤブソテツ				●						
2	ヤナギ科	シダレヤナギ			●							
3		アカメヤナギ			●							
4		カワヤナギ									●	
5		コゴメヤナギ			●							
6		タチヤナギ			●							
7		ヤナギsp.								●		
8	クワ科	カナムグラ				●						
9	イラクサ科	カラムシ									●	
10	タデ科	サクラタデ				●						
11		ヤナギタデ		●	●		●	●	●	●	●	●
12		オオイヌタデ		●	●		●					
13		サデクサ			●							
14		ヤノネグサ			●			●	●	●	●	●
15		ホソバノウナギツカミ			●			●	●	●	●	●
16		ボントクタデ									●	
17		アキノウナギツカミ		●								
18		ヌカボタデ							●	●	●	●
19		ミゾソバ			●			●	●	●	●	●
20		イタドリ			●							
21		スイバ				●						
22		アレチギンギシ		●	●		●					
23		ナガバギンギシ		●	●	●		●				
24		ギンギシ		●	●					●		
25	ナデシコ科	オランダミミナグサ		●		●						
26		ツメクサ		●								
27		ノミノフスマ		●								
28	ヒユ科	ヒナタイノコズチ			●							
29	キンボウゲ科	ケキツネノボタン		●	●	●				●		
30		タガラシ			●							
31	ケシ科	ムラサキケマン				●						
32	アブラナ科	タネツケバナ		●	●							
33		イヌガラシ			●							
34		スカシタゴボウ		●	●							
35	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ		●		●						
36		アズマツメクサ			●							
37	ユキノシタ科	タコノアシ		●	●		●	●	●	●	●	●
38	バラ科	ヘビイチゴ			●	●						
39		オヘビイチゴ		●	●					●		

植物現地調査結果一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	調査区分	植物相調査								
			河川名	巴川 麻機遊水地第3工区								
			地区No.	A	B	C	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	
			距離 (km)									
40	バラ科	ノイバラ				●						
41		クサイチゴ				●						
42	マメ科	クサネム					●					
43		ゲンゲ	●	●								
44		ツルマメ	●									
45		ヤハズソウ	●									
46		シロツメクサ		●								
47		ヤハズエンドウ		●	●							
48		ヤブツルアズキ	●									
49	フクロソウ科	アメリカフウロ	●		●							
50	ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ		●								●
51	アカバナ科	ウスゲチョウジタデ		●				●				
52		コマツヨイグサ	●									
53	セリ科	マツバゼリ	●									
54		ノチドメ		●								
55		セリ	●	●					●	●	●	
56	サクラソウ科	コナスビ				●						
57	モクセイ科	ネズミモチ				●						
58	アカネ科	ヤエムグラ	●	●	●							
59		ホソバノヨツバムグラ					●		●	●		
60	ヒルガオ科	マメアサガオ		●								
61		ホシアサガオ	●									
62	ムラサキ科	ハナイバナ	●		●							
63		キュウリグサ		●								
64	クマツヅラ科	アレチハナガサ		●								
65	アワゴケ科	ミズハコベ	●									
66	シソ科	トウバナ	●									
67		ホトケノザ	●									
68		ヒメサルダヒコ						●	●	●		
69		ヒメジソ	●							●	●	
70		ミゾコウジュ				●						
71	ナス科	カンザシイヌホオズキ					●					
72	ゴマノハグサ科	キクモ	●									
73		アゼトウガラシ	●	●								
74		アゼナ	●									
75		トキワハゼ	●	●								
76		タチイヌノフグリ	●									
77		ムシクサ	●	●								
78		オオイヌノフグリ		●								

植物現地調査結果一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	調査区分	植物相調査								
			河川名	巴川 麻機遊水地第3工区								
			地区No.	A	B	C	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	
			距離 (km)									
79	ゴマノハグサ科	カワヂシャ		●	●		●					
80	キツネノマゴ科	オギノツメ			●			●	●	●		
81	オオバコ科	オオバコ			●							
82	キク科	ブタクサ			●							
83		オオブタクサ		●								
84		ヨモギ				●						
85		ヒロハホウキギク		●	●		●	●	●			●
86		アメリカセンダングサ		●								
87		コセンダングサ		●	●	●						
88		オオアレチノギク		●	●	●						
89		ヒメムカシヨモギ										●
90		ハハコグサ			●							
91		チチコグサ			●							
92		チチコグサモドキ		●		●						
93		キツネアザミ			●							
94		オオヂシバリ		●	●				●			●
95		ホソバニガナ			●							
96		イワニガナ										●
97		ヨメナ							●			
98		アキノノゲシ		●	●	●	●					●
99		コオニタビラコ		●	●							
100		セイタカアワダチソウ		●	●	●		●	●	●	●	●
101		オニノゲシ				●						
102		ノゲシ		●	●	●						
103		ヒメジョオン		●	●							
104		オオオナモミ			●							
105		オニタビラコ				●						
106	オモダカ科	オモダカ							●			
107	ユリ科	ノビル			●							
108	ヒガンバナ科	ヒガンバナ			●							
109	ミズアオイ科	ミズアオイ		●								●
110	アヤメ科	キショウブ				●						
111	イグサ科	イ		●	●			●	●	●	●	●
112		コウガイゼキショウ		●	●		●	●		●	●	●
113		ホソイ			●				●	●		
114	イネ科	カモジグサ		●	●	●		●				
115		イヌムギ				●						
116		ジュズダマ		●	●	●	●			●		
117		アキメヒシバ		●								

植物現地調査結果一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

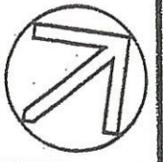
No.	科名	種名	調査区分	植物相調査								
			河川名	巴川 麻機遊水地第3工区								
			地区No.	A	B	C	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	
			距離 (km)									
118	イネ科	イヌビエ			●							●
119		ケイヌビエ		●	●		●	●				●
120		ウシノシッペイ		●	●							
121		チガヤ						●	●	●	●	●
122		チゴザサ			●			●	●	●	●	●
123		アシカキ		●	●		●				●	●
124		ネズミムギ		●	●							
125		アシボソ			●							
126		オギ		●	●	●					●	
127		ヌカキビ		●	●		●	●				
128		オオクサキビ						●				
129		キシユウスズメノヒエ			●						●	
130		チクゴスズメノヒエ		●	●						●	●
131		クサヨシ		●	●		●	●				
132		ヨシ		●	●		●	●	●	●	●	●
133		スズメノカタビラ			●							
134		イチゴツナギ		●								
135		アキノエノコログサ		●	●							
136		キンエノコロ		●			●					
137		マコモ		●	●	●						
138	ウキクサ科	ウキクサ			●							
139	ガマ科	ヒメガマ		●	●						●	
140		コガマ									●	
141	カヤツリグサ科	アゼナルコ		●	●		●	●	●	●		
142		カサスゲ			●	●						
143		ジュズスゲ			●							
144		アゼスゲ		●			●				●	●
145		スゲsp.			●				●	●		
146		スゲsp.			●				●	●		
147		カワラスガナ			●			●				
148		マツバイ			●							
149		ハリイ			●							
150		テンツキ						●	●			
151		ヒデリコ			●				●			
152		カンガレイ		●	●						●	●
153		サンカクイ									●	
種数合計				72	93	34	20	24	29	34	27	

植物既往文献調査表

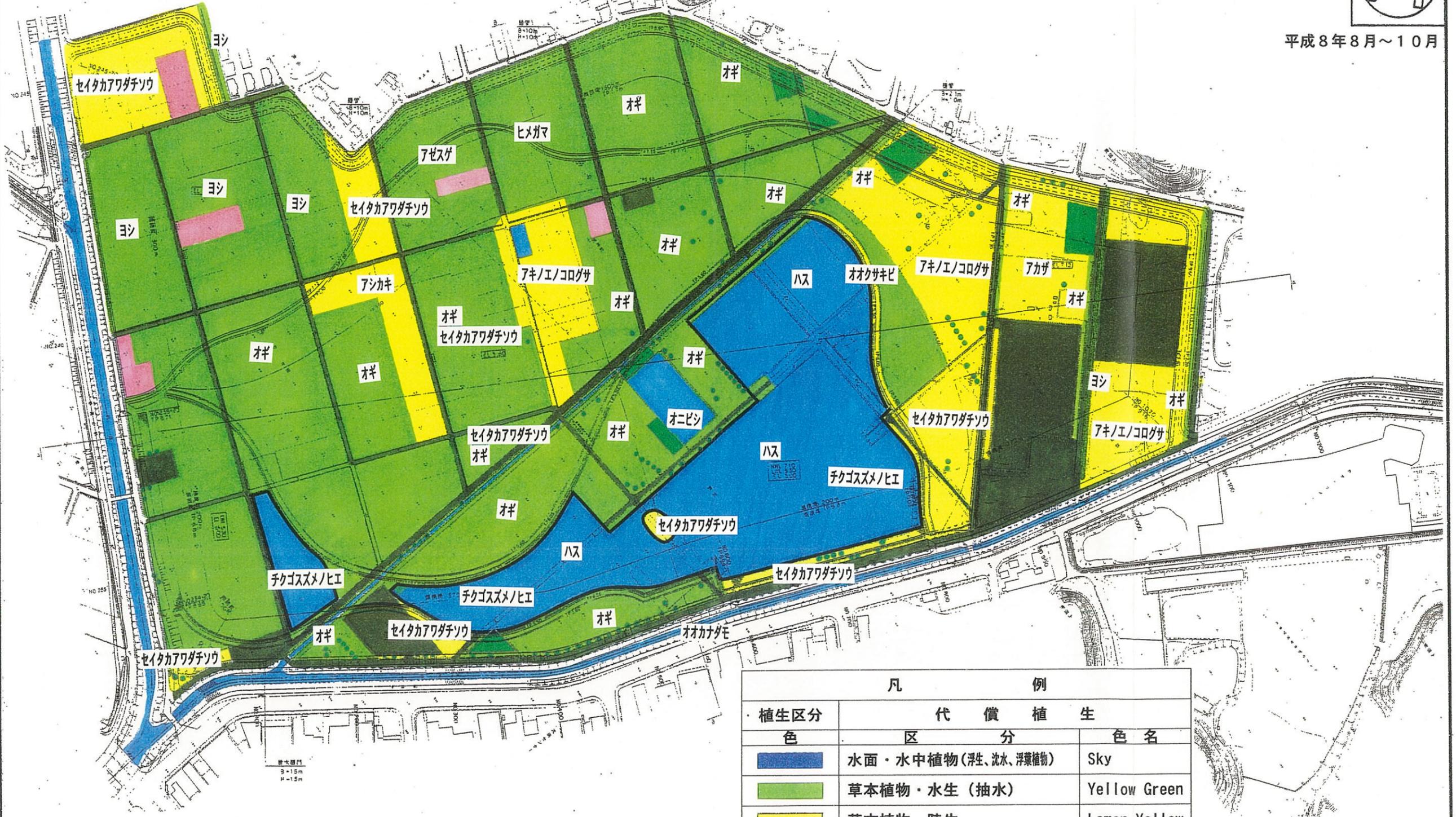
地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

文献 No.	文献名	調査者	調査 時期	調査 範囲	調査 項目	調査 方法	一般 公開
1	『多自然型川づくり』 への取り組み	静岡県 静岡土木事務所 〔静岡植物 研究会〕	～1990年8月	浅畑川周辺			
2	平成8年度 〔第08-K3000-01号〕 二級河川巴川（麻機遊水地） 河川改良に伴う 生物調査業務委託 （第1・2回）	静岡県 〔静岡植物 研究会 尾上 元 前島固女 平野時子〕	1996年 7月～10月	麻機遊水地 第3工区	麻機遊水地 （第3工区） における植 生、貴重種 の把握。河 川水辺の国 勢調査マ ニュアル （案）を基 に行った。	植生分布調査 植物相調査 コドロード調査 植物断面調査	
3	平成10年度 二級河川巴川（麻機遊水地） 植物調査（第3回）	静岡県 〔静岡植物 研究会 前島固女 平野時子〕	1998年11月	麻機遊水地 第3工区	工事施工に 伴う当該当 区域を対象 とした絶滅 危惧類等の 調査	植物調査	
4	平成11年度 二級河川巴川（麻機遊水地） 植物調査（第4回）	静岡県 〔静岡植物 研究会 尾上 元 前島固女 平野時子〕	1999年11月	麻機遊水地 第3工区	工事施工に 伴う当該当 区域を対象 とした絶滅 危惧類等の 調査	植物調査 コドロード調査	
5	平成11年度 〔第11-K2461-01号〕 二級河川巴川（麻機遊水地） 下水道関連特定治水施設 整備（総合治水）工事に 伴う動植物実態調査業務委託	静岡県 〔静岡植物 研究会 湯浅保雄〕	1998年10月	麻機遊水地 第4工区	第1回～4回 までの調査 記録のとり まとめ		

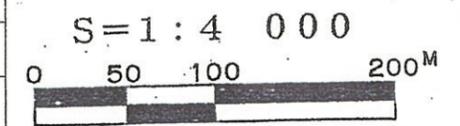
植生図



平成8年8月～10月



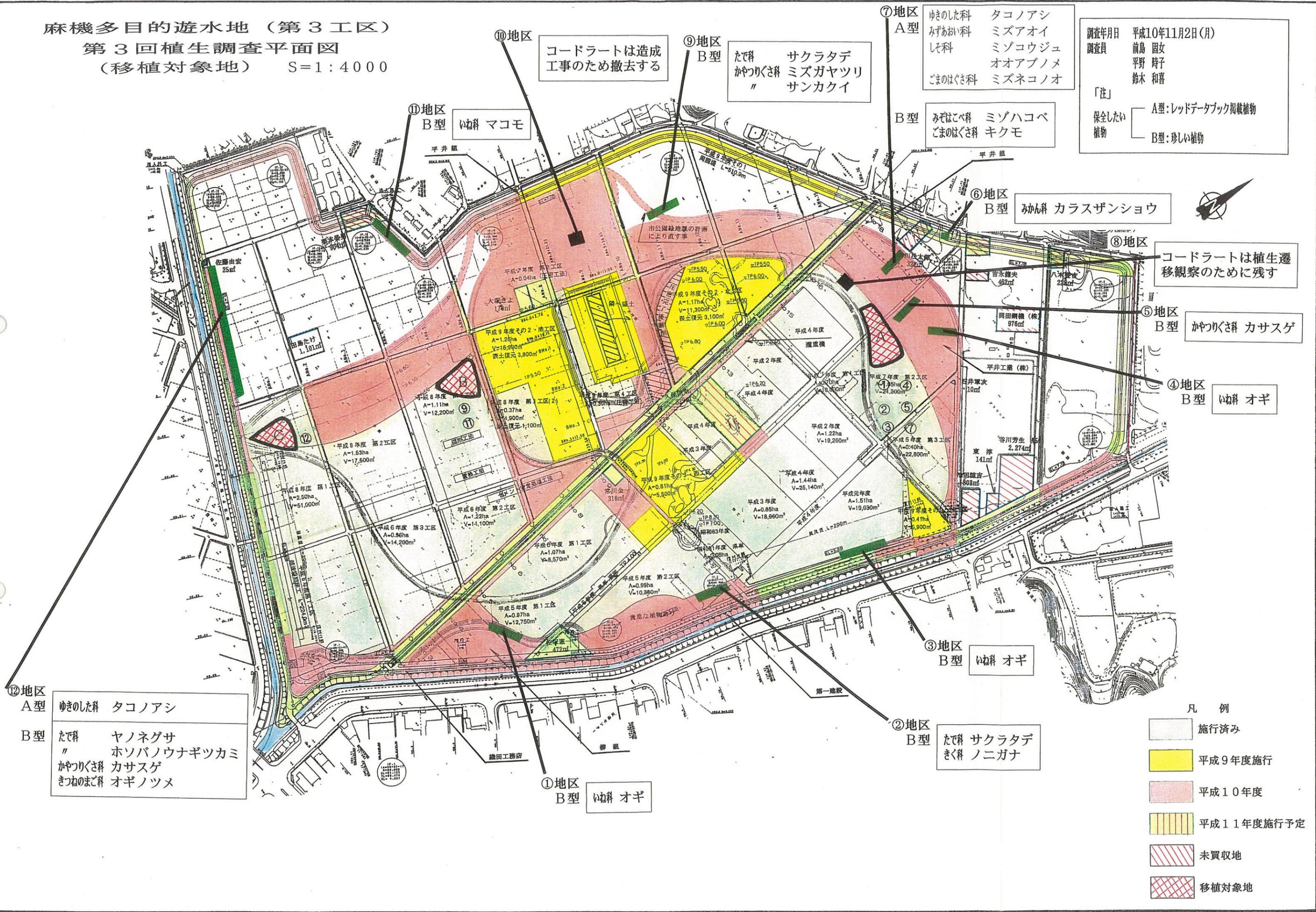
凡 例		
植生区分	代 償 植 生	色 名
色	区 分	
	水面・水中植物(萍、沈水、浮葉植物)	Sky
	草本植物・水生(抽水)	Yellow Green
	草本植物・陸生	Lemon Yellow
	木本植物	Forest Green
	耕作地(水田)	Pink
	人工裸地、(道路、グラウンド等)	Olive



麻機多目的遊水地 (第3工区)
第3回植生調査平面図
(移植対象地) S=1:4000

調査年月日 平成10年11月2日(月)
調査員 前島 固女
平野 時子
鈴木 和喜

「注」
保全したい植物
A型:レッドデータブック掲載植物
B型:珍しい植物



⑫地区
A型 ゆきのした科 タコノアシ
B型 たで科 ヤノネグサ
" ホソバノウナギツカミ
かやつりくさ科 カサスゲ
きつねのまご科 オギノツメ

①地区
B型 いね科 オギ

②地区
B型 たで科 サクラタデ
きく科 ノニガナ

③地区
B型 いね科 オギ

④地区
B型 かやつりくさ科 カサスゲ

⑤地区
B型 コードラートは植生遷移観察のために残す

⑥地区
B型 みかん科 カラスザンショウ

B型 みぞはこ科 ミゾハコベ
ごまのはぐさ科 キクモ

⑦地区
A型 ゆきのした科 タコノアシ
みずあおい科 ミズアオイ
しそ科 ミゾコウジュ
ごまのはぐさ科 ミズネコノオ

⑨地区
B型 たで科 サクラタデ
かやつりくさ科 ミズガヤツリ
" サンカクイ

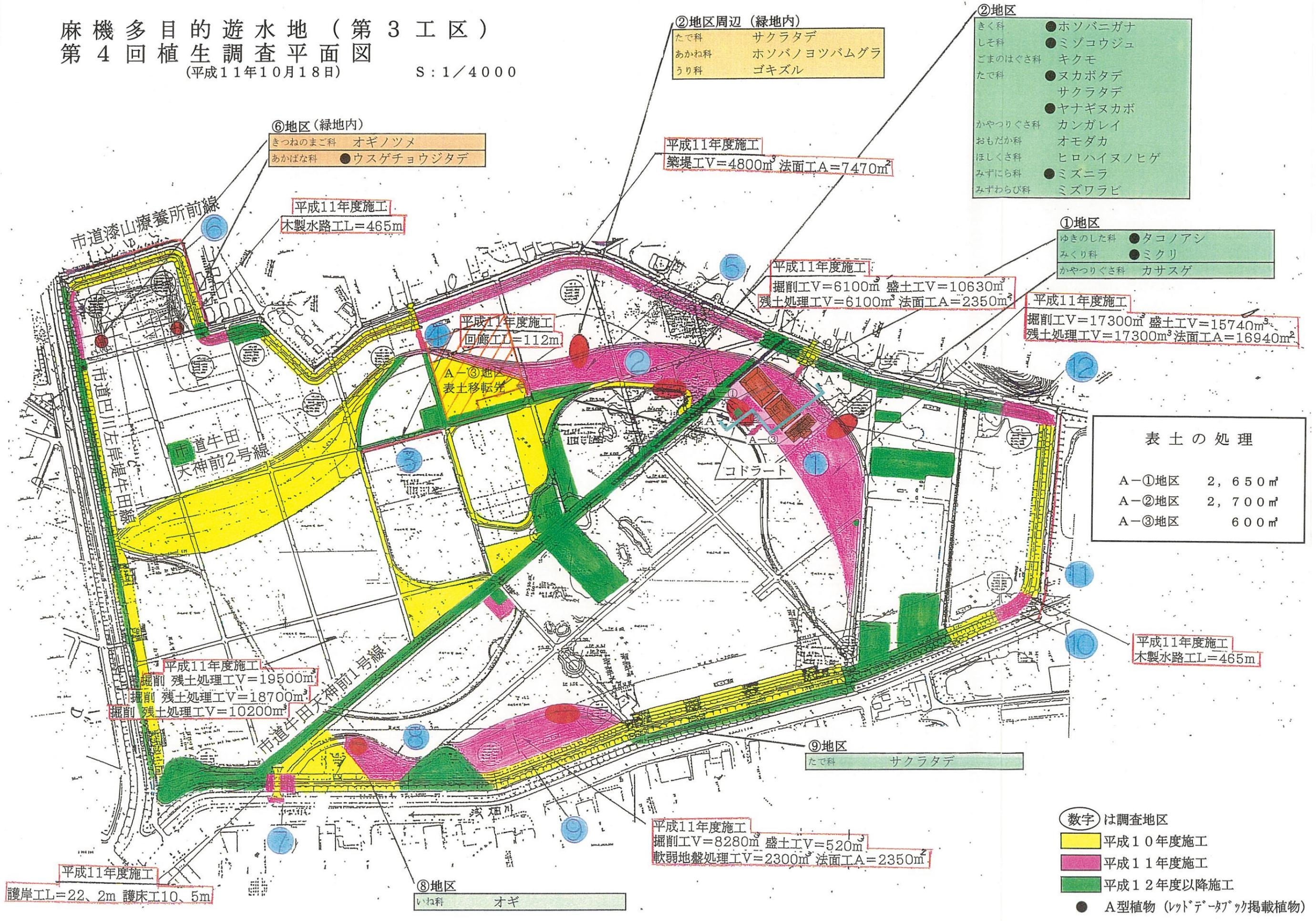
⑩地区
コードラートは造成工事のため撤去する

- 凡 例
- 施行済み
 - 平成9年度施行
 - 平成10年度
 - 平成11年度施行予定
 - 未買収地
 - 移植対象地

麻機多目的遊水地（第3工区） 第4回植生調査平面図

(平成11年10月18日)

S: 1/4000



- ②地区周辺（緑地内）
- たで科 サクラタデ
 - あかね科 ホソバノヨツバムグラ
 - うり科 ゴキズル

- ②地区
- きく科 ●ホソバニガナ
 - しそ科 ●ミゾコウジュ
 - ごまのはくさ科 キクモ
 - たで科 ●ヌカボタデ
 - サクラタデ
 - ヤナギヌカボ
 - かやつりぐさ科 カンガレイ
 - おもだか科 オモダカ
 - ほしくさ科 ヒロハイヌノヒゲ
 - みずいら科 ●ミズニラ
 - みずわらび科 ミズワラビ

- ⑥地区（緑地内）
- きつねのまご科 オギノツメ
 - あかばな科 ●ウスゲチョウジタデ

- ①地区
- ゆきのした科 ●タコノアシ
 - みくり科 ●ミクリ
 - かやつりぐさ科 カサスゲ

表土の処理

A-①地区	2,650m ²
A-②地区	2,700m ²
A-③地区	600m ²

平成11年度施工
掘削 残土処理工V=19500m³
掘削 残土処理工V=18700m³
掘削 残土処理工V=10200m³

平成11年度施工
掘削工V=8280m³ 盛土工V=520m³
軟弱地盤処理工V=2300m³ 法面工A=2350m²

平成11年度施工
護岸工L=22.2m 護床工10.5m

- 数字 ①は調査地区
- 黄色 平成10年度施工
- ピンク 平成11年度施工
- 緑色 平成12年度以降施工
- A型植物 (レッドデーブ掲載植物)

- ⑧地区
いなね科 オギ

- ⑨地区
たで科 サクラタデ

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科 名	種 名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8-10月)	1998 ('98年8-11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年～1998年
1	ミズニラ科	ミズニラ			●		●
2	トクサ科	スギナ	●	●			●
3		イヌトクサ					●
4	ミズワラビ科	ミズワラビ			●		●
5	オシダ科	オニヤブソテツ				●	
6	イチョウ科	イチョウ	●				
7	コウヤマキ科	スギ	●				
8	マキ科	マキ	●				
9	クルミ科	クルミ (オニグルミ)	●				
10	ヤナギ科	ポプラ (カロリナポプラ)	●				
11		シダレヤナギ	●		●	●	
12		アカメヤナギ	●	●		●	
13		カワヤナギ	●	●	●	●	●
14		ウンリュウヤナギ	●				
15		コゴメヤナギ	●		●	●	
16		タチヤナギ	●	●	●	●	
17		マルバヤナギ			●		
18		ヤナギ	●				
19		ヤナギsp.				●	
20	ブナ科	クリ	●				
21		マテバシイ	●				
22		シラカシ	●				
23		シイ	●				
24	ニレ科	ムクノキ	●				
25		エノキ	●	●			
26	クワ科	カナムグラ	●	●	●	●	
27		クワ	●				
28		ヤマグワ	●				
29	イラクサ科	カラムシ				●	
30		クサマオ		●			●
31	タデ科	サクラタデ	●	●	●	●	
32		ヤナギヌカボ	●		●		●
33		ヤナギタデ	●	●	●	●	●
34		オオイヌタデ	●	●	●	●	●
35		イヌタデ	●		●		●
36		サデクサ	●		●	●	●
37		ヤノネグサ	●	●	●	●	●
38		イシミカワ	●	●	●		●
39		ホソバノウナギツカミ	●	●		●	●

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8-10月)	1998 ('98年8-11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年~1998年
40	タデ科	ポントクタデ				●	●
41		アキノウナギツカミ	●			●	●
42		ヌカボタデ	●		●	●	●
43		ミゾソバ	●	●	●	●	●
44		ハイミチヤナギ					●
45		イタドリ	●			●	●
46		スイバ				●	●
47		アレチギシギシ	●	●	●	●	●
48		ナガバギシギシ	●	●	●	●	●
49		ギシギシ	●	●	●	●	●
50	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	●				
51	オシロイバナ科	オシロイバナ					●
52	ナデシコ科	オランダミミナグサ				●	
53		ツメクサ				●	
54		ノミノフスマ			●	●	
55		コハコベ					●
56		ハコベ					●
57		ムシトリナデシコ					●
58	アカザ科	シロザ					●
59		ケアリタソウ	●	●	●		●
60	ヒユ科	ヒナタイノコズチ	●	●	●	●	●
61		ホソバツルノゲイトウ			●		●
62		ツルノゲイトウ	●		●		
63		ホソアオゲイトウ					●
64		アオゲイトウ					●
65		イヌビユ	●				
66		ホナガイヌビユ	●				
67	モクレン科	コブシ	●				
68		モクレン	●				
69	クスノキ科	クスノキ	●				
70	キンポウゲ科	センニンソウ	●				●
71		ケキツネノボタン	●	●	●	●	●
72		タガラシ				●	
73		キツネノボタン					●
74	アケビ科	ムベ	●				
75	スイレン科	オニバス					●
76		ハス		●	●		
77	ツバキ科	ツバキ	●				
78		サカキ	●				

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8-10月)	1998 ('98年8-11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年～1998年
79	ツバキ科	ヒサカキ	●				
80	ケシ科	ムラサキケマン				●	●
81	アブラナ科	セイヨウカラシナ		●			●
82		タネツケバナ	●		●	●	●
83		マメグンバイナズナ					●
84		イヌガラシ				●	●
85		スカシタゴボウ	●	●	●	●	●
86	ペンケイソウ科	コモチマンネングサ				●	
87		アズマツメクサ				●	
88	ユキノシタ科	ウツギ	●				
89		タコノアシ	●	●	●	●	●
90	バラ科	ヘビイチゴ	●			●	●
91		ヤブヘビイチゴ			●		
92		ビワ	●				
93		オヘビイチゴ	●	●	●	●	●
94		モモ	●				
95		ピラカンサ (トキワサンザシ)	●				
96		ノイバラ	●	●		●	●
97		クサイチゴ	●			●	●
98		ウメ	●				
99		サクラ	●				
100		スモモ	●				
101		ナシ	●				
102		ベニスモモ	●				
103	マメ科	クサネム	●	●	●	●	●
104		ネムノキ	●				
105		ゲンゲ			●	●	
106		アレチヌスビトハギ	●	●	●		●
107		ツルマメ	●		●	●	●
108		マルバヤハズソウ	●	●			
109		ヤハズソウ				●	●
110		メドハギ	●	●			●
111		クズ	●				●
112		コメツブツメクサ					●
113		シロツメクサ	●	●	●	●	●
114		ヤハズエンドウ				●	●
115		カスマグサ					●
116		ヤブツルアズキ		●		●	
117		ヤブマメ	●				

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8-10月)	1998 ('98年8-11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年～1998年
118	カタバミ科	カタバミ	●	●	●		●
119		ムラサキカタバミ					●
120	フウロソウ科	アメリカフウロ	●		●	●	●
121	トウダイグサ科	エノキグサ	●	●	●		●
122		オオニシキソウ	●	●			●
123		アカメガシワ	●	●			
124		ヒメミカンソウ	●		●		
125		ナンキンハゼ	●				
126	ミカン科	カラスザンショウ		●			
127	センダン科	センダン	●				
128	ウルシ科	ウルシ	●				
129	カエデ科	モミジ	●				
130	モチノキ科	モチノキ	●				
131		クリスマスホーリー (アメリカヒイラギ)	●				
132	ニシキギ科	マユミ	●				
133	ブドウ科	ノブドウ					●
134		ヤブガラシ	●	●			
135	アオギリ科	アオギリ	●				
136	グミ科	グミ	●				
137	スマレ科	アリアケスマレ					●
138		ツボスマレ					●
139	ミゾハコベ科	イヌミゾハコベ					●
140		ミゾハコベ		●			
141	ウリ科	ゴギヅル			●		●
142		カラスウリ	●	●			
143	ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ			●	●	●
144		サルスベリ	●				
145		キカシグサ					●
146		ミズマツバ					●
147	ヒシ科	オニビシ		●	●		
148	アカバナ科	アカバナ	●				
149		チョウジタデ	●		●		
150		ウスゲチョウジタデ	●		●	●	●
151		メマツヨイグサ	●				
152		コマツヨイグサ				●	
153		アカバナユウゲショウ	●				
154	アリノトウグサ科	オオフサモ	●	●			●
155		ホザキノフサモ		●	●		
156	ミズキ科	アオキ	●				

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8-10月)	1998 ('98年8-11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年～1998年
157	セリ科	マツバゼリ	●	●	●	●	●
158		ノチドメ	●	●	●	●	●
159		チドメグサ					●
160		セリ	●	●	●	●	●
161		ヤブジラミ		●			
162		オヤブジラミ					●
163	サクラソウ科	コナスビ				●	
164	カキノキ科	カキ	●				
165	モクセイ科	ネズミモチ	●			●	
166		トウネズミモチ	●				
167		イボタノキ	●				
168	ガガイモ科	ガガイモ		●			
169	アカネ科	ヤエムグラ				●	●
170		ホソバノヨツバムグラ	●	●	●	●	●
171		フタバムグラ	●				
172		ヘクソカズラ	●	●			●
173	ヒルガオ科	コヒルガオ		●			
174		ヒルガオ	●				●
175		マメアサガオ	●	●	●	●	●
176		アサガオ					●
177		ホシアサガオ				●	
178	ムラサキ科	ハナイバナ				●	
179		キュウリグサ				●	
180	クマツヅラ科	クサギ					●
181		アレチハナガサ	●	●	●	●	
182		クマツヅラ					●
183	アワゴケ科	ミズハコベ				●	
184	シソ科	トウバナ	●			●	●
185		ミズネコノオ		●			
186		ホトケノザ				●	●
187		ヒメサルダヒコ	●			●	
188		ハッカ	●				
189		ヒメジソ	●		●	●	●
190		ミゾコウジュ	●	●	●	●	●
191	ナス科	カンザシイヌホオズキ				●	
192		トマト			●		
193		アメリカイヌホオズキ	●		●		
194		イヌホオズキ	●	●			●
195	ゴマノハグサ科	オオアブノメ		●			

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8・10月)	1998 ('98年8・11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年～1998年
196	ゴマノハグサ科	シソクサ	●				
197		キクモ	●	●	●	●	●
198		スズメノトウガラシ		●	●		●
199		ウリクサ	●				
200		アメリカアゼナ	●				
201		アゼトウガラシ	●			●	
202		アゼナ	●			●	●
203		トキワハゼ			●	●	●
204		タチイヌノフグリ				●	●
205		ムシクサ				●	
206		オオイヌノフグリ	●	●		●	●
207		カワヂシャ				●	
208	ノウセンカズラ科	キリ	●				
209	キツネノマゴ科	オギノツメ	●	●	●	●	●
210		キツネノマゴ	●				
211	オオバコ科	オオバコ	●			●	●
212	スイカズラ科	サンゴジュ	●				
213	キキョウ科	アゼムシロ	●				●
214	キク科	ブタクサ	●	●		●	
215		オオブタクサ	●			●	
216		カワラヨモギ					●
217		ヨモギ	●	●	●	●	●
218		ヒロハホウキギク	●	●	●	●	●
219		アメリカセンダングサ	●	●	●	●	●
220		コセンダングサ	●		●	●	●
221		オオアレチノギク	●	●	●	●	●
222		ベニバナボロギク			●		
223		タカサブロウ	●	●	●		●
224		アメリカタカサブロウ			●		
225		ダンドボロギク	●				
226		ヒメムカシヨモギ	●	●		●	●
227		ハハコグサ				●	
228		チチコグサ				●	
229		チチコグサモドキ				●	
230		キツネアザミ			●	●	
231		オオヂシバリ	●		●	●	●
232		ニガナ	●				●
233		ホソバニガナ		●	●	●	
234		イワニガナ				●	

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8-10月)	1998 ('98年8-11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年~1998年
235	キク科	ヨメナ	●	●	●	●	●
236		アキノノゲシ	●	●	●	●	●
237		ホソバアキノノゲシ		●			●
238		コオニタビラコ			●	●	
239		セイタカアワダチソウ	●	●	●	●	●
240		オニノゲシ	●	●		●	●
241		ノゲシ	●		●	●	●
242		アレチノギク					●
243		ヒメジヨオン	●	●		●	●
244		ヒロハタンポポ					●
245		セイヨウタンポポ	●				●
246		オオオナモミ		●		●	●
247		オニタビラコ			●	●	●
248	オモダカ科	ヘラオモダカ	●	●			●
249		オモダカ	●	●	●	●	
250		クワイ	●				●
251	トチカガミ科	オオカナダモ		●			
252	ヒルムシロ科	エビモ		●			●
253		ヒルムシロ	●				
254		ヤナギモ		●			
255		ツツイトモ			●		
256	イバラモ科	オオトリゲモ			●		
257	ユリ科	ノビル				●	●
258		ニラ					●
259		ジャノヒゲ	●	●			
260	ヒガンバナ科	ヒガンバナ				●	●
261		タマスダレ					●
262	ヤマノイモ科	ニガガシュウ	●	●			
263		ヤマノイモ	●				●
264	ミズアオイ科	ホテイアオイ	●				
265		ミズアオイ	●	●		●	●
266		コナギ	●				●
267		ヒメホテイソウ					●
268	アヤメ科	キショウブ		●		●	
269		オオニワゼキショウ					●
270	イグサ科	イ	●		●	●	
271		タカイ	●				
272		コウガイゼキショウ	●	●	●	●	●
273		ホソイ			●	●	●

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8-10月)	1998 ('98年8-11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年～1998年
274	ツユクサ科	イボクサ	●	●			●
275		ツユクサ	●	●	●		●
276	ホシクサ科	ヒロハイヌノヒゲ	●		●		
277	イネ科	オヒシバ	●	●	●		●
278		カモジグサ	●	●		●	●
279		スズメノテッポウ					●
280		メリケンカルカヤ	●	●	●		
281		コブナグサ	●	●	●		
282		トダシバ					●
283		ミノゴメ (カズノコグサ)	●				
284		イヌムギ				●	●
285		ジュズダマ	●		●	●	●
286		ギョウギシバ					●
287		メヒシバ	●		●		●
288		アキメヒシバ	●	●		●	●
289		イヌビエ	●	●	●	●	●
290		ケイヌビエ	●	●	●	●	●
291		タイヌビエ					●
292		ヒメイヌビエ	●				
293		オニシバ					●
294		カゼクサ	●	●			●
295		ニワホコリ	●				●
296		オニウシノケグサ					●
297		ウシノシッペイ	●	●		●	
298		チガヤ	●	●		●	●
299		チゴザサ	●	●	●	●	●
300		アシカキ	●	●		●	●
301		ネズミムギ	●	●	●	●	●
302		アシボソ		●		●	
303		オギ	●	●	●	●	●
304		ススキ					●
305		ヌカキビ	●	●	●	●	●
306		オオクサキビ	●	●	●	●	●
307		シマスズメノヒエ	●	●	●		●
308		キシユウスズメノヒエ	●	●	●	●	●
309		チクゴスズメノヒエ	●	●	●	●	●
310		スズメノヒエ	●				
311		チカラシバ	●	●			●
312		クサヨシ	●	●	●	●	●

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8・10月)	1998 ('98年8・11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年～1998年
313	イネ科	ヨシ	●	●	●	●	●
314		セイタカヨシ					●
315		スズメノカタビラ				●	●
316		イチゴツナギ				●	
317		アキノエノコログサ	●	●	●	●	●
318		コツブキンエノコロ					●
319		キンエノコロ	●		●	●	●
320		エノコログサ					●
321		ネズミノオ					●
322		マコモ	●	●	●	●	●
323		シバ	●	●			●
324		クサキビ		●			
325		シナダレスズメガヤ					●
326		ホソムギ	●				
327		ムツオレグサ	●				
328	ヤシ科	シュロ	●				
329	サトイモ科	ショウブ					●
330	ウキクサ科	アオウキクサ		●			
331		ウキクサ		●		●	
332	ミクリ科	ミクリ	●		●		●
333	ガマ科	ヒメガマ	●	●	●	●	●
334		コガマ	●	●		●	●
335	カヤツリグサ科	アオスゲ	●				●
336		アゼナルコ	●	●	●	●	●
337		カサスゲ	●	●	●	●	●
338		ジュズスゲ	●			●	●
339		ヤワラスゲ		●			
340		アゼスゲ	●	●		●	●
341		ハマスゲ	●		●		
342		スゲsp.				●	
343		スゲsp.				●	
344		アイダクグ	●	●			●
345		ヒメクグ	●		●		●
346		カヤツリグサ	●				
347		クグガヤツリ					●
348		タマガヤツリ	●	●	●		●
349		メリケンガヤツリ	●	●			●
350		ヒナガヤツリ	●				●
351		アゼガヤツリ	●				●

植物経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	麻機遊水地第3工区調査				既往文献 麻機遊水地第4工区
			1996 ('96年8-10月)	1998 ('98年8-11月)	1999 ('99年10月)	2000 ('01年1月)	文献3 1993年～1998年
352	カヤツリグサ科	コゴメガヤツリ	●	●	●		●
353		イガガヤツリ					●
354		カワラスガナ	●	●	●	●	●
355		ミズガヤツリ		●			●
356		マツバイ	●			●	●
357		ハリイ	●	●	●	●	●
358		コツブヌマハリイ	●				
359		テンツキ	●			●	●
360		ヒデリコ	●	●	●	●	●
361		イヌホタルイ					●
362		フトイ					●
363		カンガレイ	●	●	●	●	●
364		サンカクイ	●	●		●	●
365		タイワンヤマイ					●
366	アカギヌゴケ科	ハネヒツジゴケ					●
367	ザクロ科	ザクロ	●				
368	ロウバイ科	ロウバイ	●				
369	シャジクモ科	シャジクモ			●		●
370	—	アオミドロ			●		
種数合計			233	133	121	153	210

植物出現種目録

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	学名
1	オシダ科	オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>
2	ヤナギ科	シダレヤナギ	<i>Salix babylonica</i> var. <i>lavallo</i>
3		アカメヤナギ	<i>Salix chaenomeloides</i>
4		カワヤナギ	<i>Salix gilgiana</i>
5		コゴメヤナギ	<i>Salix serissaefolia</i>
6		タチヤナギ	<i>Salix subfragilis</i>
7		ヤナギsp.	<i>Salix</i> sp.
8	クワ科	カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>
9	イラクサ科	カラムシ	<i>Boeheria nivea</i> var. <i>concolor</i>
10	タデ科	サクラタデ	<i>Persicaria conspicua</i>
11		ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>
12		オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i>
13		サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i>
14		ヤノネグサ	<i>Persicaria nipponensis</i>
15		ホソバノウナギツカミ	<i>Persicaria praetermissa</i>
16		ボントクタデ	<i>Persicaria pubescens</i>
17		アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sieboldii</i>
18		ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>
19		ミゾソバ	<i>Persicaria thunbergii</i>
20		イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>
21		スイバ	<i>Rumex acetosa</i>
22		アレチギシギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>
23		ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i>
24		ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>
25	ナデシコ科	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>
26		ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>
27		ノミノフスマ	<i>Stellaria alsine</i> var. <i>undulata</i>
28	ヒユ科	ヒナタイノコズチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>
29	キンポウゲ科	ケキツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>
30		タガラシ	<i>Ranunculus sceleratus</i>
31	ケシ科	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>
32	アブラナ科	タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i>
33		イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>
34		スカシタゴボウ	<i>Rorippa islandica</i>
35	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>
36		アズマツメクサ	<i>Tillaea aquatica</i>
37	ユキノシタ科	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>
38	バラ科	ヘビイチゴ	<i>Duchesnea chrysantha</i>
39		オヘビイチゴ	<i>Potentilla sundaica</i> var. <i>robusta</i>
40		ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>
41		クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>
42	マメ科	クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>

植物出現種目録

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	学名
43	マメ科	ゲンゲ	<i>Astragalus sinicus</i>
44		ツルマメ	<i>Glycine max ssp. soja</i>
45		ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>
46		シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>
47		ヤハズエンドウ	<i>Vicia angustifolia</i>
48		ヤブツルアズキ	<i>Vigna angularis var. nipponensis</i>
49	フクロソウ科	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>
50	ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ	<i>Ammannia coccinea</i>
51	アカバナ科	ウスゲチョウジタデ	<i>Ludwigia greatrexii</i>
52		コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>
53	セリ科	マツバゼリ	<i>Apium leptophyllum</i>
54		ノチドメ	<i>Hydrocotyle maritima</i>
55		セリ	<i>Oenanthe javanica</i>
56	サクラソウ科	コナスビ	<i>Lysimachia japonica f. subsessilis</i>
57	モクセイ科	ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>
58	アカネ科	ヤエムグラ	<i>Galium spurium var. echinospermon</i>
59		ホソバノヨツバムグラ	<i>Galium trifidum var. brevipedunculatum</i>
60	ヒルガオ科	マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i>
61		ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>
62	ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>
63		キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>
64	クマツヅラ科	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>
65	アワゴケ科	ミズハコベ	<i>Callitriche verna</i>
66	シソ科	トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>
67		ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>
68		ヒメサルダヒコ	<i>Lycopus ramosissimus</i>
69		ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>
70		ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>
71	ナス科	カンザシイヌホオズキ	<i>Solanum sp.</i>
72	ゴマノハグサ科	キクモ	<i>Limnophila sessiliflora</i>
73		アゼトウガラシ	<i>Lindernia micrantha</i>
74		アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>
75		トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>
76		タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>
77		ムシクサ	<i>Veronica peregrina</i>
78		オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>
79		カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>
80	キツネノマゴ科	オギノツメ	<i>Hygrophila salicifolia</i>
81	オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>
82	キク科	ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiaefolia var. elatior</i>
83		オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>
84		ヨモギ	<i>Artemisia indica var. maximowiczii</i>

植物出現種目録

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	学名
85	キク科	ヒロハホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>ligulatus</i>
86		アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>
87		コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>
88		オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>
89		ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>
90		ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>
91		チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>
92		チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>
93		キツネアザミ	<i>Hemistepta lyrata</i>
94		オオヂシバリ	<i>Ixeris debilis</i>
95		ホソバニガナ	<i>Ixeris makinoana</i>
96		イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>
97		ヨメナ	<i>Kalimeris yomena</i>
98		アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i>
99		コオニタビラコ	<i>Lapsana apogonoides</i>
100		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>
101		オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i>
102		ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>
103		ヒメジヨオン	<i>Stenactis annuus</i>
104		オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>
105		オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>
106	オモダカ科	オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i>
107	ユリ科	ノビル	<i>Allium grayi</i>
108	ヒガンバナ科	ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>
109	ミズアオイ科	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i>
110	アヤメ科	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>
111	イグサ科	イ	<i>Juncus effusus</i> var. <i>decipiens</i>
112		コウガイゼキショウ	<i>Juncus leschenaultii</i>
113		ホソイ	<i>Juncus setchuensis</i> var. <i>effusoides</i>
114	イネ科	カモジグサ	<i>Agropyron tsukushiense</i> var. <i>transiens</i>
115		イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>
116		ジュズダマ	<i>Coix lacryma-jobi</i>
117		アキメヒシバ	<i>Digitaria vilascens</i>
118		イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>
119		ケイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>echinata</i>
120		ウシノシッペイ	<i>Hemarthria sibirica</i>
121		チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>
122		チゴザサ	<i>Isachne globosa</i>
123		アシカキ	<i>Leersia japonica</i>
124		ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>
125		アシボン	<i>Microstegium vimineum</i> var. <i>polystachyum</i>
126		オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>

植物出現種目録

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	科名	種名	学名
127	イネ科	ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>
128		オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>
129		キシユウスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i>
130		チクゴスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum L, var, indutum sniners. Rbodora</i>
131		クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>
132		ヨシ	<i>Phragmites australis</i>
133		スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>
134		イチゴツナギ	<i>Poa sphondylodes</i>
135		アキノエノコログサ	<i>Setaris faberi</i>
136		キンエノコロ	<i>Setaria pumilla</i>
137		マコモ	<i>Zizania latifolia</i>
138	ウキクサ科	ウキクサ	<i>Spirodela polyrhiza</i>
139	ガマ科	ヒメガマ	<i>Typha angustifolia</i>
140		コガマ	<i>Typha orientalis</i>
141	カヤツリグサ科	アゼナルコ	<i>Carex dimorpholepis</i>
142		カサスゲ	<i>Carex dispalata</i>
143		ジュズスゲ	<i>Carex ischnostachya</i>
144		アゼスゲ	<i>Carex thunbergii</i>
145		スゲsp.	<i>Carex sp.</i>
146		スゲsp.	<i>Carex sp.</i>
147		カワラスガナ	<i>Cyperus sanguinolentus</i>
148		マツバイ	<i>Eleocharis acicularis var. longiseta</i>
149		ハリイ	<i>Eleocharis congesta ssp. Japonica</i>
150		テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i>
151		ヒデリコ	<i>Fimbristylis miliacea</i>
152		カンガレイ	<i>Scirpus triangulatus</i>
153		サンカクイ	<i>Scirpus triangulatus</i>

植物相調査票 1

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

調査年月日	2001年1月29日	河川名	麻機遊水地	市区町村名	静岡市野丈地先
地区番号		地区名	A地区	全体調査地区	
位置	左岸・右岸・中洲・その他				

種名	出現状況	生育場所	RDB
ヤナギタデ		小堤側	
アキノウナギツカミ		〃	
ツメクサ		〃	
コモチマンネングサ		〃	
タコノアシ		〃	VU
ヤハズソウ		〃	
ヤブツルアズキ		〃	
セリ		〃	
ヒメジソ		〃	
オオブタクサ		〃	
アメリカセンダングサ		〃	
アキメヒシバ		〃	
ケイヌビエ		〃	
ウシノシッペイ		〃	
アシカキ	+2	〃	
ヨシ		〃	
アキノエノコログサ		〃	
アゼナルコ		〃	
スカシタゴボウ		小堤側水中	
タコノアシ	10株	〃	VU
ツルマメ		〃	
コマツヨイグサ		〃	
マツバゼリ		〃	
ホシアサガオ		〃	
ハナイバナ		〃	
ミズハコベ		〃	
トウバナ		〃	
ホトケノザ		〃	
タチイヌノフグリ		〃	

種名	出現状況	生育場所	RDB
ムシクサ		小堤側水中	
カワヂシャ		〃	NT
コセンダングサ		〃	
ミズアオイ	10株	〃	VU
イ		〃	
ネズミムギ		〃	
キンエノコロ		〃	
ヒメガマ		〃	
アゼナルコ		〃	
カンガレイ		〃	珍
オオイヌタデ		樋管側	
アレチギシギシ		〃	
ナガバギシギシ		〃	
ギシギシ		〃	
オランダミミナグサ		〃	
ノミノフスマ		〃	
ケキツネノボタン		〃	
タネツケバナ		〃	
オヘビイチゴ		〃	
ゲンゲ		〃	
アメリカフウロ		〃	
ヤエムグラ		〃	
トキワハゼ		〃	
ヒロハホウキギク		〃	
オオアレチノギク		〃	
チチコグサモドキ		〃	
オオヂシバリ		〃	
アキノノゲシ		〃	
コオニタビラコ		〃	

<p><特記事項> 休耕田の土が埋まっている。 出現状況：+3(調査地区内で広範囲に確認された) +2(調査地区内で所々で確認された) 生育場所：調査地区内の概ねの生育場所。 RDB：レッドデータブック掲載種でレッドデータブックのカテゴリーを示す。 「珍」はこの地域では珍しい植物。</p>	調査担当者氏名・所属
	湯浅保雄(静岡植物研究会会長)
	前島固女(静岡植物研究会)
	平野時子(静岡植物研究会)
	栗山由佳子(麻機自然観察会)
	大坪篤次(静岡水生・湿生植物研究会代表)
	鈴木和喜(吉田測量設計㈱) 砂子知代実(吉田測量設計㈱)

植物相調査票 1

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地	2000

調査年月日	2001年1月29日	河川名	麻機遊水地	市区町村名	静岡市野丈地先
地区番号		地区名	B地区	全体調査地区	
位置	左岸・右岸・中洲・その他				

種名	出現状況	生育場所	RDB
シダレヤナギ	1本	築山より西側	
アカメヤナギ		〃	
コゴメヤナギ		〃	
タチヤナギ		〃	
サクラタデ		〃	珍
ヤナギタデ		〃	
オオイヌタデ		〃	
サデクサ		〃	
ヤノネグサ		〃	珍
ホソバノウナギツカミ		〃	珍
ミゾソバ		〃	
イヌガラシ		〃	
スカシタゴボウ		〃	
アズマツメクサ		〃	
タコノアシ		〃	VU
オヘビイチゴ		〃	
ゲンゲ		〃	
シロツメクサ		〃	
ホソバヒメミソハギ		〃	
ウスゲチョウジタデ		〃	VU
ノチドメ		〃	
アレチハナガサ		〃	
アゼトウガラシ		〃	
トキワハゼ		〃	
ムシクサ		〃	
カワヂシャ		〃	NT
オギノツメ		〃	珍
オオバコ		〃	
ブタクサ		〃	

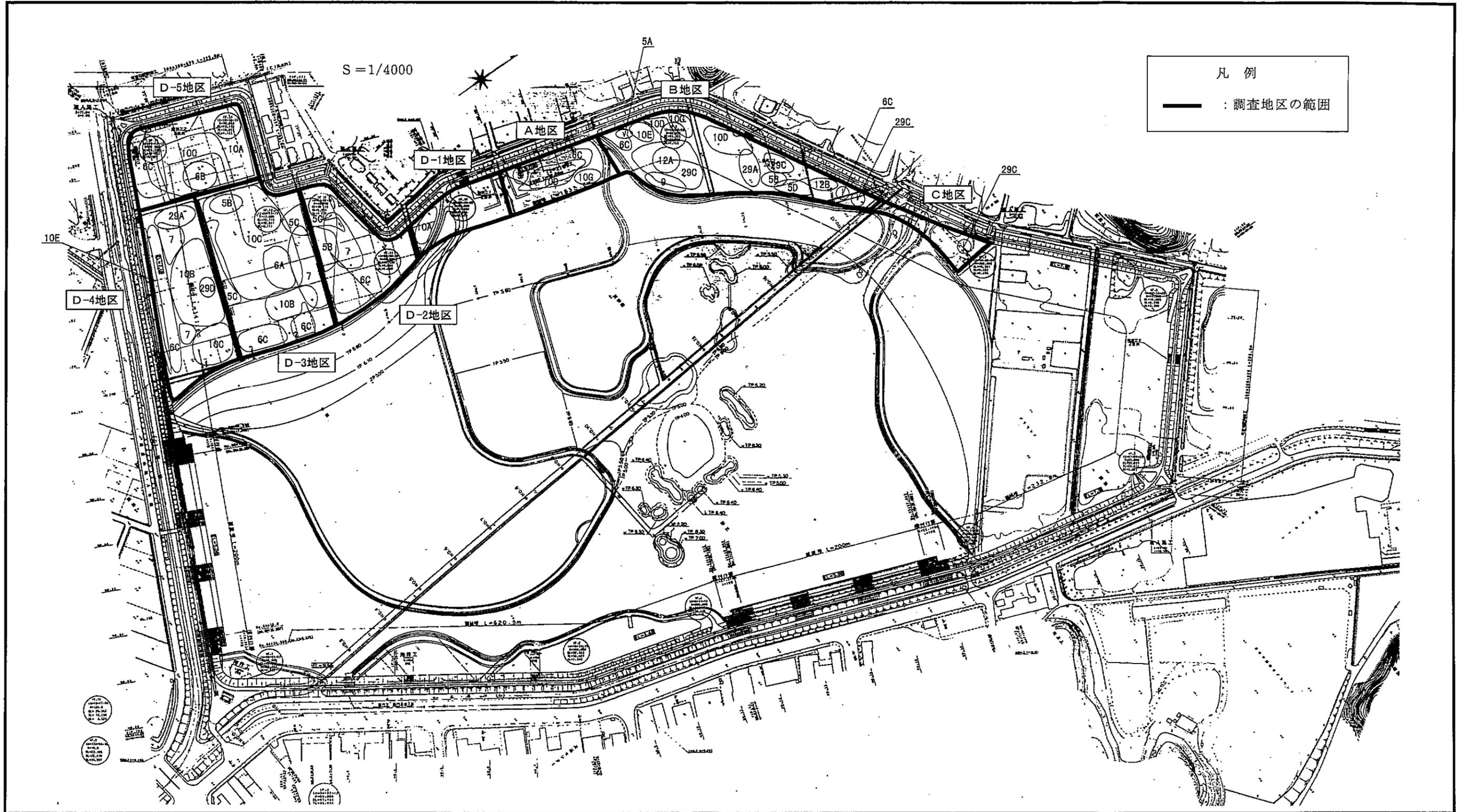
種名	出現状況	生育場所	RDB
オオアレチノギク		築山より西側	
ハハコグサ		〃	
チチコグサ		〃	
ホソバニガナ		〃	EN
コオニタビラコ		〃	
セイタカアワダチソウ		〃	
ヒメジョオン		〃	
イ		〃	
コウガイゼキショウ		〃	
ジュズダマ		〃	
イヌビエ		〃	
ウシノシツペイ		〃	
チゴザサ		〃	
アシカキ		〃	
アシボン		〃	
オギ		〃	珍
ヌカキビ		〃	
チクゴスズメノヒエ	+3	〃	
クサヨシ	+3	〃	
ヨシ	+3	〃	
スズメノカタビラ		〃	
マコモ		〃	珍
ヒメガマ		〃	
アゼナルコ		〃	
カサスゲ	+3	〃	珍
ジュズスゲ		〃	
スゲsp.		〃	
スゲsp.		〃	
カワラスガナ		〃	

<p><特記事項> 築山の西側の休耕田の土が盛土してある。 出現状況：+3(調査地区内で広範囲に確認された) +2(調査地区内で所々で確認された) 生育場所：調査地区内の概ねの生育場所。 RDB：レッドデータブック掲載種でレッドデータブックのカテゴリーを示す。 「珍」はこの地域では珍しい植物。</p>	調査担当者氏名・所属
	湯浅保雄(静岡植物研究会会長)
	前島固女(静岡植物研究会)
	平野時子(静岡植物研究会)
	栗山由佳子(麻機自然観察会)
	大坪篤次(静岡水生・湿生植物研究会代表)
	鈴木和喜(吉田測量設計(株)) 砂子知代実(吉田測量設計(株))

植物相調査票2

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

調査年月日	2001年1月26日・29日	河川名	巴川	市区町村名	静岡県静岡市
地区番号		地区名	全体調査地区	距離	
位置	左岸・右岸・中洲・その他				



植物同定文献調査表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

文献名	分類群
杉本順一 静岡県の植物誌 第一法規	
北村四郎(他) 1957~1979. 原色日本植物図鑑 草本編上・中・下 保育社	上. 草本合弁科 中. 草本離弁科 下. 草本単子葉類
長田武正 原色日本帰化植物図鑑 保育社	被子植物亜門(帰化植物)
長田武正 日本帰化植物図鑑 北隆館	帰化植物
長田武正 1989. 日本イネ科植物図譜 平凡社	被子植物亜門(イネ科)
長田武正 日本イネ科植物図譜増補 平凡社	イネ科
長田武正 1984. 検索入門野草図鑑 保育社	被子植物亜門
角野康郎 1994. 日本水草図鑑 文一総合	被子植物亜門(水草)
佐竹義輔 1938. 大日本植物誌 三省堂	被子植物亜門(トウシンサウ科) ※イグサ科

6. 鳥類調査

6. 鳥類調査

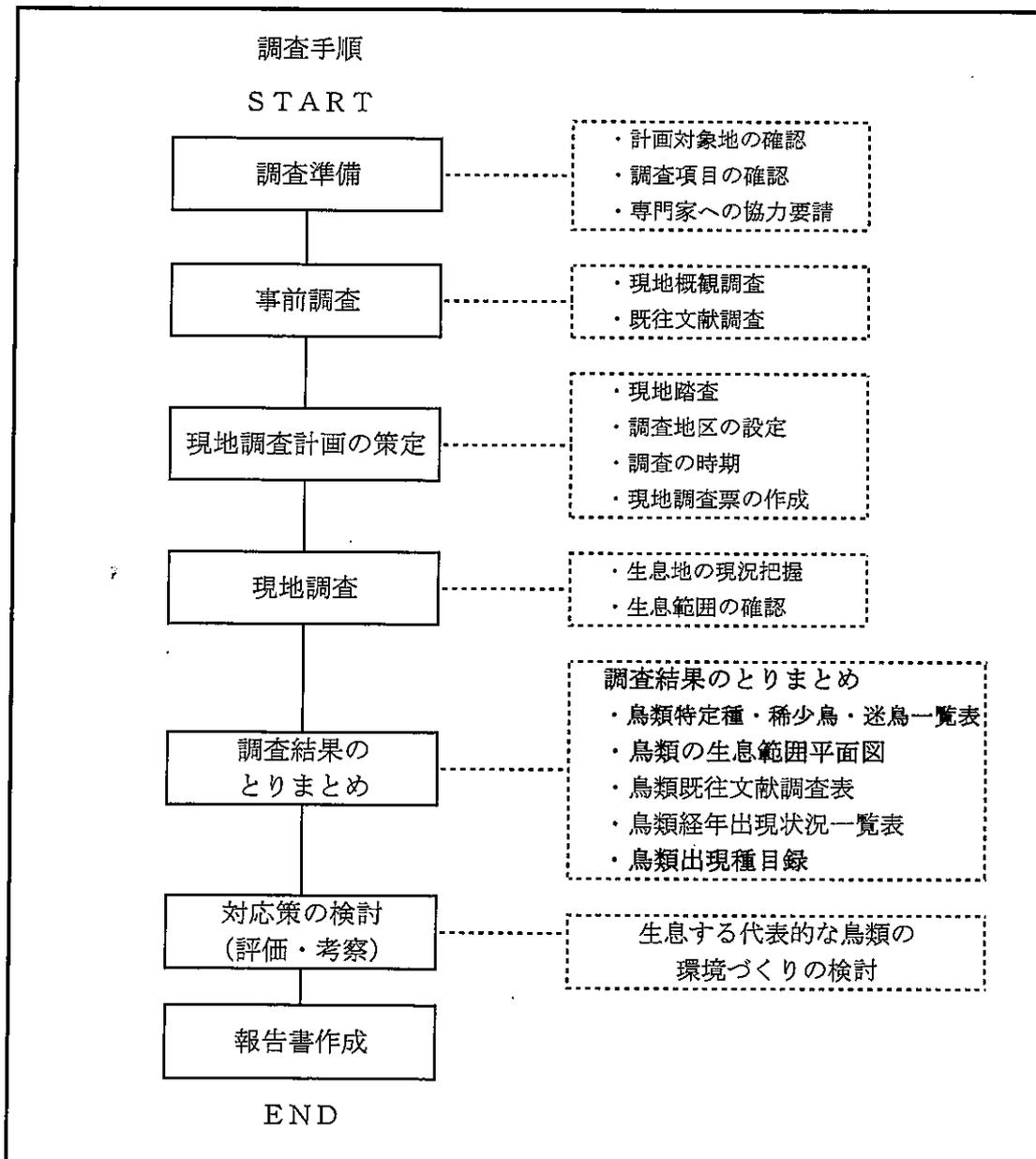
調査の方法は河川マニュアルを参考にして行う。

(1) 調査対象地区 (P66 調査対象地区平面図参照)

現地の整備状況から業務対象地区をA・B・Cの3地区に設定するが、その他の地区(補足調査)をD-1～D-6、D-なしの7地区に設定する。

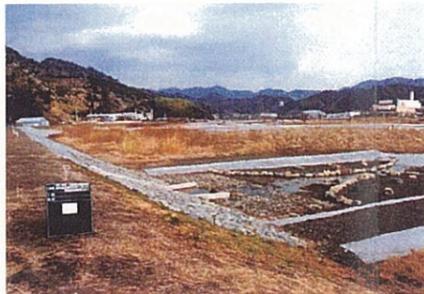
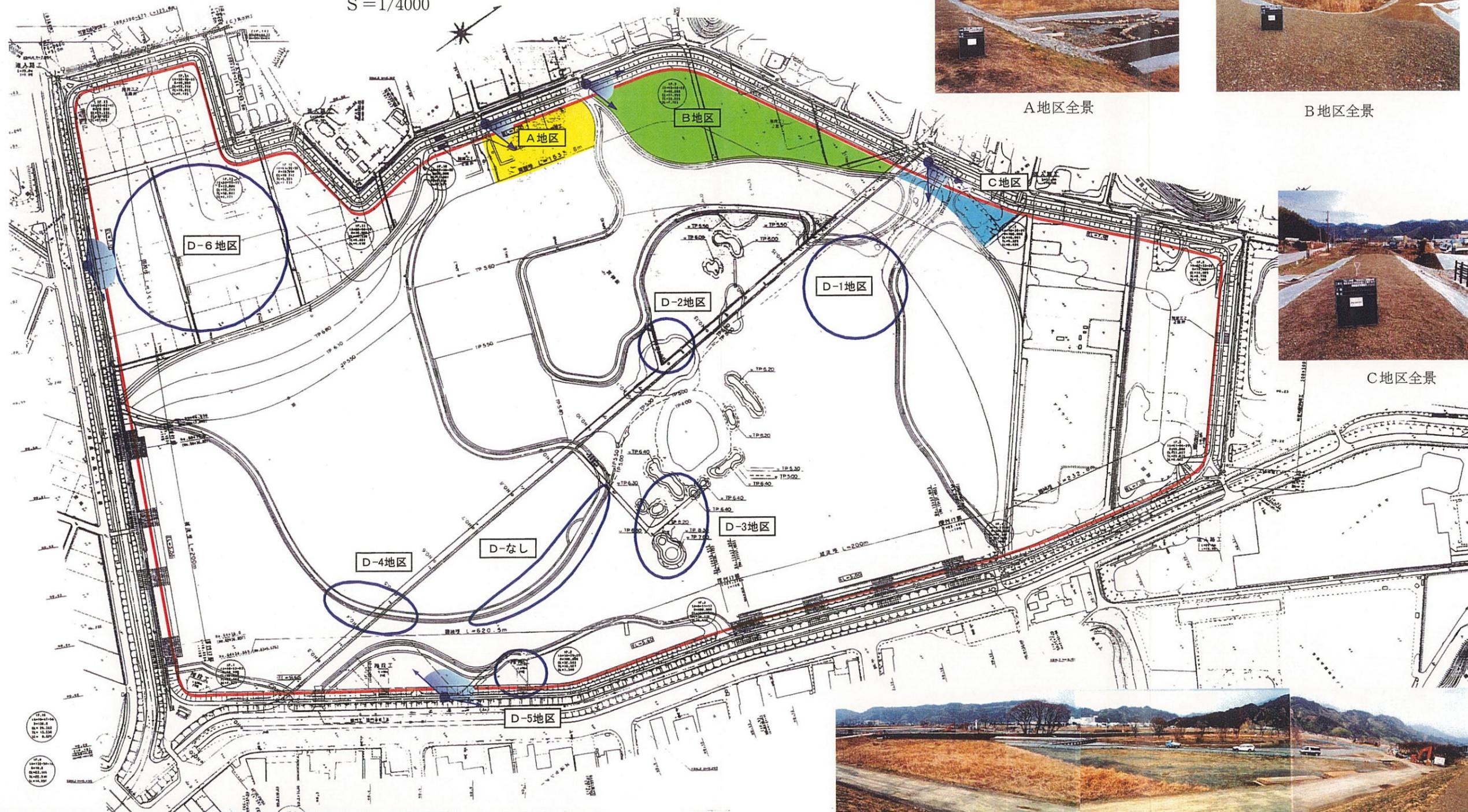
(2) 調査の手順

調査の手順は河川マニュアルの調査項目を参考にして行う。



麻機遊水地（第3工区）
鳥類調査対象地区平面図

S = 1/4000



A地区全景



B地区全景



C地区全景



D-1地区～D-5地区全景



D-6地区全景

- 凡例
- A地区 B地区 C地区 調査対象地区
 - D-1地区 D-2地区 D-3地区 D-4地区 D-5地区 D-6地区 その他の地区
 - 撮影方向

(3) 現地調査計画

現地を概観し、調査地区、協力要請する専門家、調査日程及び調査方法を設定する。

① 調査地区の設定

前項(1)に設定した業務対象地区とその他の地区(補足調査)に分けて行う。

② 協力要請する専門家

協力は(財)日本野鳥の会静岡支部支部員に要請する。

(敬称略)

氏名	要請理由
伴野 正志	遊水地を対象にした野鳥の観察は19年目を迎えている。また、昆虫等についても観察している。遊水地の自然について最も熱心な活動家の1人である。

③ 調査日程

平成13年2月3日(土)に実施する。

④ 調査の方法

調査は業務対象地とその他の地区(補足調査)の現況把握と鳥類の生息範囲を確認する。

(4) 現地調査結果のとりまとめ

とりまとめは河川マニュアルの様式を参考にP77以降に掲載する。

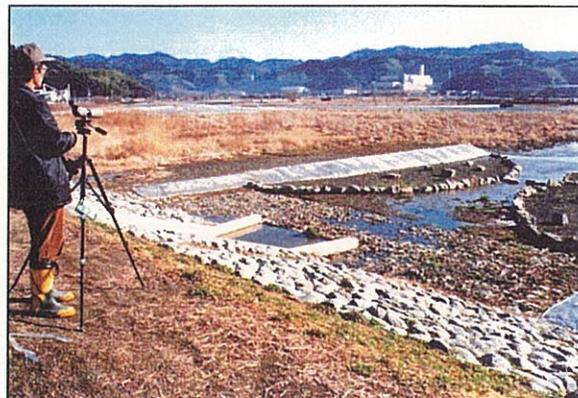
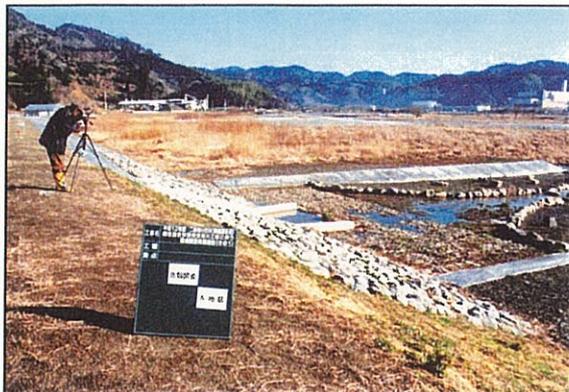
- ・ 鳥類特定種・稀少鳥・迷鳥一覧表
- ・ 鳥類の生息範囲平面図(独自の様式)
- ・ 鳥類既往文献調査表
- ・ 鳥類経年出現状況一覧表
- ・ 鳥類出現種目録

(5) 評価・考察

本工区では初めての調査である。本調査は今まで観察されてきた記録をもとに、各地区ごとに飛来してくる鳥類を挙げ、今後の対策を考察する。

A地区

① 現況



② 評価

- ・ 樋門～ビオトープ形式の水辺は、シギ、チドリ、セキレイ類が採餌に利用している。こども病院からの水質に問題がなければ、よい湿地となる。

生息または生息が予測される鳥類：クサシギ、タシギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、
タヒバリなど

- ・ 右写真の湿地は人間の出入りがしにくいゾーンである。ここではカモ類、サギ類、ホオジロ類が利用している。

生息または生息が予測される鳥類：ダイサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、アオジ、
ホオジロ、カシラダカ、カワラヒワ、スズメなど

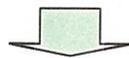
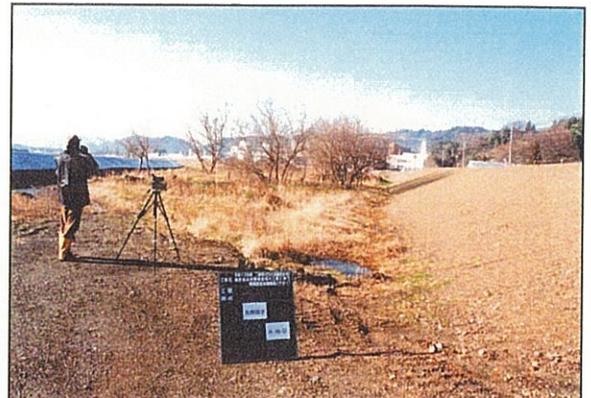


③ 考察

- ・ 樹木がほとんどないので、ヤナギ類等を植えたい。
- ・ 人間の出入りが出来ないゾーンにしたい。(調査は別)

B地区

① 現況



② 評価

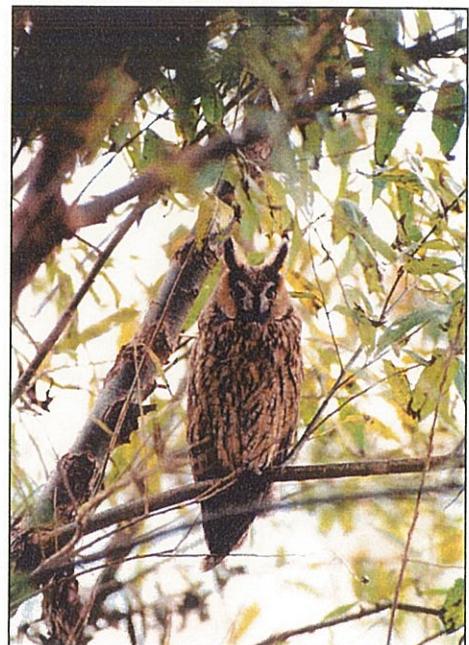
この地区全域は人間の出入りがない場所で、現況のまま保全したい。ただし、樹木の周りの下草は定期的に刈りたい。

生息または生息が予測される鳥類：モズ、ヒヨドリ、ホオジロ、アオジ、カシラダカ、キジバト、スズメ、カワラヒワ、クイナ（夏はヒクイナ）、タシギ、シジュウカラなど

③ 考察



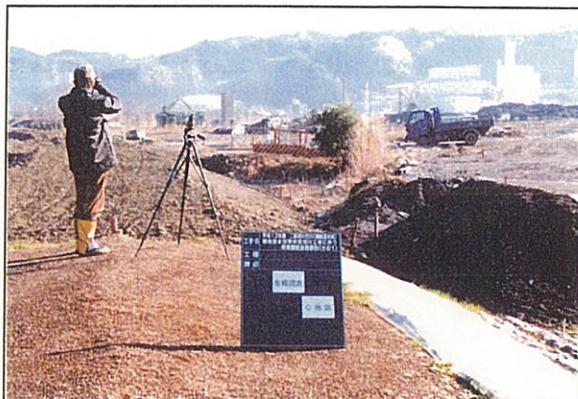
草はらの中の樹木には、冬期トラフズク（フクロウ科）がネグラとして利用する可能性があり、大切なゾーンにしたい。実際に工事前には当地周辺でトラフズク、コミミズク、オオコノハズク、フクロウが記録されている。



トラフズク 撮影：伴野 正志

C地区

① 現況



② 評価

この地区は道路に近いゾーンで鳥類の生息には適さない。工事前には樹木が多く、アリスイ（キツキ科）、モズ、トラフズクなど記録されている。写真にあるブッシュ（樹林）ではモズが営巣すると思われる。

生息または生息が予測される鳥類：キジ、モズ、メジロ、ホオジロ、セキレイ類、トラフズク、ヒヨドリなど



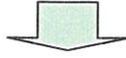
③ 考察

- ・ 現状のままでは、あまり多くの鳥類は期待出来ない。
- ・ 道路が近いので、ゴミ捨て場になる可能性があり、注意を要する。

D-1地区

① 現況





② 評価

このゾーン（一角）だけでは鳥類にとってあまり意味がない。実験的なゾーンなので、今後の環境の変化（植物の生育状況）によっては評価できる。

生息または生息が予測される鳥類：モズ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ホオジロ、キジバトなど

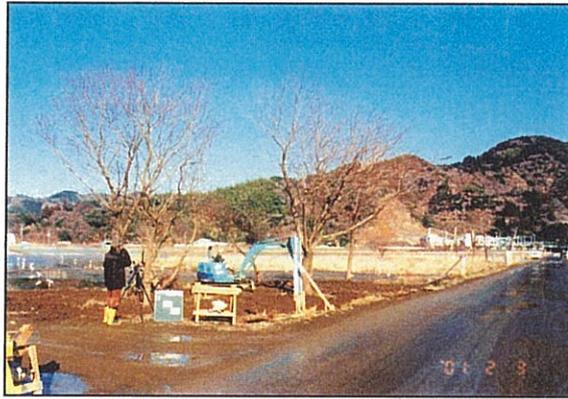


③ 考察

現状では考察できない。

D-2 地区

① 現況



② 評価

まとまった樹木ゾーンだけに大切な所であったが、樹木が間引きされてしまい鳥類にとっては休息程度の場所となってしまった。工事前にはフクロウ類がネグラとして利用していた。

生息または生息が予測される鳥類：フクロウ、トラフズク、コミミズク、アオバズク、オオコノハズク、ヨタカ、ホオジロ、アオジ、キジバト等の記録がある



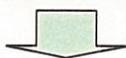
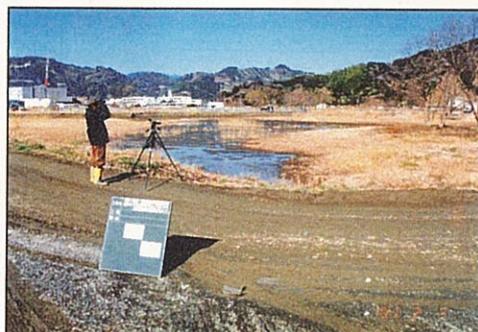
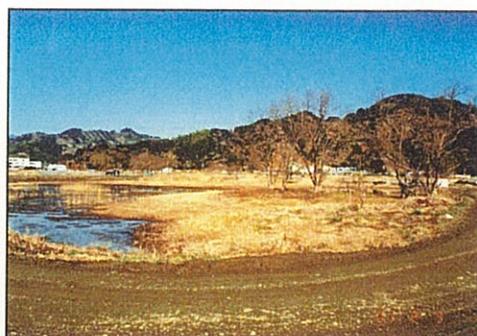
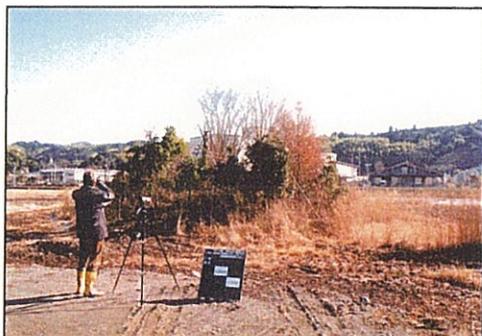
③ 考察

右側の道路がなくなれば鳥類にとって休息・採餌のゾーンとして利用できる。昆虫類も豊富な所だけに、これ以上樹木を間引きしないようにしたい。

今までに確認した昆虫類：コムラサキ（クロコムラサキ）、クロコノマチョウ、ヒオドシチョウ、アカタテハ、ハグロトンボ、リスアカネ、コクワガタ、コガネムシ、カメノコテントウなど

D-3地区

① 現況



② 評価

農道を切断して、島状に残した所である。人間の出入りができないので鳥類にとっては大変よい環境である。オオタカ、キジ、キジバトなど比較的大型鳥類が記録されている。

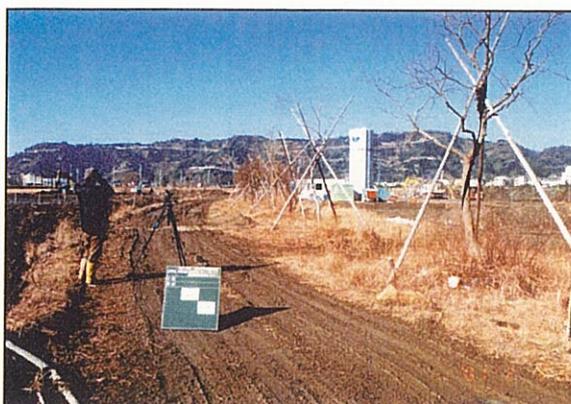


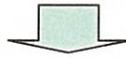
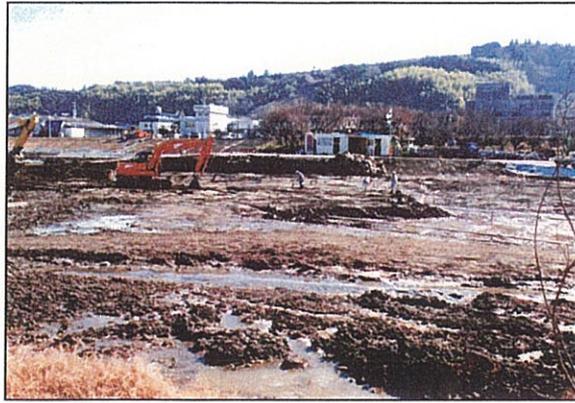
③ 考察

下草がそのままなので、定期的な刈り取りが必要と思われる。

D-4地区

① 現況





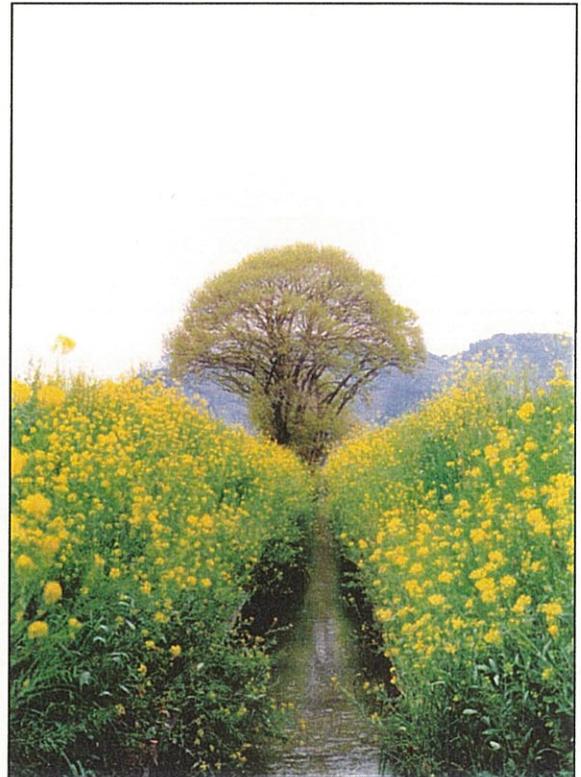
② 評価

- Ⓐ 植えられた樹木であるが、トビ、オオタカ、ノスリ、カラス類などの大型鳥類が利用している。
- Ⓑ このヤナギはハシブトガラスが毎年営巣している。ヤナギの両サイドの土手はナノハナの群落であったが、工事の為消失した。残念である。



③ 考察

- ・ 強風、大雨で倒木の恐れがあるので、対策が必要と思われる。
- ・ 樹木のせん定はなるべくしないで、自然樹形が望ましい。



ナノハナの群落 撮影：伴野 正志

D-5地区

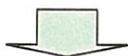
① 現況



② 評価

この栗林は多く鳥類が記録されている。オオタカ、モズ、トビ、キジバト、ホオジロ類など。昆虫類が多いので、それらを餌とする鳥類が多い。

生息または生息が予測される昆虫類：ツノトンボ、シジミチョウ類、タテハチョウ類、カミキリムシ類など

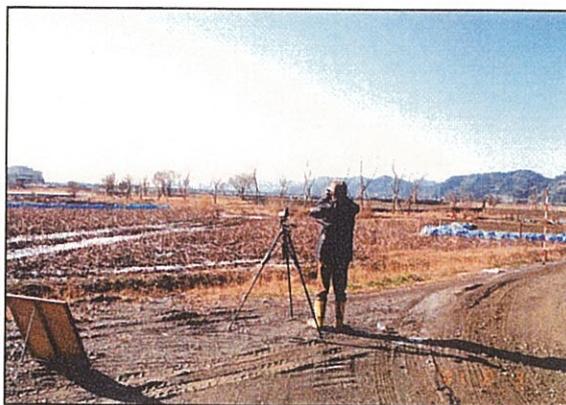


③ 考察

- ・ 栗林は私有のものと思われるが、出来ればそのまま残したい所である。
- ・ ゴミの多い所であるが、車の出入りが出来なくなるので、ゴミ処理後は、よい環境になると思われる。

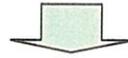
D-なし

① 現況



② 評価

D-4地区(左)同様、植えられた樹木である。D-4地区より鳥類の利用は少なく、昆虫類の場所といえる。ただ、下草(ブッシュ)では、ウズラが昨年生息していた。

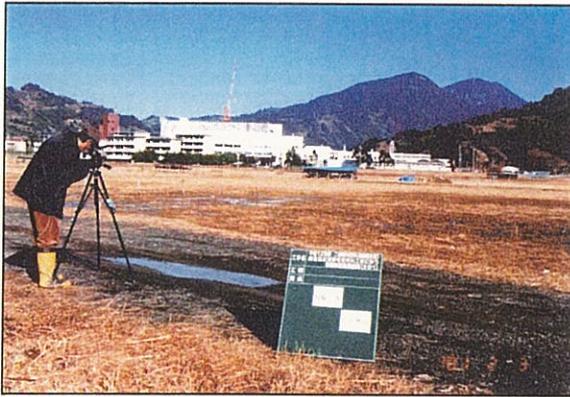


③ 考察

ここは散策路に利用され鳥類にとっては多くは望めない。樹木も休息程度に利用が予測されるのみである。

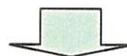
D-6地区

① 現況



② 評価

- ・ この地区は秋にコミミズク、トラフズク、ヨタカが多く出現した所だが、現在はほとんど記録はない。
- ・ 樹木がない地区だけにホオジロ類などの小鳥が生息するだけである。
- ・ 昆虫では本州初記録のトビロヤンマが記録された所である。



③ 考察

多目的な広場ゾーンとなるので鳥類の生息には適さない場所となる。

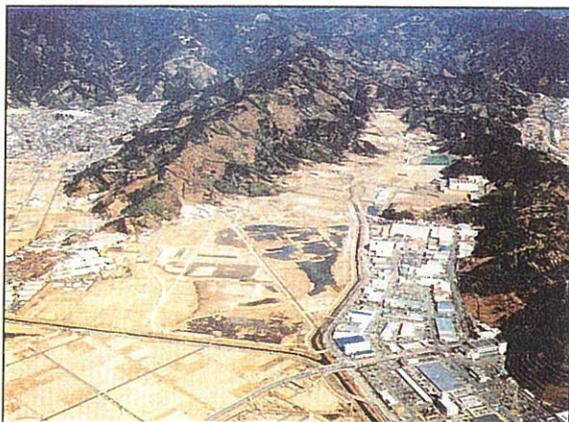


トビロヤンマ

撮影：伴野 正志

周辺地区との連続性

① 現況



加藤島上空より上流を望む



観山上空より上流を望む



② 評価

今後まだ工事が続けられるので、鳥類の生息には適さない場所が多く残念である。治水が目的だから仕方がない。

それでも静岡市内には水辺が少なく、まだまだ多くの鳥類が利用しており、年間 100 種以上が記録されている。



③ 考察

- ・ 今後の工事で車の出入りがほとんど出来なくなると思われるので、駐車スペースの確保が必要となる。
- ・ また、工事中の所の立入禁止は、はっきりとした表示が必要である。あいまいな表示は誤解を招き、トラブルのもととなる。
- ・ 早く工事の終了を願う。



オオタカ 撮影：伴野 正志

(6) 調査結果

調査結果を以下に挙げる。

整理様式 2

鳥類特定種・稀少鳥・迷鳥一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

種名	指定区分	河川名	距離(km)	市区町村名	情報源			文献・聞き取り先 調査者	生息状況
					聞き取り	文献	現地調査 1983年～2001年3月		
コウノトリ	CR	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
コシヤクシギ	CR	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
サンカノゴイ	EN	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
オオヨシゴイ	EN	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
イヌワシ	EN	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
クマタカ	EN	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
セイタカシギ	EN	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
コクガン	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
トモエガモ	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
オオワシ	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
オオタカ	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
チュウヒ	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
ハヤブサ	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
シマクイナ	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
ツバメチドリ	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
コアジサシ	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
コジュリン	VU	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
チュウサギ	NT	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
マガン	NT	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	

鳥類特定種・稀少鳥・迷鳥一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

種名	指定区分	河川名	距離 (km)	市区町 村名	情報源			文献・聞き取り先 調査者	生息状況
					聞き取り	文献	現地調査		
							1983年～2001年3月		
ミサゴ	NT	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
ハチクマ	NT	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
ハイタカ	NT	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
オオジシギ	NT	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
アカモズ	NT	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
ノジコ	NT	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
ウズラ	DD	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
カムリカイツブリ	LP	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
アカエリカイツブリ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
アカガシラシラサギ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
ムラサキサギ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
アメリカヒドリ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
コチョウゲンボウ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
ヒメクイナ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
シロハラクイナ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
ツルクイナ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
レンカク	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
ハジロコチドリ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
アメリカウズラシギ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
チュウジシギ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	

鳥類特定種・稀少鳥・迷鳥一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

種名	指定区分	河川名	距離(km)	市区町村名	情報源			文献・聞き取り先 調査者	生息状況
					聞き取り	文献	現地調査 1983年～2001年3月		
クロハラアジサシ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
ヤツガシラ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
ツメナガセキレイ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	
ツリスガラ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○		日本野鳥の会 静岡支部	
コホオアカ	稀少鳥・迷鳥	巴川 (麻機遊水地)		静岡県 静岡市		○	○	日本野鳥の会 静岡支部	

EX: 「レッドデータブック」における絶滅種 (EX)

EW: 「レッドデータブック」における野生絶滅種 (EW)

CR: 「レッドデータブック」における絶滅危惧ⅠA類 (CR)

EN: 「レッドデータブック」における絶滅危惧ⅠB類 (EN)

VU: 「レッドデータブック」における絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

NT: 「レッドデータブック」における準絶滅危惧 (NT)

DD: 「レッドデータブック」における情報不足 (DD)

LP: 「レッドデータブック」における絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

他: 地方において特筆すべき文献等

稀少鳥・迷鳥: 麻機における稀少鳥・迷鳥

①コウノトリ

絶滅危惧 I A類 {CR}



コウノトリ目/コウノトリ科

Ciconia ciconia

コウノトリ ☆☆

White Stork

鳥

L112cm W193cm

兵庫県

木の枝にとまって休む、白と黒の大きな水鳥。ユーラシアとアフリカ大陸の温帯に繁殖地を持つ。日本でも、明治初年には全国に広く分布し繁殖していたらしいが、その後、狩猟、湿地の開発などによって急速に数が減り、1953年には天然記念物に指定されたものの、1958年の調査時には兵庫県に15羽、福井県に6羽を残すだけとなってしまった。その後も有効な保護策はとられず、1971年に最後の1羽が禽舎に収容されて、日本で繁殖する野生のコウノトリは絶滅してしまった。特別天然記念物と特殊鳥類に指定されている。現在では、大陸産のものが、冬鳥として稀に渡来するに過ぎない。

生活 水田、沼地、大きな川などの広い湿地で生活し、草地や水辺を歩きながら魚、カエル、昆虫などを捕える。高い木の梢に小枝を積み重ね、枯れ草や土も用いて大きな皿形の巣を作り、電柱に営巣することもあった。江戸時代には、寺院の屋根などに営巣した記録が残されている。産卵期は3～5月、卵数は3～4個、抱卵日数は30日位、巣立ちまでの日数は53～55日位である。

声 成鳥はほとんど鳴くことがなく、ごく稀にかすれたような声を出すことがある。しかし、雛のうちには「ジェッジェッ」という声で鳴いている。成鳥は鳴く代わりにオスもメスもくちばしを叩き合わせて「カタカタカタ」というリズムカルな音を立てる。巣の上でのディスプレイ時にもこれを行う。

見分け方 ツル類にやや似るが、くちばしが太くて長く、顔や首の模様、翼上面のパターンが違う。

時期 1 2 3 11 12

②コシャクシギ

絶滅危惧 I A類 {CR}



チドリ目/シギ科

Numenius minutus

コシャクシギ

Little Whimbrel

小杓鷗

L31cm

下に曲がった短いくちばしを持った、チュウシャクシギを小形にしたようなシギ類。東部シベリアの一部の狭い地域で繁殖し、日本には旅鳥として春秋に渡来するが、記録は少ない。

生活 日本では4～5月と9～10月頃に、海岸近くの草地、農耕地で1羽が発見される例がほとんどだが、九州や対馬ではやや個体数が多い。干潟に出ることは稀である。草地を歩きながら、昆虫などを捕える。繁殖期にはまばらに低木が生えたツンドラなどに棲息するが、詳しい繁殖生態は不明である。地上の巣に普通4卵を産み、メスだけが22～23日位抱卵するらしい。

声 上空を旋回しながら「フィークフィーク」と鳴くという記録や、「ピーユー」とか「ビューリユー」と鳴くという記録もある。

見分け方 チュウシャクシギよりも体が小さく、くちばしも短く頭部より少し長い位しかない。チュウシャクシギの幼鳥はくちばしが短めなので注意を要するが、コシャクシギの腰は横斑があり、暗色に見える。

時期 . . . 4 5 . . . 8 9 10 . . .

ハリモモチュウシャク *N. tahitiensis*, Bristle-thighed

Whimbrel 大きさや体形はチュウシャクシギにそっくりの鳥で、腿に羽軸の先が針のように突き出た羽を持っている。腰は淡い赤褐色。アラスカの一部で繁殖し、日本には稀な旅鳥として春秋に渡来するが、海辺の草地や干潟で1羽が発見された数例があるに過ぎない。

③サンカノゴイ

絶滅危惧 I B 類 {EN}

資料なし

④オオヨシゴイ

絶滅危惧 I B 類 {EN}

コウノトリ目 / サギ科

Ixobrychus eurhythmus

オオヨシゴイ

Schrenck's Little Bittern

大葭五位, 大葦五位
L39cm W56cm



背中が栗色をした、草原に棲む小形のサギ類。ユーラシア大陸東部の温帯から亜寒帯で繁殖する。日本には夏鳥として渡来し、北海道、本州中部以北、佐渡島で繁殖するが、繁殖地は局地で、個体数は少ない。

生活 形や習性はヨシゴイによく似ているが、ヨシゴイよりはやや乾いた草地に棲息し、両種が同時に見られる地域では、この傾向がはっきりする。巣は草原の乾いた地上に作る事が多く、草の根元に枯れ草を皿形に少し敷いただけの粗雑なものである。つがいで生活し、産卵期は5～7月、卵数は4～6個、抱卵日数は17～19日位、巣立ちまでの日数は3週間位である。主に魚やカエルなどを餌とする。ヨシゴイと同様に、警戒する時には首を長く伸ばして草の茎に似た下面の縦斑を見せ、姿を背景にとけ込ませる。敵が動くとそれに応じて向きを変え、常に縦斑が見えるようにする。鳥類の羽色は、その棲息環境の中で目立たないような色となっている例が多いが、ヨシゴイ類のように行動を伴った擬態をするのは珍しい。

声 ヨシゴイと同じような環境に棲み「ウー、ウー、ウー」とか、「ウォーウォーウォー」など、同じようなうなり声で鳴く。

見分け方 ヨシゴイとよく似るが背中が栗色をしており、翼の風切と雨覆のコントラストはヨシゴイほどはっきりしない。また、虹彩の後ろの部分に黒斑があるのも特徴である。♀の背面には白斑が散在する。

時期 5 6 7 8 9 10 11 .

⑤イヌワシ

絶滅危惧 I B 類 {EN}



ワシタカ目 / ワシタカ科

Aquila chrysaetos

イヌワシ ☆☆☆

Golden Eagle

狗鷹

♂ 81cm ♀ 89cm
W168~
213cm

石川卓

全体に黒褐色で、後頭が金褐色の大変大きなワシ。北半球の極北部を除く地域内で局地的に繁殖する。日本では近畿地方より北の本州でごく少数が繁殖し、留鳥となっている。個体数が少なく繁殖力も弱いので、絶滅が心配される種の一つであり、天然記念物と特殊鳥類に指定されている。

生活 高山から低山の広い範囲を生活圏とし、一年中つかいで暮らす。獲物のとり方はクマタカに似る。獲物の種類もほぼ同じだが、体が大きい分、クマタカより大きな獲物をとることができる。秋には求愛飛行が始まり、雌雄は並んで飛んだり、急上昇と翼を逆三角形にすぼめて急降下を繰り返す。普通、生活圏内の険しい断崖の岩棚や大木の枝の上に枯れ枝を積み重ねた皿形の巣をいくつか持ち、その中の気に入った巣を補強して使う。通常2月には早くも産卵に入るが、これは雌が食べ盛りになる時期を、餌になるノウサギの子供がたくさん野山に出てくる時期に合わせているのだという。産卵は普通2個。抱卵約45日で孵化するが、雌は殺し合いをするので、たいてい1羽しか育たない。巣立ちまでの日数は70~80日位。飛行時には翼を深くV字形に保つ。

声 繁殖期以外はほとんど鳴かない。オスは「クォー」とか「グワークワッ」と鳴くことがある。メスは巣の中で「ピョッ、ピョッ、ピョッ」と優しい声で鳴き続けることもある。なお、文献には「ホイヨー」と鳴くとある。

見分け方 若鳥は黒く、翼と尾には白色部がある。本種の翼は細めで長く、尾は長くてやや円尾。海ワシ類とは尾の形が違う。クマタカとは翼の形と模様異なる。

時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

⑥クマタカ

絶滅危惧 I B 類 {EN}



ワシタカ目 / ワシタカ科

Spizaetus nipalensis

クマタカ ☆

Hodgson's Hawk Eagle

角鷹, 熊鷹

♂ 72cm ♀ 80cm
W140~165cm

黒い頭と後頭に冠羽を持つ、褐色の大変大きなタカ。インド北部や中国東部から日本、インド南部やスリランカなどの比較的狭い地域で繁殖する。日本では北海道から九州で少数が繁殖し、留鳥性が強い。特殊鳥類

生活 亜高山から低山の森に棲み、一年中同一地域で暮らす。木の枝上などから地上を見張り、獲物を見つけると飛びかかる。あるいは上空をゆっくり軌翔や滑翔をしながら地上を探り、獲物を見つけると翼をすぼめ、急降下して襲いかかる。逃げ足の速い動物を襲う時は、はばたきに滑翔を交えて地上近くを飛び追撃する。獲物はムササビやノウサギなどの中形哺乳類、ヘビ類、キジ、キジバト、ヒヨドリなどの中形以上の鳥類が多い。2月頃、求愛行動や巣材運びが始まる。広い森林内のモミヤコメツガなどの枝上に木の枝を積んで皿形の巣を作り、3月下旬から4月に普通1卵を産む。抱卵日数は50日位、巣立ちまでの日数は70~80日位である。はばたきはゆったりしており、飛行時は翼を水平に保持する。

声 繁殖期以外はほとんど鳴かない。繁殖地では3月頃から「ピッピッピッ、ビューー」という声で鳴き始め、オスとメスがつれ立って飛ぶのが見られる。また、「ビヒュー、ビビ」というやさしい声でラブコールをする。育雛時には「ビビビヒ、ピッピッ、ビューービューー」と鳴く。

見分け方 若鳥は顔から腹が白っぽく、目の周辺にくま取りがある。本種の翼は後縁が大きくふくらみ、著しく幅が広い。翼下面には横斑が一面にあり、尾にも横帯が5本見えるが、若鳥の下面覆は無斑である。

時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

⑦セイタカシギ

絶滅危惧ⅠB類 {EN}



チドリ目 / セイタカシギ科

Himantopus himantopus

セイタカシギ

Black-winged Stilt

背高鷗、丈高鷗
L32cm

ピンク色の細くて長い脚をした、スマートなシギ類。世界中の熱帯から温帯に広く分布する。日本には稀な旅鳥または冬鳥として渡来し、戦前は5回の記録しかなかったが、1960年代以降は観察例がふえてきた。1975年以降は愛知県と千葉県でも繁殖した例がある。

生活 1～数羽で海に近い水田、ハス田、池などに棲息し、稀に干潟に現れる。長い脚をいかして、他のシギ類よりも深い水中で採餌し、水棲昆虫、小魚などの小動物を捕える。時には水中を泳ぐこともある。脚で頭を羽づくろいする時には、翼と体の間から脚を伸ばす、間接頭かき法をとる。繁殖期には水辺に近い草地の地上に営巣し、普通4卵を産む。オス、メスともに抱卵し、日数は22～26日位である。

声 繁殖期には「ケレツ、ケレツ」と鋭く鳴きながら警戒し、飛翔したり、地上にとまっても鳴く。外敵が巣や雛に近よると「ケレツケレツケレツ」と激しく鳴き続ける。非繁殖期には「ヒョッ、ピョッ」という声で鳴くが、あまり鳴くことはない。

見分け方 色彩と体形で見誤ることはない。頭部の羽色は個体変異が大きい。

時期 繁殖地 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

通過・越冬地 1 2 3 4 5 . . . 8 9 10 11 12

ソリハシセイタカシギ *Recurvirostra avocella*, Avocet
ユーラシア大陸の温帯とアフリカの一部で繁殖し、日本には稀な旅鳥または冬鳥として渡来する。1971年に愛知県で初めて記録された。上に大きく反ったくちばしを持ち、それを水中で左右に振って餌をとる。

⑧コクガン

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



ガンカモ目 / ガンカモ科

Branta bernicla

コクガン *

Brent, Brant

黒雁
L61cm W126cm

のどに白い首輪のような模様のある、海に棲むガン類。ユーラシアと北米大陸の北極圏で繁殖し、日本には冬鳥として、主に北日本に渡来するが、少ない。天然記念物。

生活 冬期には波のおだやかな内湾で生活する。日本での定期的渡来地としては宮城県仙台湾、青森県陸奥湾、北海道函館湾があり、毎冬、合計500～750羽前後が越冬している⁵⁶。北海道東部、佐渡島、北九州などでも記録があり、その他の地方にも稀に渡来することがある。小群でいることが多く、常に海上で生活し、夜間も水に浮かんで過ごす。浅瀬で首を水の中に突っ込んだり、時には上半身を水に入れて逆立ちをしながら、アマモ、アオノリなど水中の植物質を食べる。時には、養殖ノリを食べることもある。繁殖地では、ツンドラの地上に営巣し、5～6卵を産むという。日本のガン類は長い間狩猟鳥であったが、個体数の減少が著しいため、1947年にマガン、ヒシクイ以外は狩猟鳥からはずされ、1971年にはようやくマガン、ヒシクイも狩猟鳥からはずされた。

声 冬期、海上で泳いでいるコクガンの群れに接近すると「グルルグルル」という、低い声で鳴きかわしながら移動していく。夏期に北ヨーロッパでは「カッガララ、クワッガララ」というような、少し高い声で鳴いていた。

見分け方 マガモより少し大きめの小形のガンで、全身が黒っぽく、のどに黒の混じった白斑がある。やや似ているシジウカラガンは、のどから頬にはっきりした白斑がある。

時期 1 2 3 4 10 11 12

⑨ トモエガモ

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}

ガンカモ目／ガンカモ科

Anas formosa
トモエガモ
Baikal Teal

巴鴨
L♂43cm ♀38cm W63-72cm



顔に緑と黄色の^斑模様を持った小形の淡水ガモ類。シベリア東部で繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。一般には少ないが、石川県などでは群れが見られる。

生活 越冬地では湖沼、川、池などで生活し、少数の時はコガモの群れに混ざって行動している。習性もコガモと同様で、昼間は安全な水面で休息し、夕方、夜間、早朝などに水辺や水田などで採餌する。本種をはじめマガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモなどマガモ属のカモは、淡水ガモ類と呼ばれ、スズガモのような海ガモ類やウミアイサのようなアイサ類と比べると、水面に浮かぶ時に尾が水面より高く保たれている、採餌する時に全身で潜ることはほとんどない、水面から飛び立つ時に助走しないで垂直に飛び立つなど、多くの点で異なっている。垂直に飛び立てることは、より小さな水面を採餌地や休息地として利用することを可能にしているであろう。

声 あまり鳴き声を聞くことはないが、オスは「グルッグルッ」とか「ゴロッ、ゴロッ」という、つぶやくような低い声で鳴くことがある。メスは「グッ、グッ」と低い声で鳴くという。

見分け方 オスは特徴のある顔の模様ですぐ見分けられる。メスやオスのエクリプスはコガモによく似るが、くちばしのつけ根に白斑がある。翼の上面の模様は、コガモでは翼鏡の前と後に白線があるが、トモエガモでは後縁の白線しかない。

時期 1 2 3 4 10 11 12

⑩ オオワシ

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}

ワシタカ目／ワシタカ科

Haliaeetus pelagicus
オオワシ ★☆
Steller's Sea-Eagle

大鷲, 鳶鷲
L♂88cm ♀102cm
W221-244cm



黄色い大きなくちばしと、くさび形をした長めの尾を持つ黒と白の海ワシ。オホーツク海北部沿岸地方で繁殖し、日本には主に冬鳥として北日本に渡来する。関東以西ではごく稀である。夏期に稀に北海道あたりをうろついている個体がいるらしく、筆者は1977年7月にアオサギのコロニーへ雛を襲いに来た本種の若鳥を見たことがある。天然記念物の指定を受け、保護されている。

生活 海岸や河口、湖沼を生活圏とし、主に大形魚を餌としているが、時には水鳥や中形哺乳類を襲うなど、オジロワシと似た習性を持ち、同様の生活をしている。海ワシ類は一般に、越冬地では明瞭な縄張り意識を持たないらしく、よく群れていて、一定の本木や岩壁に集団でねぐらを構える。産卵は5月だという。

声 常にはあまり鳴かないが、警戒する時には「カッカカッカ」と鋭く鳴き立てる。また、争いの時などには「ガッガッ」とか「キヤッキヤッ」と大声を出すことがある。

見分け方 飛翔中、翼後縁にふくらみがあり、トンボの翅のような形に見える。成鳥は翼前縁と、腰から尾が白いで他種と見間違えることはない。幼鳥は全体に褐色だが、尾は白い部分が多い。オジロワシとは翼や尾の形の違いに加えて、飛翔中でも黄色の大きなくちばしが目立つことで見分けられる。角尾または円尾に見える山ワシ類とは尾の形や色で見分けられる。年齢に応じて、尾→上・下尾筒(腰?)→すね毛(腰?)→翼前縁→顔の順で白くなると想像される。

時期 1 2 3 11 12

⑪オオタカ

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



ワシタカ目／ワシタカ科

Accipiter gentilis

オオタカ ☆

Goshawk

蒼鷹, 大鷹

L♂50cm♀56cm
W106-131cm

顔に顕著な眉斑と黒い眼帯のある大きなタカ。北アフリカおよびユーラシアと北米大陸の亜寒帯から温帯に広く繁殖地を持つ。日本では山陰から近畿以北で繁殖し、留鳥だが、寒くなると高地や寒地のものの一部は低地、暖地へ移動し、秋冬はほぼ全国で見られる。北海道で繁殖するものは別亜種に分類される。ともに特殊鳥類指定。また、シベリア北東部からカムチャツカ半島で繁殖するシロオオタカは、全身汚白色で褐色斑がある別亜種で、1979年と1980年に北海道で記録された。

生活 亜高山(秋冬は低山)から平地の林に棲息するが、しばしば獲物を求めて農耕地や水辺など開けた場所へも出てくる。獲物は主にツグミ級の小鳥、ハト、カモ、シギ、キジなど中～大形の鳥だが、時にはネズミやウサギなどもとる。林内の大木の枝上に枯れ枝を積んで皿形の巣を作り、4月中旬～5月上旬に2～3卵を産む。抱卵日数は37日位、巣立ちまでの日数は約40日である。開けた空間を飛ぶ時は、速いはばたきに滑翔を交えて直線的に飛ぶ。

声 ほとんど鳴かないが、繁殖期には「キッキキキ」と鋭く鳴き続ける。また「クァークァー」と鳴くこともある。なお、オスが「キッキキ」と鳴き、メスは少し太い声で鳴くようである。

見分け方 翼は幅広で短く、尾は長い。背面は青味のある薄墨色で、下面は白っぽく見えるが、翼にも体にも黒い細い横斑が一面にある。尾には黒色帯が4本(尾を広げると5本)ある。若鳥は褐色で、体下面に縦斑がある。

時期	山陰・近畿以北	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	山陽以南	1	2	3	・	・	・	・	・	・	10	11	12

⑫チュウヒ

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



ワシタカ目／ワシタカ科

Circus aeruginosus

チュウヒ

Marsh Harrier

沢鷲

L♂48cm♀58cm
W113-137cm

翼をV字形に保ってアシ原や草原の上を低く飛ぶ細身のタカ類。羽色に変化が多いが、よく見かけるものは腹から下が茶褐色。ユーラシア大陸の亜寒帯南部で繁殖する。日本では北海道と本州中部以北の一部地域で少数が繁殖するが、多くは冬鳥として本州以南に渡来する。

生活 棲息環境や一般習性はハイロチュウヒに似る。チュウヒ類が低空を飛んで獲物を探すのは聴覚をも利かすかららしい。広いアシ原などの地上に小枝やアシの茎を積んで皿形の巣を作り、4月下旬から5月に4～6卵を産む。抱卵日数は約35日、巣立ちまでの日数は37日位。

声 繁殖期以外はほとんど鳴かない。ディスプレイ時にはオスは「ミューア、ミューア」とか「ミューミュー」と鳴く。給餌の時には「クィークィー」とか「キキキキキキ」と鳴くことがある。

見分け方 年齢による羽色変化については不明。腰の白いものが多い。十分年を経た成鳥オスでは翼下面の大部分と腹が白い。頭部から胸には黒か黒褐色の縦斑があり、上面は灰色、雨覆は黒か黒褐色である。筆者の推測では、従来メスといわれてきた、頭部が黄白色で下胸以下が茶褐色、風切が黒のタイプは幼鳥であり、年を経たメスはハイロチュウヒのメスに酷似する。ハイロチュウヒのメスと違う点は、下腹が淡褐色を帯び、翼下面の横帯は細く少し淡色、風切上面は灰色地に黒の横しまがはっきり現れ、尾の横帯も細いなど。腹と下雨覆が茶褐色で上面が年を経たメスと類似するタイプが若鳥か幼年成鳥で、下面の茶褐色は年ごとに消えるか淡くなる。

時期	一般	1	2	3	・	・	・	・	・	・	10	11	12
	繁殖地	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

⑬ハヤブサ

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}

⑭シマクイナ

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}



ワシタカ目／ハヤブサ科

Falco peregrinus

ハヤブサ ☆

Peregrine Falcon

隼

♂ 42cm ♀ 49cm W84~120cm

類に太いひげ状の黒色斑を持ち、上面が薄墨色の猛禽。ユーラシア大陸の大部分と北米大陸の寒帯から亜寒帯、オーストラリアなど世界の広い範囲で繁殖する。日本では北海道から九州で少数が繁殖し、その多くは留鳥だが、冬期に一部は暖地に移る。冬期には国外から渡来した個体も加わって少し数が増す。日本には4亜種が棲息し、すべて特殊鳥類に指定されている。

生活 広い空間で狩りをするため、海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面、広い川原、原野、広い農耕地などを生活域とする。崖の上や見晴らしのよい木や杭などから空間を見張る。鳥が飛んでいるのを認めると飛び立ち、飛翔中の鳥の上空から翼をすばめて急降下し、脚で蹴落とす。捕えた獲物は一定の食事場所の一つへ運んで食べる。獲物はほとんどがヒヨドリ級の中形小鳥、ハト、カモ、シギ、チドリなどの鳥類だが、稀にネズミやウサギを地上で捕えるという。飛翔は速くて、浅いはばたきと短い滑翔を交互に行う。3月下旬～4月に、海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚に直接3～4卵を産む。抱卵日数は30日位、巣立ちまでの日数は40日位である。

声 繁殖期以外はほとんど鳴くことがない。繁殖地では、オスは「キッキキッ」と鋭く鳴き、メスは少し濁った太い声で「ガッガッガッ」とか「ゲゲゲ」と鳴く。警戒時にはオスもメスも激しく鳴き立てて飛び回る。

見分け方 胸幅が広く、腹に成鳥では黒色横斑が密に、幼鳥では黒褐色縦斑がある。ハヤブサ類は翼先の尖った飛翔形を持つが、本種は翼幅が広く、胴が太く見える。

時期 繁殖地 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
越冬地 1 2 3 10 11 12

資料なし

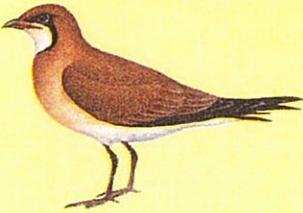
⑮ ツバメチドリ

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}

チドリ目 / ツバメチドリ科

Glaireola maldivarum
ツバメチドリ
Indian Pratincole

燕千鳥
L27cm W56cm



長く先の尖った翼と二股に分かれた尾を持ち、ツバメを大きくしたような形の水鳥。アジアの熱帯から温帯に繁殖地を持ち、従来知られていた日本にもっとも近い繁殖地は台湾である。日本では旅鳥として春秋の稀な記録があるだけだったが、1974年に宮崎県で初めて繁殖が確認され、その後、福岡県、鳥取県、愛知県、静岡県で繁殖が記録された。冬期は南方へ渡去する。

生活 ツバメやアジサシ類に似た体形をした鳥で、長い翼をゆっくりはばたき、滑翔を交えて軽快に飛び回る。飛び方はツバメのように巧みで、急旋回を行い、トンボ、アブなど空中を飛んでいる昆虫を捕える。また地上を歩きながら昆虫をとることもある。日本では川原、埋立地などの草の少ない開けた環境に小コロニーを作って繁殖する。コアジサシが繁殖している所の近くで、巣が発見された例もある。巣は地上を浅く掘り凹め、貝殻、木片などを敷いたもので、2〜3卵を産む。オス、メスともに抱卵し、抱卵日数は18日位である。巣に外敵が近づくと鳴きながら上空を飛び回り、また擬傷行動も見られる。非繁殖期には、1〜数羽が水田、畑、干潟など各地で稀に記録されている。

声 繁殖期に外敵が巣に接近すると、「クリリクリリ」と鳴きながら上空を飛び回る。また、地上から飛び立つ時には「キリッ」とか「クリッ」と鋭く鳴くことがある。鳴き声も習性もコアジサシに似たところがある。

見分け方 体形と色彩の似た種はない。飛んでいる時は白い脛が目立つ。

時期 繁殖地 ・ ・ ・ 4 5 6 7 8 9 10 ・ ・
通過地 ・ ・ ・ 4 5 ・ ・ 8 9 10 ・ ・

⑯ コアジサシ

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}

チドリ目 / カモメ科

Sterna albifrons
コアジサシ
Little Tern

小髯刺
L28cm W53cm



先の黒い黄色いくちほしと黄色い脚を持つ小形のアジサシ類。世界中の熱帯から温帯で広く繁殖する種で、日本では本州以南に夏鳥として渡来し、繁殖する。

生活 繁殖期には広い川や海岸に棲息し、コロニーを作って営巣する。停空飛翔をしてねらいを定め、まっすぐにダイビングして魚を捕える。オスはメスに魚を求愛給餌する習性がある。巣は砂礫地の地面を浅く掘り凹めた簡単なもので、産卵期は4〜7月、卵数は普通2〜3個、抱卵日数は19〜22日位である。埋立地では貝殻の散らばった白っぽい地面に好んで営巣し、巣材として貝殻を少し敷く。孵化した雛はまもなく巣を離れ、草や石の陰を移り移りして生活し、親鳥から給餌を受ける。抱卵、育雛期を通じて、コロニーに入、イヌ、カラスなどが近づくと、多くの個体が激しく鳴きながら上空を飛びかい、侵入者の近くをかすめ飛んで攻撃する。こうした集団防衛の性質が発達しているため、コアジサシのコロニーには、ほかのチドリ類と一緒に営巣することが多く、防衛力の恩恵にあずかっている。繁殖期が終わり、南方へ渡去する前には干潟などで数百羽の大群が見られる。

声  アジサシ類の中では、声はもっともよく聞かれる。繁殖地では「キッキキキキッ」とか「キリリリ、キリリリキリ」などと、鋭く鳴いている。水上を飛びながら餌を探す時には、「キリッ」とか「クリッ」と1声ずつ区切って鳴くことが多い。

見分け方 夏羽では白い眉斑があり、頭上は黒い、くちほしは黄色くて先が黒く、脚も黄色い。

時期 ・ ・ 3 4 5 6 7 8 9 10 ・ ・

⑰コジュリン

絶滅危惧Ⅱ類 {VU}

スズメ目／ホオジロ科

Emberiza yessoensis
コジュリン
Japanese Reed Bunting

小寿林
L15cm W22cm



黒い頭巾をかぶったような頭をした、草原に棲むホオジロ類。本州と九州で繁殖するが、繁殖地は局地的で、青森、秋田、山形、宮城、茨城、千葉、静岡、山梨、長野、熊本各県で記録があるだけである。冬期は暖地に移動する。世界的に見ると、中国東北部から日本にかけての狭い地域で繁殖するだけの貴重な種類である。

生活 東北地方と関東東部では低地の湿原で、中部地方と九州では山地の草原で繁殖する。1966年に発見された茨城県霞ガ浦の棲息地は、アシ原に特に多数の個体が繁殖していることで知られている。この繁殖地では、営巣に適した草地に巣が集中して作られコロニー状となること、コロニーの外に多くの個体が入り出す共同の採餌場所があること、2、3のつがいがいさえずりで確認し合う共同の縄張りを持つことなど、つがい採餌場所を含んだ広い縄張りを持つ⁴⁶長野県霧ガ峰の例とは、多くの点で違った社会構造を持つ。イネ科植物の株の上などに、枯れ茎や葉で碗形の巣を作る。産卵期は6～7月、卵数は2～5個、抱卵日数は12～14日位、巣立ちまでの日数は11～12日位である。冬期は暖地のアシ原で生活する。

声 繁殖期にはアシの茎や葉にとまって「チッチィチチロリ」とか「ピッピーピーリリリ」というさえずりを繰り返して鳴く。ホオジロのさえずりに似るが、歌が短く声量も乏しい。地鳴きは「チッ、チッ」。

見分け方 夏羽のオスは黒い頭でオオジュリンに似るが白い頬線はない。オスの冬羽とメスは、黒い頸線、赤茶色の腰、灰色の小雨覆、縦斑のほとんどない下面が特徴。

時期 繁殖地 ・ ・ ・ 4 5 6 7 8 9 10 ・ ・ ・
越冬地 1 2 3 4 ・ ・ ・ ・ 10 11 12

⑱チュウサギ

準絶滅危惧 {NT}

コウノトリ目／サギ科

Egretta intermedia
チュウサギ ★繁殖地
Intermediate Egret

中鷺
L68cm W114cm



徳島県(シラスギ)

短めのくちばしをした、中形のシラスギ類。アフリカ、アジア、オーストラリアの熱帯から温帯で広く繁殖する。日本には夏鳥として普通に渡来し、本州から九州までの各地で繁殖する。西南日本には稀に残留するものもある。

生活 水田や湿地で生活し、川の流れる中や干潟に出ることは少ない。餌は昆虫、カエル、アメリカザリガニ、魚などだが、昆虫の占める割合がダイサギやコサギよりやや大きい。コサギ、ダイサギ、アマサギ、ゴイサギとともにサギ山で集団繁殖する。チュウサギは、かつては各地のサギ山でもっとも個体数の多い種であったが、徐々に個体数が減り、1970年頃を境にコサギの方が個体数が多くなるという現象が、各地のサギ山で起きている。サギ山は周辺の市街地化によって失われるとともに、近年は周辺住民からの糞害などの苦情によって有害鳥獣駆除の対象とされてしまうケースもでてきており、早急に保護対策が望まれる。チュウサギの巣は他のシラスギ類と同様で、産卵期は4～8月、卵数は3～5個、抱卵日数は23日位、巣立ちまでの日数は25～30日位である。

声 繁殖地では他のシラスギ類とコロニーを作るので、この鳥だけの鳴き声を聞くことは少ない。いつも「ゴワーゴワー」とか「グワグワッ」とやかましく鳴き叫んでいる。雌は「ジェッジェッ」と鳴き続ける。

見分け方 夏羽では、くちばしは黒く目は黄色い。冬羽では、くちばしは黄色く先が黒いことが多い。体の大きさはダイサギとコサギの中間だが、くちばしの長さはコサギより短い。

時期 ・ ・ ・ 4 5 6 7 8 9 10 ・ ・ ・

⑱ マガン

準絶滅危惧 {NT}



ガンカモ目 / ガンカモ科

Anser albifrons

マガン★

White-fronted Goose

真雁

L72cm W138cm

「竿になり鉤になり」の隊列を組んで飛ぶ、太った水鳥。ユーラシアと北米大陸の一部の寒帯で繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。日本では毎年6500～8000羽位が越冬しているが、その大部分は宮城県伊豆沼に棲息し、他に石川県片野鴨池、佐渡島などに少数が渡来する⁵⁶。渡りの時期には、北海道の湖沼でも見られる。1971年に天然記念物に指定された。

生活 ガン類は雌雄同色で、カモ類と違ってつがいの結びつきが強く、一方が死ぬまでつがい関係が維持される。越冬地でもつがいと前年に産まれた数羽の幼鳥からなる家族群を単位として行動し、それが集まって大群を作っている。マガンは昼間は安全な池や沼で休息し、早朝などに広い水田地帯へ群れて飛来し、地上を歩きながら主にイネの落ち穂、マコモの実などの植物質の餌を食べる。伊豆沼では、積雪の少ない年は冬中そこに留まり、多い年にはさらに南方へ分散移動するらしく、越冬期の個体数が少なくなる⁵⁷。

見分け方 くちばしはピンクまたはオレンジ色で、成鳥では基部に白色部がある。脚は橙色である。

声 「クワハハン、クワハハン」といった少し甲高い声で飛翔中によく鳴くが、上空を編隊で飛ぶ時には時々鳴くだけで、飛びたつ時が一番盛んである。またねぐらにする沼では、ほとんど一晩中鳴き声が聞こえる。

時期 1 2 3 10 11 12

カリガネ *A. erythropus*, Lesser White-fronted Goose
マガンによく似るが、やや小形のガン類で、マガンの群れに混ざって稀に観察される。成鳥ではくちばし基部の白色が頭頂にまで達し、目の周囲に黄色い輪がある。

⑳ ミサゴ

準絶滅危惧 {NT}



ワシタカ目 / ワシタカ科

Pandion haliaetus

ミサゴ

Osprey

鵟, 雌鳩

L♂55cm ♀64cm
W157-174cm

翼が細長くて尾が短い、下面の白っぽい大きなタカ。ユーラシアと北米大陸の亜寒帯からアフリカ大陸北部、亜熱帯に広く繁殖地を持つ。日本では北海道から沖縄で繁殖し、留鳥だが、冬期に海の氷結する地域のものとは氷結しない地域へ南下する。

生活 海岸、大きな川、湖などに棲み、よく水面上を高く飛びながら魚を探している。獲物を見つけると停空飛翔でねらいをつけ、頭を下げて脚を前に突き出した体勢で水に突っ込む。捕えた魚は岩や杭の上、木の枝など一定の食事場所へ運んで食べる。前後自在に開く外側の足指でしっかり魚をつかまえる。足指をおおうろこは滑りどめになり、密生した羽毛は水を通しにくくしている。人気のない海岸の岩の上や岩棚、水辺に近い大きな木の上に枯れ枝を積んで皿形の巣を作り、4月頃2～3卵を産む。抱卵日数は35日位、巣立ちまでの日数は50日位。

声 繁殖期以外は、ほとんど鳴くことがない。繁殖期には上空を飛びながら「ビョッビョッビョッ」とやさしい声で鳴くことがある。また、巣に舞い降りる時にも「ビョッ、ビョッ」と大きな声を出す。そのほか、警戒する時には「キッ、キッ」と鳴くという。

見分け方 頭と下面が白く、黒い眼帯がある。背面は暗褐色。たまただ翼の先が尾を少し超える。腹や翼下面の一部が白いワシタカ類のうち、クマタカ若鳥は翼幅が広くて尾が長く、カムリワシ若鳥は翼幅が広くて翼全体に丸味がある。チュウヒ類オスは尾が長く、翼を浅いV字形に保ってアシ原や草地の上を低く飛ぶことが多い。

時期 極寒地 4 5 6 7 8 9 10 11 12
暖地 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

②1 ハチクマ

準絶滅危惧 {NT}

ワシタカ目／ワシタカ科

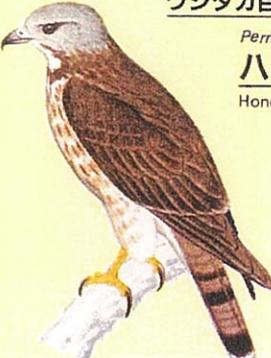
Pernis apivorus

ハチクマ

Honey Buzzard

蜂角鷹

L♂57cm ♀61cm
W121~135cm



飛翔中、頭部がペン先のように細長く突出する、翼の非常に長いタカ。ユーラシア大陸の亜寒帯から温帯と、インドから東南アジアにかけて広く繁殖地を持つ。日本では、夏鳥として渡来後、通常本州以北で繁殖する。東南アジアで越冬する。

生活 低山や丘陵の林に棲み、ハチの幼虫やさなぎを好んで食べるが、カエルやヘビもとる。地中にある地バチの巣を見つける特技には感心する。持ち前の丈夫な脚でそれを掘り起こすという。密生した羽毛と脚をおおうのがハチの攻撃から身を守る。また、ハチの毒に対する免疫を持っているともいわれる。稀に停空飛翔をする。両翼を上へ伸ばして重ねたまま急降下し、はばたきで急上昇することを繰り返すディスプレイ飛翔が、時折見られる。低山帯の大木の枝に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作り、6月頃に通例2卵を産む。抱卵日数は30日位、巣立ちまでの日数は40日位である。渡りの時期には市街地や海岸の上空でも見かけることがある。

声 繁殖期には巣の近くで「ビィヨー」と大きな声をよく出す。また、繁殖期が終わった9月頃に2~5羽位の群れとなって、上空を帆翔しながら「ビィヨ、ビィヨー」と鳴きかわしているのが、しばしば観察される。オスとメス、あるいは家族連れのように思われる。

見分け方 観察した限りでは、オスは顔が灰色で目が黒く、メスは顔が褐色で目が黄色だった。下面の色も模様も個体差が大きいが、翼が初列風切まで十分幅広くて長いこと、翼前縁から突出する頭部が細長いことは本種のきわ立った特徴である。

時期 5 6 7 8 9 10 . . .

②2 ハイタカ

準絶滅危惧 {NT}

ワシタカ目／ワシタカ科

Accipiter nisus

ハイタカ

Sparrow Hawk

鶺鴒, 灰鷹

L♂32cm ♀39cm W61~79cm



白い肩斑と黒い眼帯を持ち、飛翔姿がツミにそっくりの小さなタカ。ユーラシア大陸の温帯から亜寒帯に広く繁殖地を持つ。日本でも本州以北で繁殖し、留鳥だが一部は冬期に暖地へ移動する。ハイタカ(ハシタカの古便変化)は元来メスにあてた名で、体色の異なるオスはコイリ(兎鷲)といいた。

生活 亜高山から平地の林に棲み、林内、林縁の耕地や草地などで獲物をとる。秋冬には海岸近くの農耕地まで出てくることもある。主にツツミ位までの小鳥を狩るが、ネズミやリスなどを捕えることもある。オオタカ、ツミなどのハイタカ属の鳥は皆、空中か地上で獲物を背後や側面から襲う。翼が幅広く短いため急減速、急旋回を自在にこなし、林内でも獲物を追って敏捷に飛び回ることができる。開けた空間では、はばたきと滑翔を交互に繰り返して直線的に飛ぶ。輪を描くように高空を帆翔することもある。このような帆翔はワシタカ類すべてが行う。主に針葉樹の葉が密生した枝上に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作り、5月頃に3~5卵を産む。抱卵日数は33日位、巣立ちまでの日数は30日位である。

声 ほとんど鳴くことがないが、繁殖期にはよく鳴く。オスもメスも「キィキィキィ」とか「キョキョキョ」という声で鳴き立てる。オスもメスもよく似た声だが、オスの方が少し細い声である。なお、求愛給餌の時には「ビュービュー」というやさしい声を出す。

見分け方 オスは腹面に橙褐色の横しまがあり、メスの腹面の暗褐色の横しまは細かい。幼鳥は胸に太い三日月形横斑がある。オオタカはずっと大きい。翼先の突出先割れは6枚で、外側から4枚目と5枚目が最長に見える。

時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

②③ オオジシギ

準絶滅危惧 {NT}

②④ アカモズ

準絶滅危惧 {NT}

チドリ目 / シギ科

Gallinago hardwickii
オオジシギ
Latham's Snipe



大地鷸
L30cm W49cm

繁殖期には尾羽で大きな音を立てて急降下し、雷シギの名を持つ中形のシギ類。北海道と本州中部以北、国外ではサハリン南部だけで繁殖する狭い分布域を持ち、冬はオーストラリアに渡る。

生活 繁殖期には、北海道では草原、牧場、湿原などで普通に見られるが、本州では高原に局地的に棲息するだけで、富士山山麓の高原が繁殖地の南限である。巣は地上に作られ、卵数は普通4個でメスが抱卵するらしいが、詳しい繁殖生態は調べられていない。渡りの時期には水田、川岸など内陸の草の生えた湿地でタシギなどに混ざって見られ、長いくちばしを泥の中に突きさして小動物を捕える。

声  繁殖期には「ジェップ、ジェップ」と鳴き続けながら上空を飛び回り、鳴き声が「ズビツズビツズビャーク」と変わると尾を広げて急降下を始める。この時、外側の固い尾羽が風を切り、「ゴゴゴゴ」という羽音を出す。そして「スピー、スピー」と鳴きながら舞い上がっていく。電柱や杭の上で「ジェプー」と鳴くこともある。飛び立つ時、「グェッ」という太い濁った声を出す。

見分け方 タシギより大きく、全体に淡色で、下雨覆には一面に黒斑があって黒っぽく見え、重そうに飛ぶ。

時期 繁殖地 . . . 4 5 6 7 8 9 . . .
通過地 . . . 4 5 . . . 8 9 10 . . .

チュウジシギ *G. megala*, Swinhoe's Snipe シベリアのバイカル湖周辺の狭い地域で繁殖し、日本には旅鳥として渡来する。オオジシギよりやや小さく、尾羽の枚数が20~22枚あり、16~18枚のオオジシギとは異なっているが、野外での識別は困難である。

スズメ目 / モズ科

Lanius cristatus
アカモズ
Brown Shrike



赤百舌, 赤鶇
L20cm W27cm

背の赤茶色と白い腹のコントラストがきれいなモズ類。アジア東部で広く繁殖し、冬期はインドや東南アジアに移動する。日本へは夏鳥として渡来し、北海道と本州で繁殖するが本州西部では稀。九州では、1970年に鹿児島県で別亜種シマアカモズが繁殖しているのが記録され、それ以降、熊本県などで毎年のように繁殖が観察されている。

生活 平地から山地のアカマツ林、カラマツ林のような明るい林や、まばらに木の生えた草原に棲息する。採餌習性はモズとよく似ているが、モズよりも空中を飛んでいる昆虫や葉上の昆虫を捕える割合が多い。つがいで縄張りを持ち、5月上旬頃、南から渡ってきたオスはモズより低い声で鳴いて縄張りを宣言する。巣は樹枝上に作られ、枯れ草や細根を材料に碗形をしている。モズと同様、巣材にビニールひもなどの人工物を使うことも多い。産卵期は5~6月、卵数は4~7個、抱卵日数は14~17日位、巣立ちまでの日数は14~15日位である。攻撃性が強く、縄張りに侵入するものは同種の鳥のほか、オナガ、ヒヨドリなども追い出すという。体を縦にしてとまり、尾をゆっくり回すのは、他のモズ類と共通した習性である。

声  木の梢や枝先にとまって、「ギチ、ギチ、ギチ」とか「ジュンジュンジュン」という、濁った声で鳴く。モズより低い声で、オスもメスも似たような声である。

見分け方 白い顔とそれに続く白く太い眉斑、白っぽい下面で他のモズ類と識別できる。シマアカモズは背面が灰色。

時期 5 6 7 8 9

②⑤ ノジコ

準絶滅危惧 {NT}

②⑥ ウズラ

情報不足 {DD}

スズメ目／ホオジロ科

Emberiza sulphurata
ノジコ
Japanese Yellow Bunting

野鶉, 野路子
L14cm W21cm



目の周りが白く、黄緑色をした日本特有のホオジロ類。本州の主として中部地方以北の山地で局地的に繁殖し、西部では兵庫県での繁殖記録がある。北海道の繁殖例もあるというが確証はない。冬期は台湾やフィリピンに渡るが、西南日本に留まるものもいるという。

生活 繁殖期には標高1000m以下の山地の、湿地のハンノキ林などの落葉広葉樹林やカラマツ林などでやぶのある明るい林に棲息する。繁殖地に現れた直後のオスは小群で生活しているが、やがてつがいで生活するようになる。オスは低木の頂や高木の枝先でさえずる。やぶ陰の地上をはね歩きながら餌を探し、繁殖期には主にガの幼虫などの昆虫類を食べている。地上の草の根元や低木の枝の上にイネ科植物の茎などで椀形の巣を作る。産卵期は5～7月、卵数は普通3～4個、抱卵日数は14日位、巣立ちまでの日数は7～8日位である。巣立った雛はその後もしばらく親の給餌を受ける。

声 繁殖期には「チョッ、チョッ、チョッピーチョロリリ」とか「チョン、チョン、チーチョッピー」と聞かれるさえずりを繰り返して歌う。アオジのさえずりに似るが、甘味のある上品な美声で、鳴き始めの「チョッ、チョッ」とか「チョン、チョン」という声に特徴がある。地鳴きは「チッ」という細い声である。

見分け方 灰緑色の背面と黄色い下面、目の周りの白、2本の白色翼帯が特徴。

時期 . . . 4 5 6 7 8 9 10 . . .

シマノジコ *E.rutila*, Chestnut Bunting ウスリーを中心とした地域で繁殖し、日本には稀な旅鳥として渡来する。上面から胸が栗色で下面は黄色い。

キジ目／キジ科

Coturnix coturnix
ウズラ
Common Quail

鶉
L20cm W30cm



斑模様を持った、丸っこい体つきの小さなキジ類。ユーラシア大陸とアフリカの温帯を中心に広く繁殖する。

日本では主に本州中部以北で繁殖し、対馬でも繁殖記録がある。冬期は関東地方以西の積雪の少ない暖地で越冬する。キジ科の鳥としては距離の長い渡りをする種である。家禽として、卵や肉をとるためによく飼育される。

生活 草丈の低い草原に棲む鳥で、牧場、農耕地などにも棲息する。人が近づいても草の根元にじっと身を伏せており、至近距離になった時、ブルと羽音を残して飛び立つことが多い。体色も枯れ草色で発見しづらく、じっくり観察する機会の少ない鳥である。地上を歩きながら餌をとり、いろいろな草の実や穀類を好んで食べる。昆虫、クモなどの動物質の餌もとる。繁殖期にはつがいで生活し、オスは大きな声で鳴いて縄張りを宣言する。地面を浅く掘り凹めて巣とし、枯れ草を敷いた上に7～12卵を産む。産卵期は5～9月で、抱卵日数は16～21日位である。雛は綿羽が乾くと巣を離れ、親鳥と行動をとるにもする。

声 繁殖期には、オスは「グワッグルルル」という大きな声で鳴き立てる。特に朝と夕方によく鳴き、夜間に鳴くこともある。メスは「ピビッ、ピビッ」と鳴く。雛は「ピィ、ピィ、ピィ」とヒヨコに似た声で鳴いていることが多い。

見分け方 コジュケイに比べると全体に二回り小さく、尾が短く赤茶色には見えない。コジュケイの幼鳥にはよく似るが、ウズラは白い眉斑がよく目立つ。

時期 寒地 . . . 4 5 6 7 8 9 10 . . .

暖地 1 2 3 4 10 11 12

②7 カンムリカイツブリ

絶滅のおそれのある地域個体群 {LP}

カイツブリ目／カイツブリ科

Podiceps cristatus
カンムリカイツブリ
Great Crested Grebe



冠鶺鴒, 冠鶺

L56cm W86cm

鋭く尖った白っぽい色のくちばしと長い首を持った、大形のカイツブリ類。ユーラシア大陸の温帯に広く分布するほか、アフリカ、オーストラリアなどに離れた繁殖地を持つ。日本には冬鳥として渡来し、以前は1、2羽が稀に見られるだけだったが、近年渡来数が増加し、数十羽の群れも見られるようになった。また1972年に青森県で初めて繁殖が記録された。

生活 カイツブリ類ではもっとも大形の種類で、四季を通じて湖や沼に棲息する。越冬期には内湾の海上にも現れる。体が大きいだけ潜水時間も長く、最長50秒位潜ることができるという。魚類を好んで食べるほか、イモリやオタマジャクシのような両棲類、昆虫類も餌とし、水草も食べる。繁殖期にはつがい生活し、一定の水面を縄張りとする。オスとメスが向かい合って胸を合わせる形で水上に直立し、水草をくわえて頭を振るペンギンダンスなど、いろいろな興味深い求愛行動をすることで知られている。巣は水草を材料に浮き巣として、あるいは浅瀬に作られ、普通4卵が産み込まれる。

声 夏期、繁殖地の湖沼では「グァーグァー」と濁った声で鳴いたり、「カーカー」といったカラスのような声で鳴く。そのほか「ブーブー」という低い声を出すこともある。しかし、冬期にはほとんど鳴くことはない。

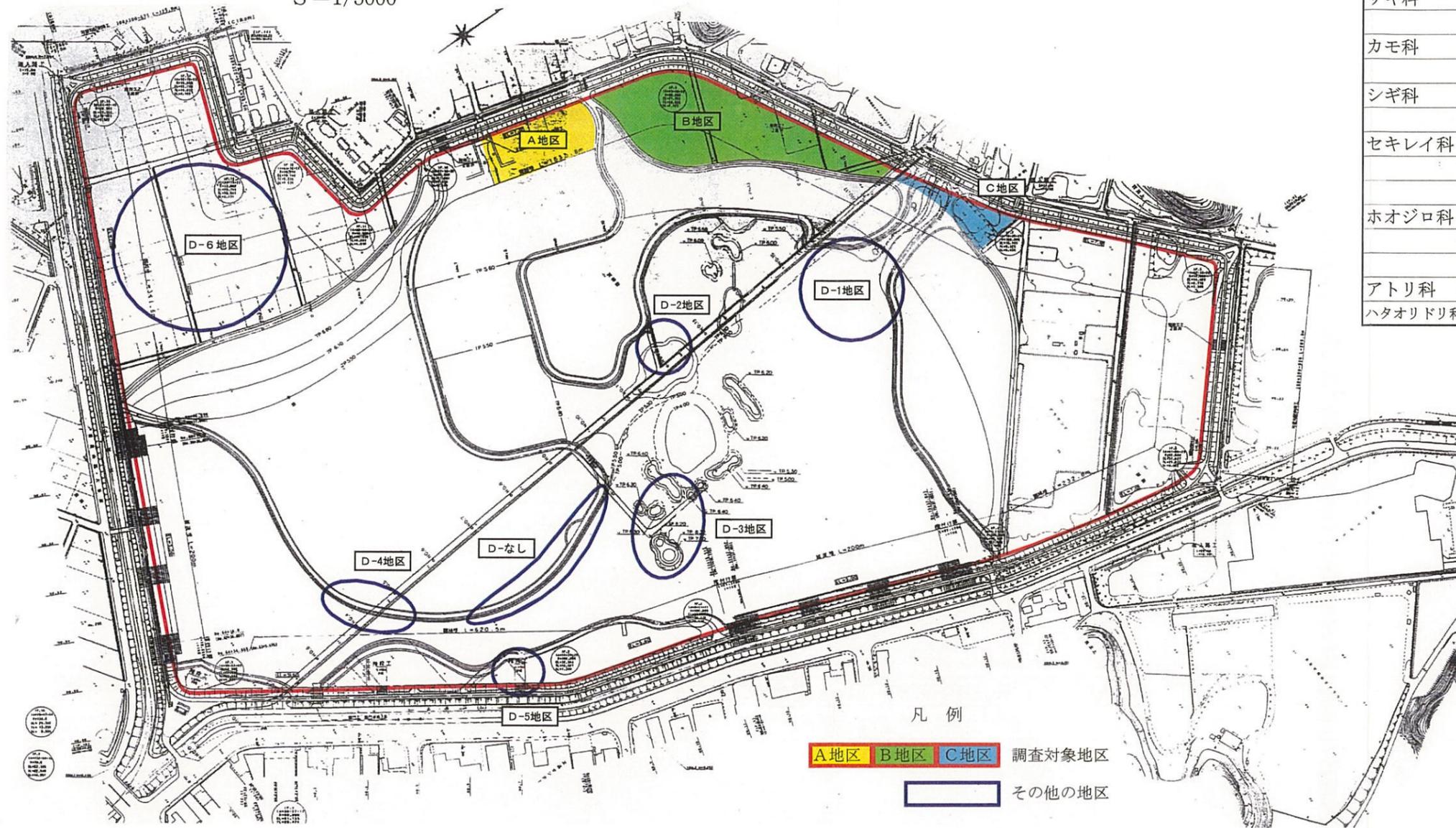
見分け方 大形カイツブリ類は首が長く、頭が角ばった形をしている。アカエリカイツブリと比べると、冬羽では首の前側が白く、目先の黒色部の上に白色部がある。

時期 繁殖地 ・ ・ ・ 4 5 6 7 8 9 10 ・ ・
越冬地 1 2 3 4 ・ ・ ・ 10 11 12

出典：日本の野鳥、山と溪谷社発行

麻機遊水地 (第3工区)
鳥類の生息範囲平面図

S=1/5000



A地区	
科名	種名
サギ科	ダイサギ アオサギ
カモ科	カルガモ コガモ
シギ科	クサシギ タシギ
セキレイ科	タヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ
ホオジロ科	ホオジロ カシラダカ アオジ
アトリ科	カワラヒワ ハタオリドリ科
	スズメ

B地区	
科名	種名
クイナ科	クイナ (夏はヒクイナ)
シギ科	タシギ
ハト科	キジバト
ヒヨドリ科	ヒヨドリ
モズ科	モズ
シジュウカラ科	シジュウカラ
ホオジロ科	ホオジロ カシラダカ アオジ
アトリ科	カワラヒワ
ハタオリドリ科	スズメ

樹木に冬期トラフズクがネグラとして利用する可能性がある

C地区	
科名	種名
キジ科	キジ
フクロウ科	トラフズク
セキレイ科	セキレイ類
ヒヨドリ科	ヒヨドリ
モズ科	モズ
メジロ科	メジロ
ホオジロ科	ホオジロ

樹林ではモズが営巣する可能性がある

凡例

A地区 B地区 C地区 調査対象地区
D-1地区 D-2地区 D-3地区 D-4地区 D-5地区 D-6地区 D-なし その他の地区

D-1地区	
科名	種名
ハト科	キジバト
モズ科	モズ
ホオジロ科	ホオジロ アオジ
アトリ科	カワラヒワ
ハタオリドリ科	スズメ

D-2地区	
科名	種名
ハト科	キジバト
フクロウ科	トラフズク コミミズク オオコノハズク アオバズク フクロウ
ヨタカ科	ヨタカ
ホオジロ科	ホオジロ アオジ

工事前にはフクロウがネグラとして利用していた

D-3地区	
科名	種名
タカ科	オオタカ
キジ科	キジ
ハト科	キジバト

大型鳥類が記録されている

D-4地区	
科名	種名
タカ科	トビ オオタカ ノスリ
カラス科	カラス類

ヤナギにハシブトガラが毎年営巣している

D-5地区	
科名	種名
タカ科	トビ オオタカ
ハト科	キジバト
モズ科	モズ
ホオジロ科	ホオジロ類

D-なし	
科名	種名
キジ科	ウズラ

下草に昨年ウズラが生息していた

D-6地区	
科名	種名
タカ科	トラフズク コミミズク
ヨタカ科	ヨタカ
ホオジロ科	ホオジロ類

トラフズク、コミミズク、ヨタカは秋によく出現していたが現在は記録はない

鳥類既往文献調査表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

文献 No.	文献名	調査者	調査 時期	調査 範囲	調査 項目	調査 方法	一般 公開
1	『多自然型川づくり』 への取り組み	静岡県 静岡土木事務所	1989年12月 1990年8月	巴川水系			
2	平成11年度 〔第11-K2461-01号〕 二級河川巴川（麻機遊水地） 下水道関連特定治水施設 整備（総合治水）工事に 伴う動植物実態調査業務委託	静岡県 〔(財)日本野鳥 の会静岡支部 伴野正志〕	1983年 ～ 2000年	麻機遊水地 周辺		調査記録の 取りまとめ	
3	麻機遊水地周辺の鳥類	〔(財)日本野鳥 の会静岡支部 伴野正志〕	1983年～ 2001年3月	麻機遊水地 周辺			

麻機遊水地周辺の鳥類

(財)日本野鳥の会・静岡支部
伴野正志

1. 麻機の鳥類(1983~2001)

1983年以降、16目43科200種の野鳥が記録されている。

年別の記録種数

年	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
種数	103	116	115	124	113	108	116	112	116
年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
種数	126	136	119	142	123	122	109	116	109
年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
種数	65								

(2001年は3月現在)

2. 環境別

生息する環境別に麻機の鳥類を分類すると、下記ようになる。

山野の鳥：110種(55.0%) 水辺の鳥：90種(45.0%)

因みに日本産鳥類555種では、下記ようになる。

山野の鳥：288種(51.9%) 水辺の鳥：267種(48.1%)

また、第3工区と第4工区では、下記ようになる。

第3工区：138種(69.0%) 第4工区：153種(76.5%)

3. 渡りによる分類

夏鳥、冬鳥のように渡りによる分類をすると下記ようになる。

留鳥(周年生息)：28種(14.0%) ----- カルガモ、ケリ、キジバト、スズメ、ムクドリ など

夏鳥：10種(5.0%) ----- コチドリ、コアジサシ、ツバメ、オオヨシキリ など

冬鳥(漂鳥を含む)：54種(27.0%) ----- マガモ、コガモ、ノスリ、タゲリ、タンギ、ツグミ など

旅鳥(通過)：66種(33.0%) ----- 麻機地区における旅鳥(ヒタキ・アマツバメなどを含む)

不明(迷鳥)：42種(21.0%) ----- 現時点の出現状況では渡りの分類ができない種(ヤマガラなど)

4. 日本版レッドデータブック(環境庁編)に掲載されている絶滅危惧種など(下記に麻機で記録された鳥類26種を示す)

絶滅危惧IA類(EX)：コウノトリ、コシヤクシギ(2種)

絶滅危惧IB類(EN)：サンカノゴイ、オオヨシゴイ、クマタカ、イヌワシ
セイタカシギ(5種)

絶滅危惧II類(VU)：コクガン、トモエガモ、オオワシ、オオタカ、チュウヒ、
ハヤブサ、シマクイナ、ツバメチドリ、コアジサシ、
コジュリン(10種)

準絶滅危惧(NT)：チュウサギ、マガン、ミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、
オオジシギ、アカモズ、ノジコ(8種)

情報不足(DD)：ウズラ(1種)

5. その他、麻機における稀少鳥・迷鳥などの記録

アカエリカイツブリ、アカガシラサギ、ムラサキサギ、アメリカヒドリ、
コチョウゲンボウ、ヒメクイナ、シロハラクイナ、ツルクイナ、レンカク、

- ハジロコチドリ、アメリカウズラシギ、チュウジシギ、クロハラアジサシ、ヤツガシラ、ツメナガセキレイ、ツリスガラ、コホオアカ などの記録がある
6. 繁殖している(または環境から見て繁殖していると思われる)鳥類
留鳥・夏鳥のあわせて38種の内、32種の鳥類が繁殖または繁殖していると思われる。

- 繁殖が確認された鳥類(29種) ----- 巣・卵・雛を確認している種
カイツブリ、ヨシゴイ、カルガモ、チョウゲンボウ キジ、ヒクイナ、バン
オオバン タマシギ、ケリ、コチドリ、キジバト、ヒメアマツバメ、カワセミ
ヒバリ ツバメ、コシアカツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ
セグロセキレイ モズ オオヨシキリ セッカ、メジロ、カワラヒワ、スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
- 繁殖していると思われる鳥類(3種)
ヒヨドリ、コヨシキリ、シジュウカラ
- 遊水地内(第4工区)で繁殖している鳥類(11種)
カイツブリ、ヨシゴイ、カルガモ、キジ、バン、オオバン、コチドリ、モズ
オオヨシキリ、セッカ、ハシボソガラス

7. 最近10年間で増えている鳥、減っている鳥

増加傾向にある鳥：カワウ、ダイサギ、アオサギ、カモ類、バン、オオバン、
キジバト、モズ、ムクドリ、カラス類 など。

減少傾向にある鳥：ヨシゴイ、コサギ、クイナ、ヒクイナ、タマシギ、コチドリ
シギ類(タシギなど) コアジサシ、ヒバリ、タヒバリ、ツグミ
オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ類(カシラダカ) など

8. 遊水地を主な生息地としている鳥類

カイツブリ科、ウ科、サギ科、カモ科、クイナ科、カモメ科、カワセミ科など。
遊水地が干潟状になった時には、シギ・チドリ類も多数利用する。

9. 遊水地の利用状況と必要性

繁殖、越冬、採餌、峙、休息の要素を重なり合って利用していると思われる。中でも、カモ類(20種)の越冬地として約1000羽が毎冬飛来している。また、コサギツバメ等が峙として利用している。遊水地内で繁殖している鳥類については前述の通りである。

静岡市内には池沼が少なく、開水面約80haの麻機遊水地は野鳥に限らず重要な水辺といえる。因みにトンボ類は42種を確認している。

10. 日本野鳥の会静岡支部と麻機遊水地との関わり

- 年2回、一般公募の探鳥会を開催(5月・11月)
- 毎月定例の麻機探鳥会を開催している(3月までに150回の実績がある)
- 1985年10月27日に遊水地周辺の清掃を目的とした探鳥会を実施。
- 1986年より毎年10月に行われる有害鳥獣駆除に対し中止申し入れ及び、安全面から銃器使用の自粛の申し入れ等を農林事務所に文書にて行った。
- 野鳥観察の普及のため、支部オリジナルの野鳥看板を設置(1989年)
- 公民館等主催の観察会の探鳥指導を随時行っている。
- 毎年1月15日にガンカモハクチョウ類カウント調査を遊水地で実施。
- 支部会員による、麻機の鳥類調査(1983年より、現在19年目)

（財）日本野鳥の会・静岡支部 (TEL & FAX 054-208-5466)
〒420-0816 静岡市沓谷五丁目4-2 三保建築設計事務所2F

鳥類経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	種名	調査	文献調査			
		麻機遊水地第3工区 1983年～2001年3月	文献1		文献2	文献3
			1989年2月	1992年7月	1983年～2000年2月	1983～2001年3月
1	カイツブリ	●	▲	▲	▲	▲
2	ハジロカイツブリ		▲	▲	▲	▲
3	アカエリカイツブリ				▲	▲
4	カンムリカイツブリ		▲	▲	▲	▲
5	カワウ	●		▲	▲	▲
6	ウミウ		▲			
7	ウsp.			▲		
8	サンカノゴイ	●			▲	▲
9	ヨシゴイ	●	▲	▲	▲	▲
10	オオヨシゴイ		▲		▲	▲
11	ゴイサギ	●	▲	▲	▲	▲
12	ササゴイ	●	▲	▲	▲	▲
13	アカガシラサギ	●	▲	▲	▲	▲
14	アマサギ	●	▲	▲	▲	▲
15	ダイサギ	●	▲	▲	▲	▲
16	チュウサギ	●	▲	▲	▲	▲
17	コサギ	●	▲	▲	▲	▲
18	アオサギ	●	▲	▲	▲	▲
19	ムラサキサギ				▲	▲
20	コウノトリ				▲	▲
21	コクガン					▲
22	カナダガン				▲	▲
23	マガン		▲		▲	▲
24	コブハクチョウ				▲	▲
25	コハクチョウ	●			▲	▲
26	オシドリ	●	▲	▲	▲	▲
27	マガモ	●		▲	▲	▲
28	アヒル		▲			
29	カルガモ	●	▲	▲	▲	▲
30	コガモ	●	▲	▲	▲	▲
31	アメリカコガモ		▲	▲		
32	トモエガモ	●	▲	▲	▲	▲
33	ヨシガモ	●	▲	▲	▲	▲
34	オカヨシガモ	●	▲	▲	▲	▲
35	ヒドリガモ	●	▲	▲	▲	▲
36	アメリカヒドリ		▲	▲	▲	▲
37	オナガガモ	●	▲	▲	▲	▲
38	シマアジ	●	▲	▲	▲	▲
39	ハシビロガモ	●	▲	▲	▲	▲
40	ホシハジロ	●	▲	▲	▲	▲

鳥類経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	種名	調査	文献調査			
		麻機遊水地第3工区	文献1		文献2	文献3
		1983年～2001年3月	1989年2月	1992年7月	1983年～2000年2月	1983～2001年3月
41	キンクロハジロ	●	▲	▲	▲	▲
42	スズガモ	●	▲	▲	▲	▲
43	ホオジロガモ			▲	▲	▲
44	ミコアイサ		▲	▲	▲	▲
45	カワアイサ			▲	▲	▲
46	カモ雑種		▲			
47	ガンカモsp.		▲			
48	ナキアヒルorアイガモ		▲			
49	マルガモ (マガモ×カルガモ)			▲		
50	ミサゴ	●	▲	▲	▲	▲
51	ハチクマ		▲	▲	▲	▲
52	トビ	●	▲	▲	▲	▲
53	オオワシ				▲	▲
54	オオタカ	●	▲	▲	▲	▲
55	ツミ	●		▲	▲	▲
56	ハイタカ	●	▲	▲	▲	▲
57	ノスリ	●	▲	▲	▲	▲
58	サシバ	●	▲	▲	▲	▲
59	クマタカ		▲		▲	▲
60	イヌワシ		▲		▲	▲
61	ハイイロチュウヒ	●	▲		▲	▲
62	チュウヒ		▲		▲	▲
63	ワシタカsp.		▲			
64	ハヤブサ	●	▲	▲	▲	▲
65	チゴハヤブサ	●			▲	▲
66	コチョウゲンボウ	●	▲	▲	▲	▲
67	チョウゲンボウ	●	▲	▲	▲	▲
68	ウズラ	●	▲	▲	▲	▲
69	コジュケイ	●	▲	▲	▲	▲
70	ニワトリ		▲			
71	キジ	●	▲	▲	▲	▲
72	クイナ	●	▲	▲	▲	▲
73	ヒメクイナ				▲	▲
74	ヒクイナ	●	▲	▲	▲	▲
75	シマクイナ				▲	▲
76	シロハラクイナ	●			▲	▲
77	バン	●	▲	▲	▲	▲
78	ツルクイナ	●	▲		▲	▲
79	オオバン	●	▲	▲	▲	▲
80	レンカク				▲	▲

鳥類経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	種名	調査	文献調査			
		麻機遊水地第3工区	文献1		文献2	文献3
		1983年～2001年3月	1989年2月	1992年7月	1983年～2000年2月	1983～2001年3月
81	タマシギ	●	▲	▲	▲	▲
82	ハジロコチドリ		▲	▲	▲	▲
83	コチドリ	●	▲	▲	▲	▲
84	イカルチドリ	●	▲	▲	▲	▲
85	シロチドリ		▲		▲	▲
86	メダイチドリ		▲	▲	▲	▲
87	ムナグロ	●		▲	▲	▲
88	ケリ	●	▲	▲	▲	▲
89	タゲリ	●	▲	▲	▲	▲
90	キョウジョシギ	●	▲	▲	▲	▲
91	トウネン	●	▲	▲	▲	▲
92	ヒバリシギ	●	▲	▲	▲	▲
93	オジロトウネン	●	▲	▲	▲	▲
94	アメリカウズラシギ		▲	▲	▲	▲
95	ウズラシギ	●	▲	▲	▲	▲
96	ハマシギ	●	▲	▲	▲	▲
97	サルハマシギ		▲	▲	▲	▲
98	エリマキシギ	●	▲	▲	▲	▲
99	ツルシギ	●	▲	▲	▲	▲
100	コアオアシシギ	●	▲	▲	▲	▲
101	アオアシシギ	●	▲	▲	▲	▲
102	クサシギ	●	▲	▲	▲	▲
103	タカブシギ	●	▲	▲	▲	▲
104	キアシシギ	●	▲	▲	▲	▲
105	イソシギ	●	▲	▲	▲	▲
106	ソリハシシギ		▲	▲	▲	▲
107	オグロシギ			▲	▲	▲
108	ダイシャクシギ			▲	▲	▲
109	チュウシャクシギ	●	▲	▲	▲	▲
110	コシャクシギ				▲	▲
111	ヤマシギ	●	▲		▲	▲
112	タシギ	●	▲	▲	▲	▲
113	チュウジシギ	●			▲	▲
114	オオジシギ	●	▲	▲	▲	▲
115	ジシギsp.		▲			
116	セイタカシギ	●	▲		▲	▲
117	アカエリヒレアシシギ		▲	▲	▲	▲
118	ツバメチドリ	●	▲	▲	▲	▲
119	ユリカモメ		▲		▲	▲
120	クロハラアジサシ	●		▲	▲	▲

鳥類経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	種名	調査	文献調査			
		麻機遊水地第3工区	文献1		文献2	文献3
		1983年～2001年3月	1989年2月	1992年7月	1983年～2000年2月	1983～2001年3月
121	ハジロクロハラアジサシ	●	▲	▲	▲	▲
122	アジサシ		▲	▲	▲	▲
123	アカアシアジサシ		▲			
124	コアジサシ	●	▲	▲	▲	▲
125	カワラバト (ドバト)	●	▲		▲	▲
126	キジバト	●	▲	▲	▲	▲
127	アオバト	●	▲		▲	▲
128	オカメインコ		▲		▲	▲
129	セキセイインコ		▲		▲	▲
130	ホンセイインコ				▲	▲
131	ワカケホンセイインコ		▲			
132	ジュウイチ		▲	▲	▲	▲
133	カッコウ	●	▲	▲	▲	▲
134	ツツドリ	●	▲	▲	▲	▲
135	ホトトギス	●	▲	▲	▲	▲
136	ホトトギス属sp.			▲		
137	トラフズク	●			▲	▲
138	コミミズク	●	▲	▲	▲	▲
139	オオコノハズク	●			▲	▲
140	アオバズク	●	▲		▲	▲
141	フクロウ	●			▲	▲
142	ヨタカ	●	▲		▲	▲
143	ハリオアマツバメ	●	▲	▲	▲	▲
144	ヒメアマツバメ	●	▲	▲	▲	▲
145	アマツバメ	●	▲	▲	▲	▲
146	ヤマセミ	●	▲		▲	▲
147	アカショウビン		▲		▲	▲
148	カワセミ	●	▲		▲	▲
149	ヤツガシラ		▲		▲	▲
150	アリスイ	●	▲	▲	▲	▲
151	アオゲラ	●	▲	▲	▲	▲
152	アカゲラ	●			▲	▲
153	コゲラ	●		▲	▲	▲
154	ヒメコウテンシ				▲	▲
155	ヒバリ	●	▲	▲	▲	▲
156	ショウドウツバメ	●	▲	▲	▲	▲
157	ツバメ	●	▲	▲	▲	▲
158	コシアカツバメ	●	▲	▲	▲	▲
159	イワツバメ	●	▲		▲	▲
160	ツメナガセキレイ	●	▲	▲	▲	▲

鳥類経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	種名	調査	文献調査			
		麻機遊水地第3工区 1983年～2001年3月	文献1		文献2	文献3
			1989年2月	1992年7月	1983年～2000年2月	1983～2001年3月
161	キセキレイ	●	▲	▲	▲	▲
162	ハクセキレイ	●	▲	▲	▲	▲
163	ホオジロハクセキレイ		▲			
164	セグロセキレイ	●	▲	▲	▲	▲
165	ビンズイ	●	▲	▲	▲	▲
166	タヒバリ	●	▲	▲	▲	▲
167	ヒヨドリ	●	▲	▲	▲	▲
168	モズ	●	▲	▲	▲	▲
169	アカモズ		▲	▲	▲	▲
170	キレンジャク	●	▲		▲	▲
171	ヒレンジャク	●	▲	▲	▲	▲
172	ノゴマ	●	▲	▲	▲	▲
173	オガワコマドリ				▲	▲
174	ルリビタキ				▲	▲
175	ジョウビタキ	●	▲	▲	▲	▲
176	ノビタキ	●	▲	▲	▲	▲
177	イソヒヨドリ	●	▲		▲	▲
178	トラツグミ	●	▲		▲	▲
179	クロツグミ				▲	▲
180	アカハラ	●	▲	▲	▲	▲
181	シロハラ		▲	▲	▲	▲
182	ツグミ	●	▲	▲	▲	▲
183	ハチジョウツグミ		▲			
184	ソウシチョウ				▲	▲
185	ウグイス	●	▲	▲	▲	▲
186	シマセンニュウ		▲	▲	▲	▲
187	コヨシキリ	●	▲	▲	▲	▲
188	オオヨシキリ	●	▲	▲	▲	▲
189	メボソムシクイ				▲	▲
190	センダイムシクイ			▲	▲	▲
191	セッカ	●	▲	▲	▲	▲
192	コサメビタキ			▲	▲	▲
193	サンコウチョウ		▲	▲	▲	▲
194	エナガ	●	▲		▲	▲
195	ツリスガラ			▲	▲	▲
196	コガラ	●			▲	▲
197	ヤマガラ	●			▲	▲
198	シジュウカラ	●	▲	▲	▲	▲
199	メジロ	●	▲	▲	▲	▲
200	ホオジロ	●	▲	▲	▲	▲

鳥類経年出現状況一覧表

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	種名	調査 麻機遊水地第3工区 1983年～2001年3月	文献調査			
			文献1		文献2	文献3
			1989年2月	1992年7月	1983年～2000年2月	1983～2001年3月
201	コジュリン				▲	▲
202	ホオアカ	●	▲	▲	▲	▲
203	コホオアカ				▲	▲
204	カシラダカ	●	▲	▲	▲	▲
205	ミヤマホオジロ	●			▲	▲
206	ノジコ				▲	▲
207	アオジ	●	▲	▲	▲	▲
208	クロジ	●			▲	▲
209	オオジュリン	●	▲	▲	▲	▲
210	アトリ		▲	▲	▲	▲
211	カワラヒワ	●	▲	▲	▲	▲
212	マヒワ	●			▲	▲
213	ベニマシコ	●			▲	▲
214	コイカル				▲	▲
215	イカル	●	▲	▲	▲	▲
216	シメ	●	▲	▲	▲	▲
217	ベニスズメ		▲		▲	▲
218	ギンバラ		▲		▲	▲
219	ギンバシ				▲	▲
220	キンバラ		▲			
221	ヘキチョウ		▲		▲	▲
222	ジュウシマツ		▲			
223	ブンチョウ		▲		▲	▲
224	テンニンチョウ		▲		▲	▲
225	ニューナイスズメ		▲	▲	▲	▲
226	スズメ	●	▲	▲	▲	▲
227	コムクドリ	●	▲	▲	▲	▲
228	カラムクドリ				▲	▲
229	ムクドリ	●	▲	▲	▲	▲
230	カケス	●	▲	▲	▲	▲
231	オナガ	●	▲		▲	▲
232	ハシボソガラス	●	▲	▲	▲	▲
233	ハシブトガラス	●	▲	▲	▲	▲
確認種数	麻機遊水地第3工区での 確認種 (●)	149	0	0	0	0
	麻機遊水地周辺での確認種 (第3工区含む) (▲)	0	178	148	214	215
	麻機遊水地内かどうか 確定不能 (■)	0	0	0	0	0
	総合計	149	178	148	214	215

鳥類出現種目録

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	目名	科名	種名	学名	夜間
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	
2	ペリカン目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	
3	コウノトリ目	サギ科	サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>	
4			ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	
5			ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	
6			ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>	
7			アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>	
8			アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>	
9			ダイサギ	<i>Egretta alba</i>	
10			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	
11			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	
12			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	
13	カモ目	カモ科	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	
14			オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	
15			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	
16			カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	
17			コガモ	<i>Anas crecca</i>	
18			トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	
19			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	
20			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	
21			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	
22			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	
23			シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	
24			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	
25			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	
26			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	
27			スズガモ	<i>Aythya marila</i>	
28	タカ目	タカ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	
29			トビ	<i>Milvus migrans</i>	
30			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	
31			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	
32			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	
33			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	
34			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	
35			ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>	
36		ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	
37			チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	
38			コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	
39			チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	
40	キジ目	キジ科	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>	
41			コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica</i>	
42			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	

鳥類出現種目録

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	目名	科名	種名	学名	夜間
43	ツル目	クイナ科	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	
44			ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	
45			シロハラクイナ	<i>Amaurornis phoenicurus</i>	
46			バン	<i>Gallinula chloropus</i>	
47			ツルクイナ	<i>Gallicrex cinerea</i>	
48			オオバン	<i>Fulica atra</i>	
49	チドリ目	タマシギ科	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	
50		チドリ科	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	
51			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	
52			ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	
53			ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	
54			タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>	
55		シギ科	キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	
56			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	
57			ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>	
58			オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>	
59			ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>	
60			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	
61			エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>	
62			ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	
63			コアオアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>	
64			アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	
65			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	
66			タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	
67			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	
68			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	
69			チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	
70			ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	
71			タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	
72			チュウジシギ	<i>Gallinago megala</i>	
73			オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	
74		セイタカシギ科	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	
75		ツバメチドリ科	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	
76		カモメ科	クロハラアジサシ	<i>Chlidonias hybridus</i>	
77			ハジロクロハラアジサシ	<i>Chlidonias leucopterus</i>	
78			コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	
79	ハト目	ハト科	カワラバト (ドバト)	<i>Columba livia</i>	
80			キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	
81			アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>	
82	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	
83			ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	
84			ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	

鳥類出現種目録

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	目名	科名	種名	学名	夜間
85	フクロウ目	フクロウ科	トラフズク	<i>Asio otus</i>	
86			コミミズク	<i>Asio flammeus</i>	
87			オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>	
88			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	
89			フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	
90	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	
91	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	
92			ヒメアマツバメ	<i>Apus affinis</i>	
93			アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	
94	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	<i>Ceryle lugubris</i>	
95			カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	
96	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	
97			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	
98			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	
99			コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	
100	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	
101		ツバメ科	ショウドウトツバメ	<i>Riparia riparia</i>	
102			ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	
103			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	
104			イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>	
105		セキレイ科	ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	
106			キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	
107			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	
108			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	
109			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	
110			タヒバリ	<i>Anthus apinoletta</i>	
111		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	
112		モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	
113		レンジャク科	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	
114			ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	
115		ツグミ科	ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	
116			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	
117			ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	
118			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	
119			トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	
120			アカハラ	<i>Turdus chrysolus</i>	
121			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	
122		ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	
123			コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	
124			オオヨシキリ	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>	
125			セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	
126		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	

鳥類出現種目録

地建・都道府県名	事務所・部局名	水系名	河川名	調査年度
静岡県	静岡土木事務所河川改良課	巴川	麻機遊水地第3工区	2000

No.	目名	科名	種名	学名	夜間
127	スズメ目	シジュウカラ科	コガラ	<i>Parus montaus</i>	
128			ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	
129			シジュウカラ	<i>Parus major</i>	
130		メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonica</i>	
131		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	
132			ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>	
133			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	
134			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	
135			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	
136			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	
137			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	
138		アトリ科	カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	
139			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	
140			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	
141			イカル	<i>Eophona personata</i>	
142			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	
143		ハタオリドリ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>	
144		ムクドリ科	コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i>	
145			ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	
146		カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	
147			オナガ	<i>Cyanopica cyana</i>	
148			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	
149			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	